

Oracle® Enterprise Performance Management System

Installation and Configuration Troubleshooting Guide

リリース 11.1.2.3

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことにより起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

ドキュメントのアクセシビリティについて	11
第 1 章 はじめに	13
EPM System 製品のトラブルシューティングについて	13
必要な知識	13
第 2 章 トラブルシューティングの基本	15
システムの要件の適合	15
インストールの前提条件の確認	15
リリースの互換性の確認	16
ポートの競合の回避	16
Readme の確認	16
インストール・ガイドの使用方法	16
ログ分析ユーティリティの使用	16
インストールと構成の検証	17
EPM System 診断の使用方法	17
配置レポート	18
Enterprise Manager を使用した Web アプリケーションの監視	19
My Oracle Support の使用方法	19
Ziplogs ユーティリティの使用	19
テクニカル・サポート・リソースへのアクセス	20
第 3 章 EPM System ログの使用方法	21
ログ分析ユーティリティを使用した問題の識別	21
ログ分析ユーティリティの概要	21
前提条件	22
ログ分析ユーティリティ・レポートの場所	23
ログ分析ユーティリティのオプション	23
ログ分析ユーティリティの実行	25
ユーザー・アクティビティの ECID の検索	26
EPM System 製品のロギング・マトリックス	27
ロギング・フォーマット	31
ODL 構成	32

ODL ロギング・レベル	32
ODL 構成ファイル: コンパクト配置	33
ODL 構成ファイル: 標準配置	33
ODL 構成ファイルの変更	34
リモート・ロギングおよびローカル・ロギング	37
リモート・ロギングのバックアップ・ファイル	38
ログ・ローテーション: ODL	38
インストール、構成および診断ログ	38
アプリケーション・サーバー、Web サーバーおよび EPM System プロセス・ログ	42
アップグレード・ログ	43
Foundation Services ログ	44
ライフサイクル管理のログ	47
Essbase ログ	48
Reporting and Analysis ログ	51
Reporting and Analysis Framework ログ	51
Financial Reporting ログ	54
Web Analysis ログ	55
Interactive Reporting ログ	55
Financial Performance Management アプリケーションのログ	57
Planning ログ	57
Financial Management ログ	58
Performance Scorecard ログ	59
Profitability and Cost Management ログ	59
Disclosure Management ログ	60
Financial Close Management ログ	60
SOA Suite サーバー・ログ	60
Strategic Finance ログ	61
データ管理ログ	62
FDM ログ	62
FDMEE ログ	62
Data Relationship Management ログ	63
Central Inventory ログ	63
第 4 章 一般的なヒントと解決策	65
インストールのヒントとトラブルシューティング	65
EPM System インストーラのシャットダウン	66
クライアント・マシン上の EPM System インストーラ・ファイル	66
Oracle HTTP Server	66
プロキシ・サーバレット	67

「製品の選択」パネル	67
Solaris での EPM System インストーラの抽出	68
EPM System インストーラの起動	68
EPM System インストーラのフリーズ	68
「ようこそ」パネルの問題	69
再インストール	69
Oracle Database のインストール中のインストール・エラー	69
アップグレード	70
EPM System コンフィグレータがアップグレード後に起動しない	70
アップグレード後に Essbase Studio カタログが破損する	71
構成のヒントと解決策	71
分散環境	72
Java ヒープ・サイズ	72
製品データベース	72
EPM System コンフィグレータの起動	72
Oracle HTTP Server の構成	72
複数の Web アプリケーション配置でのメモリー不足エラー	73
Shared Services データベースの初回構成	73
クラスタ化された SQL Server 配置への接続	73
JAR ファイルがない	74
構成エラー・メッセージ	74
「構成」タスク・パネル: 表示されない製品	75
非表示タスクの構成エラー	75
「データベース構成」の使用できないオプション	75
リモート配置タイムアウト	75
構成エラーなしのアプリケーション・サーバーの配置の失敗	76
1つのドメインへの Web アプリケーションの移動	76
Windows 統合認証のサポート	77
同時ユーザーのメモリー不足エラー	77
接続の失敗の解決およびサービスの再開	77
デモ用証明書のメッセージ	78
WebLogic 管理コンソールのポートの変更	78
WebSphere の問題	78
統合ソリューション・コンソール実行中の Web アプリケーションの配 置	78
配置中の管理者ユーザーの指定	78
統合ソリューション・コンソールのポート番号の確認	79
統合ソリューション・コンソールの起動	79
サーバーの起動、停止および再起動	79

アプリケーションを再起動	79
EAR ファイルの更新	80
EAR ファイルの再配置	80
プロファイルの削除	80
WebSphere インストールのビット・タイプの確認	81
UNIX 固有の問題	81
TC2000 Solaris での Web アプリケーション起動に時間がかかる	81
AIX での Web サーバー構成の失敗	81
JAR ファイルが見付からない	82
異なる UNIX システムへのインストール	83
JVM を準備しているというエラー・メッセージ	83
Oracle 共通ファイルのインストール	83
第 5 章 Foundation Services	85
Foundation Services アップグレード	85
Foundation Services の起動	86
EPM Workspace	87
ログオンに時間がかかる	87
EPM Workspace に表示されない製品または製品メニュー	88
切り捨てられたメニュー	88
Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の起動	88
Internet Explorer でのアイコンの点滅	89
Internet Explorer で無効のアイコンが白い背景で表示される	89
Mozilla Firefox での空の画面	89
404 エラー・メッセージ	90
パフォーマンスの低下	90
Shared Services	91
リモート診断エージェントの実行	91
Shared Services へのログオン	91
Active Directory の高可用性	92
製品の登録	92
ログオンの失敗後のセキュリティ・ロックアウト	93
ユーザー名内のアスタリスク	93
EPM System 管理者のユーザー名	93
AuditHandler メッセージ	93
監査データの削除および Oracle データベースのテーブルスペース	94
シングル・サインオン	94
Shared Services レジストリの内容と更新	94
ユーザー・ディレクトリとプロビジョニング	95

起動およびアクセスに関する問題	98
製品固有の問題	100
ライフサイクル管理	102
移行のヒント: 名前付け	102
コンパクト配置のメモリー不足エラー	102
環境の比較	102
SSL アプリケーションのフリーズまたは名前の不一致のエラー	103
Shared Services の起動	103
エクスポートの失敗	103
アーティファクト・インポートのライフサイクル管理タイムアウト	103
ライフサイクル管理診断	104
ライフサイクル管理と Reporting and Analysis	105
ライフサイクル管理と Financial Management	106
Performance Management Architect	109
ジョブ添付ファイルが開かない	110
次元サーバー・サービスが起動しない	110
Mcafee HIPS を使用するユーザーの DataSync ページにソースと宛先のリンクが表示されない	110
Financial Management アプリケーションを配置中の ORA エラー	111
インストールの失敗	111
アップグレード後の検証エラー	111
EPM Workspace との統合	112
Performance Management Architect へのログオン	112
ログオン時のセキュリティ権限の問題	113
Oracle Hyperion EPMA サーバー・サービス起動	113
Performance Management Architect タスクの表示	113
ファイル・ジェネレータ	114
Performance Management Architect の次元ライブラリまたはアプリケーション・ライブラリへのアクセス	114
アプリケーションの問題	116
Smart View	116
インストール方法	116
Smart View 共有接続	116
第 6 章 Essbase	117
Essbase メンテナンス・リリース	117
Essbase および Provider Services のアップグレード	118
Essbase ステージング・ツール	118
役割の更新	118
Essbase Studio データベースの構成タスク	119

MaxL からのログイン	119
アップグレード前のセキュリティ・ファイルのバックアップ	120
Essbase クラスタへの接続	120
Essbase サーバーの起動	121
Linux の Essbase の起動	122
Essbase のフェイルオーバーの問題	122
クライアント-サーバーの接続	122
OPMN の再起動	122
起動: ポートの競合	123
Integration Services: OLAP メタデータ・カタログまたは外部データ・ソースへの接続	123
Essbase Studio の起動	124
Essbase Studio ログの削除	124
第 7 章 Reporting and Analysis	125
Reporting and Analysis Framework Web アプリケーションの起動	125
Interactive Reporting Studio	125
Essbase のロード・エラー	125
Oracle Net 接続の失敗	126
Oracle Procedure の処理の失敗	126
フォントが正しく表示されない	126
Reporting Studio	126
Web Analysis	127
Web Analysis の起動	127
SAP BW への接続エラー	127
BEx クエリーが表示されない	127
第 8 章 Financial Performance Management アプリケーション	129
Financial Performance Management アプリケーション・アップグレード	129
Financial Management アプリケーション・アップグレード	129
Planning	130
EPM Workspace に Planning アプリケーションが表示されない	130
Planning および Administration Services	130
パフォーマンスの問題	130
非英語環境での Planning の使用	131
Business Rules	131
Financial Management	133
Financial Management へのアクセス	134
接続の問題	135
インストールに必要な権限	138

大きなデータまたはファイルのロード	138
固定サーバーがユーザーのリダイレクトを試みる	138
EnableServerLocking オプション	138
JRF WebServices Asynchronous サービス	139
Financial Close Management	139
Financial Close Management の一般的なトラブルシューティングのヒント	139
OWSM ロギングの有効化	140
管理対象サーバーのメモリー不足エラー	140
SOA サーバー・ログ内の HumanWorkflow エンジンのエラー	141
Financial Close Management のインストールおよび構成の問題	141
使用できない Bean の警告が繰り返される	146
Financial Close Management スケジュールの実行の問題	147
WebLogic および Logging Last Resource (LLR) データソース	155
Account Reconciliation Management	155
Profitability and Cost Management	157
Profitability and Cost Management 接続タイプを使用した問題の解決	157
Disclosure Management	157
第 9 章 データ管理	159
FDM	159
FDM アップグレード	159
Shared Services への登録	160
Financial Management の構成	160
Oracle クライアント/プロバイダ・データベースの接続	160
データベース・ユーザー ID またはパスワード	160
ユーザー認証	161
一括挿入	161
Active-X コンポーネントのエラー	161
アプリケーション作成時のアクセス・エラー	162
64 ビット Windows での新規 FDM アプリケーションの作成の失敗	162
FDME	163
データ・ロード・プロセスのトラブルシューティングに関する一般的なガイドライン	163
データ・ルールにアクセスできない	163
FDME が EPM Workspace で使用できない	163
Data Relationship Management	164
Web クライアントへのアクセス	164
初期化の失敗	164
JVM 作成エラー	165

無効なクラスパス・ルート	165
Data Relationship Management サーバーの起動	165
アップグレード時のエラー・メッセージ	166
索引	167

ドキュメントのアクセシビリティについて

Oracle のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=docacc> を参照してください。

Access to Oracle Support

Oracle サポート・サービスでは、My Oracle Support を通して電子支援サービスを提供しています。詳細情報は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=info> か、聴覚に障害のあるお客様は <http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc&id=trs> を参照してください。

1

はじめに

この章の内容

EPM System 製品のトラブルシューティングについて	13
必要な知識.....	13

Oracle(R) Technology Network で [Oracle Documentation Library \(http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html\)](http://www.oracle.com/technology/documentation/epm.html)を確認し、このガイドの更新版がないかどうか確認してください。

EPM System 製品のトラブルシューティングについて

このガイドでは、Oracle Enterprise Performance Management System 製品のインストールおよび構成のトラブルシューティングのヒントについて説明します。このガイドには、トラブルシューティングの方法、参照すべき重要なドキュメント、およびログの使用法に関する概要が含まれます。また、Oracle Hyperion Shared Services を使用して、EPM System 製品アプリケーション間でユーザーをプロビジョニングおよび共有する際に遭遇する問題への解決策、および Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace および Oracle Hyperion Reporting and Analysis を使用する際に遭遇する問題への解決策についても説明します。

必要な知識

このガイドは、EPM System 製品をインストール、構成および管理する管理者を対象にしています。前提条件となる知識は次のとおりです:

- セキュリティおよびサーバーの管理スキル
- Windows または UNIX の管理者のスキル
- Web アプリケーション・サーバー管理スキル
- Oracle Internet Directory、LDAP、Microsoft Active Directory などの認証プロバイダを含む組織のセキュリティ・インフラストラクチャおよび SSL の使用に関する十分な理解
- 組織のデータベース環境とサーバー環境に関する十分な理解
- 所属組織のネットワーク環境やポート使用に関する深い理解

2

トラブルシューティングの基本

この章の内容

システムの要件の適合	15
インストールの前提条件の確認	15
Readme の確認.....	16
インストール・ガイドの使用方法	16
ログ分析ユーティリティの使用	16
インストールと構成の検証.....	17
EPM System 診断の使用方法	17
配置レポート.....	18
Enterprise Manager を使用した Web アプリケーションの監視.....	19
My Oracle Support の使用方法	19
Ziplogs ユーティリティの使用.....	19
テクニカル・サポート・リソースへのアクセス	20

注： テクニカル・サポートに連絡する前に、この章に記載されているタスクを実行してください。

システムの要件の適合

EPM System 製品をインストールする前に、ご使用の環境が Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックスで指定されている要件を満たしていることを確認してください。マトリックスは、<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html> にあります。

Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System Installer は、インストールする EPM System コンポーネントの前提条件を環境が満たしているか確認します。EPM System インストーラの「ようこそ」画面には、このような確認の結果の一部が表示されます。

インストールの前提条件の確認

Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Troubleshooting Guide には、正常なインストールの計画に必要な前提条件、デフォルト・ポートおよびその他の情報が含まれます。

リリースの互換性の確認

前のリリースからアップグレードする場合は、現在の環境における EPM System 製品のソフトウェア・バージョンとの互換性があるかどうかを確認することが重要です。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System の動作保証マトリックス(<http://www.oracle.com/technetwork/middleware/ias/downloads/fusion-certification-100350.html>)を参照してください。

ポートの競合の回避

EPM System 製品の構成時に、Web アプリケーションのデフォルトのポート番号が自動的に移入されます。このデフォルト値は、構成時に変更できますが、各ポート番号は一意にする必要があります。ポート使用中やバインド・エラーのようなエラー・メッセージが表示されないようにするには、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide のデフォルトの製品ポート番号のリストを確認してください。

Readme の確認

『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成 Readme』には、すべての EPM System 製品の既知のインストールまたは構成の問題が含まれます。この Readme を確認し、各自の配置に影響する可能性がある最新情報があるかどうかを確認することは非常に重要です。

さらに、EPM System 製品には、各リリースに対する Readme ドキュメントが含まれます。この Readme には、製品のその他の既知の問題および最新情報が含まれます。

インストール・ガイドの使用方法

Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide には、すべての製品のインストールと構成の手順が含まれます。インストールや構成の問題の解決策は、多くの場合、インストール・ガイドで必要な手順をすべて正しく完了したかどうかを確認すると見つかります。

分散環境でのインストールと構成の問題の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の新規配置での EPM System 製品のインストール、および新規配置での EPM System 製品の構成における、分散環境での EPM System 製品のインストールに関する項を参照してください。

ログ分析ユーティリティの使用

ログ分析ユーティリティは、該当するログ・ファイルを分析して EPM System の問題の原因を特定するのに役立つコマンド・ライン・ツールです。このツールではログ・ファイル分析が自動化されるため、システムの問題を特定するために EPM System ログ・ファイルを検索およびスキャンする必要はありません。問題のトラ

ブルシューティングや Oracle サポートへの報告に必要な情報が、このツールを実行すると簡単に入手できます。詳細は、第 3 章「EPM System ログの使用法」を参照してください。

インストールと構成の検証

製品をインストールして構成した後、次のタスクを実行して配置を検証します。

- Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System 診断を使用して、インストールされ、構成されている EPM System コンポーネントのステータスをテストし、問題を診断し、問題解決を支援します。配置されている各マシンで EPM System 診断を実行します。テストの結果は、HTML フォーマットで保存されます。詳細は、17 ページの「EPM System 診断の使用法」を参照してください。
- インストール・ログの例外とエラーを確認し、必要なすべてのコンポーネントが正常にインストールされていることを確認します。
- すべての構成タスクが、次のように正常に完了していることを確認します:
 - Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System コンフィグレータの要約パネルに失敗や警告が表示されていません。
エラー・メッセージが表示される場合、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/config/configtool_summary.log を確認します。
 - EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/config/configtool.log に例外が表示されていない。

詳細は、38 ページの「インストール、構成および診断ログ」を参照してください。

EPM System 診断の使用法

EPM System 診断では、次のテストが実行されます:

- CFG: 構成 - すべての構成タスクが完了したかどうか
- DB: データベース - データベース host:port;databaseName への接続
- EXT: 外部認証 - ネイティブ・ディレクトリ外部認証プロバイダ構成
- HTTP: http - Web サーバー用に構成された全コンポーネントの HTTP コンテキストの可用性
- SSO:
 - Shared Services セキュリティ(ネイティブ・ディレクトリおよび外部ディレクトリ)のステータス
 - Shared Services、タスクフロー、監査、Shared Services Web アプリケーションおよび Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理へのログインの可否

- WEB: Web アプリケーション -host:port における Web アプリケーションの可用性
- 追加製品固有のテスト

EPM System 診断を実行するたびに作成されるレポートには、次の情報が含まれています:

- テストの日付と時刻
- テスト・ステータス: 各テストの成功または失敗
- サービス: 各テストのテスト・タイプ
- テストの説明: 各テストの詳しい説明
- 時間: 各テストの所要時間
- テストの開始時刻
- テストの終了時刻
- テスト時間の合計

EPM System 診断では、すべての EPM System ログの zip ファイル (EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs の zip 圧縮と同等)も生成されます。

▶ EPM System 診断を使用するには:

1 次のいずれかの方法で EPM System 診断を起動します:

- (Windows)
 - EPM_ORACLE_INSTANCE/bin で、validate.bat をダブルクリックします。
 - 「スタート」メニューから、「プログラム」、「Oracle EPM System」、「Foundation Services」、「instanceName」、「EPM System 診断」の順に選択します。
- (UNIX)コンソールから、EPM_ORACLE_INSTANCE/bin に移動して、validate.sh と入力します。

2 結果を表示するには、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/reports に移動して、validation_report_date_time.html を開きます。

3 不合格だったテストの結果を確認し、問題を診断および解決します。

4 EPM System 診断をもう一度実行し、新しいレポートを表示して問題が解決されたことを確認します。

EPM System 診断の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。

配置レポート

EPM System 製品で使用される構成された Web アプリケーション、Web サーバー、データベースおよびすべてのデータ・ディレクトリの情報を提供する配置レポート

トを生成できます。この情報はトラブルシューティングを行う上で有効です。詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の配置レポートの生成に関する項を参照してください。

Enterprise Manager を使用した Web アプリケーションの監視

Oracle Enterprise Manager Fusion Middleware Control は、EPM System とともに自動的に配置されます。これを使用して、EPM System のすべての Java Web アプリケーションをすぐに管理できます。Grid Control を使用するフル・バージョンの Enterprise Manager では、Fusion Middleware Control に機能(メトリックの履歴情報を含む)を追加します。Enterprise Manager Fusion Middleware Control の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Deployment Options Guide を参照してください。

My Oracle Support の使用方法

最新のサポート契約とカスタマ・サポート ID をお持ちの場合は、インストールおよび構成に関する問題の解決に My Oracle Support のナレッジ・ベースの情報を検索できます。また、My Oracle Support を使用して、サービス要求を入力したり、ソフトウェア・リリースやパッチをダウンロードしたり、その他のオンライン・サポート・タスクを行うことができます。

注： インストールや構成の問題についてサービス・リクエスト(SR)を作成する前に、ziplogs ユーティリティを実行します。19 ページの「[Ziplogs ユーティリティの使用](#)」を参照してください。

EPM System インストールで EPM Oracle ホーム・ディレクトリに含まれている Oracle Configuration Manager では、Oracle ソフトウェアのインストールと構成の情報が収集され、My Oracle Support にアップロードされます。Oracle Configuration Manager で収集された情報によって問題を解決する時間が短縮され、My Oracle Support の内容が構成に合ったものになります。

必要に応じてナレッジ・ベース検索のデフォルト・ソースを調整して、Hyperion 製品のドキュメントを含めることをお勧めします。

詳細は、「My Oracle Support」ホーム・ページの「スタート・ガイド」をクリックしてください。

Ziplogs ユーティリティの使用

インストールまたは構成に関する問題のサービス・リクエスト(SR)を作成する前に、EPM_ORACLE_INSTANCE/bin にあるユーティリティ ziplogs.bat (Windows)または ziplogs.sh (UNIX)を実行します。SR を作成する際、スクリプトの出力を添付してください。出力は EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/ziplogs に保存さ

れます。この出力は、ログ、構成ファイル、およびサポートがインストールや構成の問題を解決するのに役立つその他の情報を zip 形式でまとめたものです。

テクニカル・サポート・リソースへのアクセス

EPM System パフォーマンス管理ソリューションを効果的に運用、管理および実行するため、必要なときに技術的な専門知識を得るには、<http://www.oracle.com/support/index.html> で Oracle サポート・サービスに問い合わせてください。

オラクル社は、Oracle サポート・サービスに対して米国内で 1 日 24 時間、週 7 日、専用のテキスト電話(TTY)アクセスを提供しています。TTY サポートの詳細は、800.446.2398 までお電話でお問い合わせください。

3

EPM System ログの使用方法

この章の内容

ログ分析ユーティリティを使用した問題の識別	21
EPM System 製品のロギング・マトリックス	27
ロギング・フォーマット	31
ODL 構成	32
リモート・ロギングおよびローカル・ロギング	37
リモート・ロギングのバックアップ・ファイル	38
ログ・ローテーション: ODL	38
インストール、構成および診断ログ	38
アプリケーション・サーバー、Web サーバーおよび EPM System プロセス・ログ	42
アップグレード・ログ	43
Foundation Services ログ	44
ライフサイクル管理のログ	47
Essbase ログ	48
Reporting and Analysis ログ	51
Financial Performance Management アプリケーションのログ	57
データ管理ログ	62
Central Inventory ログ	63

ログ分析ユーティリティを使用した問題の識別

サブトピック

- ログ分析ユーティリティの概要
- 前提条件
- ログ分析ユーティリティ・レポートの場所
- ログ分析ユーティリティのオプション
- ログ分析ユーティリティの実行
- ユーザー・アクティビティの ECID の検索

ログ分析ユーティリティの概要

ログ分析ユーティリティは、該当するログ・ファイルを分析して EPM System コンポーネントで報告された問題の原因を特定するのに役立つコマンド・ライン・ユー

ティリティです。このユーティリティではログ・ファイル分析が自動化されるため、問題を特定するために EPM System ログ・ファイルを手動で検索およびスキャンする必要はありません。問題のトラブルシューティングや Oracle サポートへの報告に必要な情報が、このユーティリティを実行すると簡単に入手できます。通常、Oracle Hyperion Foundation Services がインストールされているサーバー上で実行され、このユーティリティは EPM System インスタンスの Oracle Hyperion Shared Services Registry で識別される、すべてのサーバー上のログ・ファイルにアクセスして分析します。

ログ分析ユーティリティを使用すると、次を行えます:

- 期間内に発生した EPM System エラーをリストします。システムの問題は、サービス、コンポーネント間の通信エラー、およびユーザー・ディレクトリの通信エラーに関連しています。
- 期間内に発生した機能的な問題をリストします。機能的な問題は EPM System コンポーネント機能に関連しています。たとえば、Oracle Essbase の計算実行中のエラーや、Oracle Hyperion Planning または Oracle Hyperion Financial Management でのフォームのロード・プロセスです。
- EPM System コンポーネント間のユーザー・セッションをトレースするログ・ファイルを介して、実行コンテキスト ID (ECID) をトレースします。ECID は、同じリクエスト実行フローの一部であるイベントを関連付けるために使用される、一意の識別子です。ECID は Oracle 標準の一意の ID です。

前提条件

EPM_ORACLE_INSTANCE/bin (例: Windows サーバーでは C:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1\bin) にアクセスできるユーザーはすべて、ログ分析ユーティリティを実行できます。

- ログ分析ユーティリティを実行中のユーザーには、次のファイルに対する実行権限が必要です:

Windows: EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/loganalysis.bat

LINUX/UNIX: EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/loganalysis.sh

- ログ分析ユーティリティを実行中のユーザーには、EPM System コンポーネントをホストしているすべてのサーバー・マシン上の、MIDDLEWARE_HOME/user_projects 内のファイルおよびディレクトリに対する読取り権限が必要です。ユーザーには、ユーティリティによってレポートが作成されるディレクトリに対する書込み権限も必要です。

ログ・ファイルが MIDDLEWARE_HOME/user_projects 内の場所に格納されていない場合、ユーティリティを実行中のユーザーにはカスタムの場所にあるログ・ファイルの読取り権限が必要です。

- LINUX/UNIX のみ: EPM System コンポーネントをホストしているすべてのサーバー・マシンに対するシンボリック・リンク(ソフト・リンク)が、ユーティリティが実行される元のマシンの MIDDLEWARE_HOME/user_projects ディレクトリに存在する必要があります。

シンボリック・リンクを作成するには、次の ln コマンドを使用します:

```
ln -s
target
symbolic_name_of_target
```

例: ln -s /net/epm_server2/Oracle/Middleware/user_projects
epm_server2

ログ分析ユーティリティ・レポートの場所

ログ分析ユーティリティは、指定したコマンド・オプションに基づいて HTML 形式のレポートを作成し、それを EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/reports (例: Windows サーバーでは C:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1\diagnostics\reports)内に保存します。

一般的に、ログ分析ユーティリティは次のレポート・ネーミング規則を使用します:

```
LogAnalysis_Report_   YYYY_MM_DD_HR_MIN_SEC
.html
```

ログ分析ユーティリティは、一意のレポート名を指定できるコマンド・オプションを備えています。

注: ログ分析ユーティリティ・レポートの内容が文字化けして表示される場合、`-Dfile.encoding=UTF-8` ディレクティブをログ分析ユーティリティ実行可能ファイル(EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/loganalysis.bat または EPM_ORACLE_INSTANCE/bin/loganalysis.sh)から削除して、レポートを再生成します。

ログ分析ユーティリティのオプション

ログ分析ユーティリティを使用するためのオプション:

```
loganalysis [-all | -system | -functional | -m [ERROR | INCIDENT_ERROR
WARNING | NOTIFICATION | TRACE]] [-t [<TIME FROM> <TIME TO>] -tday <days> -thour
<hours> -tmin <minutes>] -ecid <ecid> -s <SEARCH STRING> -d <Offline log files
directory> -f <file with message ids to filter from the report> -maxsize <max report
size in MB>
```

表 1 ログ分析ユーティリティのパラメータ

パラメータ	説明
-h	ヘルプ・ページが表示されます。 例: loganalysis -h
-system	ERROR および INCIDENT_ERROR ログ・メッセージ・タイプが含まれるレポートを生成します。通常は EPM System IT 管理者によって使用されます。 例: loganalysis -system

パラメータ	説明
-functional	<p>タイプ WARNING、NOTIFICATION および TRACE のメッセージが含まれる詳細レポートを生成します。通常は EPM System 機能管理者によって使用されます。</p> <p>例: <code>loganalysis -functional</code></p>
-ecid <ECID>	<p>EPM System のコンポーネント全体で実行されたアクティビティをトレースするレポートを生成します。ECID を引数として取得します。</p> <p>このレポートは EPM System のコンポーネント全体でエラーをトレースするために使用されます。通常は、<code>-all</code>、<code>-system</code> または <code>-functional</code> のオプションを使用してレポートを実行することでエラーを識別した後、エラーの原因となったアクティビティをトレースする場合にこのオプションが使用されます。26 ページの「ユーザー・アクティビティの ECID の検索」を参照してください。</p> <p>注： カレット記号(^)が含まれる ECID は引用符で囲む必要があります。</p> <p>例: <code>loganalysis -ecid "0000Jet8kA6ESOG_Ix5Eif1G^RAF000005"</code></p>
-m <ERROR TYPE>	<p>指定したタイプのメッセージが含まれるレポートを生成します。次のエラー・メッセージ・タイプのいずれかを引数として取得します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ERROR ● INCIDENT_ERROR ● WARNING ● NOTIFICATION ● TRACE <p>例: <code>loganalysis -m ERROR</code></p>
-o <TITLE>	<p>カスタム・レポート・タイトルが含まれるレポートを生成します。レポート・タイトルを、二重引用符で囲んで、引数として取得します。</p> <p>例: <code>loganalysis -m ERROR -o "myError Report"</code> では、<code>myError Report.html</code> というタイトルのレポートが作成され、これにはすべてのログ・ファイルに含まれる ERROR タイプのログ・メッセージが含まれます。必ず、引用符を使用してレポート名を囲んでください。</p>
-s <STRING>	<p>指定された文字列を含むログ・メッセージに関するレポートを生成します。エラー文字列を、二重引用符で囲んで、引数として取得します。</p> <p>例: <code>loganalysis -system -s "Failed to connect to DB" -o "DB Connection Errors"</code> では、<code>DB Connection Errors.html</code> というタイトルのレポートが作成され、これには文字列 <code>Failed to connect to DB</code> が含まれる ERROR および INCIDENT_ERROR タイプのすべてのメッセージがリストされます。</p>
-t <FROM DATE>T<FROM TIME><TO DATE>T<TO TIME>	<p>指定した期間内に生成されたログ・メッセージに関するレポートを生成します。スペースで区切られた"from"時間と"to"時間を、引数として取得します。</p> <p>"from"時間と"to"時間は、24 時間制を使用して YYYY-MM-DDTHOUR:MIN:SEC 形式で指定する必要があります。</p> <p>例: <code>loganalysis -all -t 2012-08-10T12:00:00 2012-08-10T23:59:59 -o "All Messages on August_10_2012"</code> では <code>All Messages on August_10_2012.html</code> が作成され、これには 2012 年 8 月 10 日の午前 0 時から午後 11:59:59 の間に生成されたすべてのログ・メッセージが含まれます。</p>
-tday <DAYS>	<p>指定した日数以内に生成されたログ・メッセージに関するレポートを生成します。数値を引数として取得します。</p> <p>例: <code>loganalysis -ERROR -tday 3 -o "Error Messages for the last three days"</code> では <code>Error Messages for the last three days.html</code> が作成され、これには過去 3 日以内に生成された ERROR タイプのメッセージが含まれます。</p>

パラメータ	説明
-thour <HOURS>	<p>指定した時間数内に生成されたログ・メッセージに関するレポートを生成します。数値を引数として取得します。</p> <p>例: <code>loganalysis -ERROR -thour 6 -o "Error Messages for the last six hours"</code>では <code>Error Messages for the last six hours.html</code> が作成され、これには過去 6 時間以内に生成された <code>ERROR</code> タイプのメッセージが含まれます。</p>
-tmin <MINUTES>	<p>指定した分数内に生成されたログ・メッセージに関するレポートを生成します。数値を引数として取得します。</p> <p>例: <code>loganalysis -ERROR -tmin 45 -o "Error Messages for the last 45 minutes"</code>では <code>Error Messages for the last 45 minutes.html</code> が作成され、これには過去 45 分以内に生成された <code>ERROR</code> タイプのメッセージが含まれます。</p>
-d <DIRECTORY PATHS>	<p>指定したディレクトリ・パスに格納されたログ・ファイルに関するレポートを生成します。EPM System コンポーネントのデフォルトのログ・ファイルの場所に格納されていないログ・ファイル进行分析するには、このオプションを使用します。カンマ区切りの場所のリストを使用して、複数のログの場所を指定できます。ディレクトリ・パスは二重引用符で囲む必要があります。</p> <p>例: <code>loganalysis -m INCIDENT_ERROR -d "c:\logfiles", "z:\OracleLogs", "y:\EPMLogs" "/net/epm_server2/Oracle/Middleware/user_projects" -o "myCustom Analysis Report"</code>では、指定したディレクトリで使用可能なログ・ファイルに含まれるタイプ <code>INCIDENT_ERROR</code> のメッセージをリストする、<code>myCustom Analysis Report</code> というタイトルのレポートが作成されます。</p>
-f <arg>	このリリースでは使用されません(将来の使用のために予約されています)。
-maxsize <arg>	<p>レポート・サイズを増やします。デフォルトのレポート・サイズは 5MB です。</p> <p>例: <code>loganalysis -all -o "Custom Analysis Report" -maxsize 15</code> は、サイズの上限が 15MB のレポートを生成します。レポートは <code>Custom Analysis Report</code> というタイトルが付けられ、すべてのログ・ファイル内のすべてのメッセージが含まれます。</p>
-all	<p>すべてのログ・ファイル内のメッセージをリストするレポートを生成します。このレポートの生成には時間がかかり、サイズの大きいレポート・ファイルが生成される可能性があります。レポート・スコープを制限する他のパラメータを指定せずにこのコマンド・オプションを使用することはお薦めしません。</p> <p>例: <code>loganalysis -all</code></p>

ログ分析ユーティリティの実行

ログ分析ユーティリティはコマンド・ライン・ユーティリティです。

▶ ログ分析ユーティリティを実行するには:

- 1 **Foundation Services** をホストしているサーバー・マシンでコマンド・プロンプトを起動します。

注: **Foundation Services** が LINUX/UNIX サーバーに配置されている場合、EPM System コンポーネントをホストしているすべてのサーバー・マシンに対するシンボリック・リンクが `MIDDLEWARE_HOME/user_projects` ディレクトリに存在していることを確認します。

- 2 `EPM_ORACLE_INSTANCE/bin` (通常、Windows サーバーでは `C:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1\bin`) に移動します。

3 コマンドを実行します。必ず、レポートを生成する適切なコマンド・オプションを指定してください。表 1 を参照してください。

- loganalysis.bat OPTIONS (Windows)
- loganalysis.sh OPTIONS (UNIX/LINUX)

たとえば、"Database Issues_1-21-2013_11AM"というタイトルのレポートを作成するには Windows サーバーで次のようなコマンドを使用します。このレポートには、2012 年 11 月 21 日午前 11 時前後に EPM System コンポーネントがデータベース接続を失う原因となったエラーに関連するメッセージが含まれています:

```
loganalysis -system -t 2013-01-21T11:15:00 2013-01-21T11:20:00 -s "Failed to connect to DB" -o "Database Issues_1-21-2013_11 AM".
```

ユーザー・アクティビティの ECID の検索

ECID は、複数の EPM System コンポーネント間でユーザーのアクティビティを相互に関連付ける一意のシステム生成識別子です。

ユーザーのアクティビティの ECID を検索するには、最初にログ分析ユーティリティ・レポートを生成する必要があります。ログ・メッセージの詳細に含まれる ECID は、次のようになります:

```
0000Jet8kA6ESOG_Ix5Eif1G^RAF000005
```

▶ ユーザー・アクティビティの ECID を特定するには:

- 1 ログ分析ユーティリティを実行し、システム・エラーまたは機能エラーをリストするレポートを生成します。25 ページの「ログ分析ユーティリティの実行」を参照してください。
- 2 EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/reports (例: Windows サーバーでは c:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1\diagnostics\reports) から、生成したレポートを開きます。

Log Analysis Report

- Generated Date: 2013-02-28:11:03:49
- Log Files Scanned: 182 in 267 Sec
- Total Incidents: 5
- Excluded Messages: 1
- Message Type: INCIDENT_ERROR

Log Messages

Date	Component	Message Type	Message Details
2013-02-25 14:03:02	EPMServer0	INCIDENT_ERROR	Server 'EPMServer0' in cluster 'EPMServer' is being brought up in administration state due to failed deployments. Message Level: 4 Message ID: BEA-149259 Module ID: Deployer User ID: <WLS Kernel> Thread ID: [ACTIVE] ExecuteThread: '12' for queue: 'weblogic.kernel.Default (self-tuning)' Host ID: slc01asq LOG_FILE: C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSys\servers\EPMServer0\logs\EPMServer0.log00001 ECID: 0000JoJ9OSDE*MG_jxP5if1HAxDd*000002
2013-02-25 14:11:21	EPMAGENT	INCIDENT_ERROR	No agent is configured from HIT registry , please make sure the registry is confi gured properly Message Level: 1 Module ID: oracle.EPMAGENT.com.oracle.cmc.Agent Thread ID: 10 LOG_FILE: C:\Oracle\Middleware\user_projects\FOUNDATION\diagnostics\logs\ReportingAnalysis\agent.log ECID: 0000JoJCTC2E*MG_jxP5if1HAxDd*000000 RID: 0
2013-02-25 14:17:23	EPMServer0	INCIDENT_ERROR	Server 'EPMServer0' in cluster 'EPMServer' is being brought up in administration state due to failed deployments.

EPM System 製品のロギング・マトリックス

この項の各表では、ロギング・フォーマット、デフォルトのメッセージ・タイプおよびロギング・レベル、ロギング構成ファイルの名前および場所など、ロギングに関する情報を EPM System のツール、コンポーネントおよび製品別に示します。

この項では、ロギング構成ファイルの場所の中でデフォルト・ドメインの EPMSysSystem を使用します。別のドメイン名を使用するよう構成されている環境では、EPMSysSystem ドメインをそのドメイン名に置き換えてください。

この項では、管理サーバーにもデフォルト名を使用しています;たとえば、FoundationServices0 は Foundation Services 管理対象サーバーのデフォルト名です。別の管理対象サーバー名を使用するよう構成されている環境では、デフォルト名をその管理対象サーバー名に置き換えてください。

注: コンパクトな配置のため、ログはすべて MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysSystem/servers/epmsystem0/logs にあります。ロギング構成ファイル(logging.xml)は、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysSystem/config/fmwconfig/servers/epmserver0 にあります。

EPM System 製品のデフォルト・ロギング・レベルは推奨のレベルになっていますが、ほとんどの製品で変更可能です。ODL ロギング・レベルのオプションの詳細は、32 ページの「ODL ロギング・レベル」を参照してください。

表 2 EPM System のインストールおよび構成ロギング・フォーマット

ツール / コンポーネント	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
EPM System インストーラ 38 ページの「インストール、構成および診断ログ」を参照してください。	TRACE	インストーラ・イメージ内の installTool.jar と同じ場所にある installTool-logging.xml
EPM System コンフィグレータ 38 ページの「インストール、構成および診断ログ」を参照してください。	TRACE	EPM_ORACLE_HOME /common/config/11.1.2.0/configTool-logging.xml
EPM System 診断と検証ツール	TRACE	EPM_ORACLE_HOME /common/validation/11.1.2.0/validationTool-logging.xml
EPM System アンインストーラ	TRACE	EPM_ORACLE_HOME /uninstall/uninstall-logging.xml

表 3 Foundation Services のロギング

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Shared Services と EPM Workspace	NOTIFICATION	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/FoundationServices0/logging.xml
Shared Services のライフサイクル管理(コマンド・プロンプト)	NOTIFICATION	EPM_ORACLE_INSTANCE /config/FoundationServices/logging.xml
Essbase のライフサイクル管理	NOTIFICATION	<ul style="list-style-type: none"> ● EPM_ORACLE_INSTANCE/config/FoundationServices/logging.xml - コマンド・ライン・ユーティリティから実行される移行用 ● MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/FoundationServices0/logging.xml - Shared Services から実行される移行用です。
Oracle Hyperion EPM Architect 次元サーバー	NOTIFICATION:32	EPM_ORACLE_INSTANCE /config/EPMA/DimensionServer/logging.xml
Performance Management Architect データ・シンクロナイザ	NOTIFICATION:32	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/EpmaDataSync0/logging.xml
Performance Management Architect Web アプリケーション	NOTIFICATION:32	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/EpmaWebReports0/logging.xml

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Oracle Hyperion Calculation Manager	WARNING	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/CalcMgr0/logging.xml
Oracle Hyperion Smart View for Office	該当せず	Smart View はクライアントサイド・アプリケーション。イベントやエラー、その他の情報が記録されるファイルの名前と場所は、オプションとして Smart View で指定します。Smart View のロギング・オプションの詳細については、Oracle Hyperion Smart View for Office User's Guide を参照してください。

表 4 Essbase のロギング

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Essbase サーバー	TRACE:1	EPM_ORACLE_INSTANCE /EssbaseServer/essbaseserver1/bin/logging.xml
Oracle Essbase Administration Services	WARNING	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/EssbaseAdminServices0/logging.xml
Oracle Hyperion Provider Services	WARNING:1	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/AnalyticProviderServices0/logging.xml
Oracle Essbase Studio	INFO、FINE	EPM_ORACLE_INSTANCE /BPMS/bpms1/bin/logging.xml
Oracle Essbase Integration Services	-L2	ロギングを有効にしてロギング・レベルを設定するには、Integration Services を起動する場合に -L スイッチを使用します。詳細は、Oracle Essbase Integration Services System Administrator's Guide を参照してください。

表 5 Reporting and Analysis のロギング

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework	WARNING:1	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/RaFramework0/logging.xml
Reporting and Analysis Framework サービス	WARNING:1	EPM_ORACLE_INSTANCE /config/ReportingAnalysis/logging/logging_ra.xml
Reporting and Analysis Framework エージェント	WARNING:1	EPM_ORACLE_INSTANCE /config/ReportingAnalysis/logging/logging_agent.xml
Reporting and Analysis Framework ジョブ・ユーティリティのカレンダ・マネージャ用のロギング構成	WARNING:1	EPM_ORACLE_INSTANCE /config/ReportingAnalysis/JobUtilities/logging_ju.xml

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Reporting and Analysis Framework SDK	WARNING:1	EPM_ORACLE_INSTANCE /config/ReportingAnalysis/SDK/logging.xml
Oracle Hyperion Interactive Reporting	WARNING:1	EPM_ORACLE_INSTANCE /config/ReportingAnalysis/logging/logging_ir.xml
Oracle Hyperion Financial Reporting	ERROR:1	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/FinancialReporting0/logging.xml
Financial Reporting 印刷サーバー	NOTIFICATION:32	EPM_ORACLE_HOME /products/financialreporting/lib/printserverlogging.xml
Financial Reporting クライアント	NOTIFICATION:32	FINANCIAL_REPORTING_STUDIO_INSTALL_DIR /products/financialreporting/lib/clientlogging.xml
Oracle Hyperion Web Analysis	WARNING:1	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/fmwconfig/servers/WebAnalysis0/logging.xml

表 6 Financial Performance Management アプリケーションのロギング

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Planning	DEBUG	各 Planning アプリケーション・サーバーのロギング・レベルは、Planning を使用して設定します。57 ページの「Planning ログ」を参照してください。
	NOTIFICATION:32	EPM_ORACLE_HOME /products/Planning/logging/logging.xml
Financial Management	ERROR:1	EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/loggingにある次のファイル: <ul style="list-style-type: none"> ● InteropLogging.xml ● logging.xml
Financial Management Web アプリケーション	NOTIFICATION:32	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/HFMAdfWeb0/logging.xml
Financial Management Web サービス	NOTIFICATION:32	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/FMWebServices0/logging.xml
Oracle Hyperion Performance Scorecard	Warn	EPM_ORACLE_INSTANCE/HPS/hpsfiles/configにある次のファイル: <ul style="list-style-type: none"> ● HPSConfig.properties (Web ユーザー・インタフェース用) ● AlerterConfig.properties (Alerter サーバー用)
Oracle Hyperion Profitability and Cost Management	NOTIFICATION:1	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/config/fmwconfig/servers/Profitability0/logging.xml

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成ファイル
Oracle Hyperion Strategic Finance Server	エラー	ロギング・レベルは、各 Strategic Finance サーバーに設定されます。管理者アプリケーションを使用して、サーバー構成をロギング用に変更します。
Strategic Finance Web アプリケーション	すべて(デフォルトでオフ)	ロギングは、オンにしたときに記録される情報のすべてのレベルでオンまたはオフになります。この設定は Windows レジストリに存在します。
Oracle Hyperion Disclosure Management	INFO	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig/servers/DisclosureManagement0/logging.xml
Oracle Hyperion Financial Close Management(Close Manager および Account Reconciliation Manager を含む)	NOTIFICATION	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig/servers/FinancialClose0/logging.xml

表 7 データ管理製品のロギング

製品	デフォルトのメッセージ・タイプ/ロギング・レベル	ロギング構成
Oracle Hyperion Financial Data Quality Management	DEBUG 注： FDM のロギング・レベルは変更できません	ロード・バランサを構成して、ログオン・エラーのロギングを有効または無効にすることができます。手順については、Oracle Hyperion Financial Data Quality Management Configuration Guide を参照してください。
Oracle Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise Edition	NOTIFICATION	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig/servers/ErpIntegrator0/logging.xml
Oracle Data Relationship Management	該当なし	Data Relationship Management インストーラでロギングを有効にします。Oracle Data Relationship Management Installation Guide。

ロギング・フォーマット

ほとんどの EPM System 製品は、ロギング用に Oracle Diagnostic Logging (ODL) フォーマットを使用します。EPM System インストーラおよび EPM System コンフィグレータによって、すべての製品用の ODL ファイルが作成されます。ODL を使用しない製品では、ODL ファイルは空のままになり、ログは別のフォーマット(通常は log4j)のファイルに書き込まれます。

ODL 構成

サブトピック

- [ODL ロギング・レベル](#)
- [ODL 構成ファイル: コンパクト配置](#)
- [ODL 構成ファイル: 標準配置](#)
- [ODL 構成ファイルの変更](#)

ODL ロギング・フォーマットを使用する各 EPM System 製品には、ロギング構成ファイル `logging.xml` が少なくとも 1 つ存在します。EPM System のコンポーネントには、`loggingCOMPONENT_NAME.xml` というフォーマットの説明的な名前が付けられています。

ロギング構成ファイルは、`log_handlers` および `loggers` の 2 つのセクションで構成されます。`log_handlers` セクションがロガーとそのパラメータを定義する一方、`loggers` セクションはロギング・レベルと使用する `log_handler` を含む詳細を識別します。

指定できる `log_handler` プロパティのリストについては、[表 10](#) を参照してください。

ODL ロギング・レベル

表 8 ODL ロギング・レベル

レベル	説明
INCIDENT_ERROR:1	不明な理由で発生した、重大な問題に関連するメッセージ。問題を解決するには、ユーザーは Oracle サポートに連絡する必要があります。
ERROR:1	システム管理者の即時の対応が必要だが、EPM System コンポーネントの不具合が原因ではない重大な問題に関連するメッセージ
WARNING:1	システム管理者の確認を必要とする潜在的な問題に関連するメッセージ
NOTIFICATION:1	主なサブコンポーネントまたは機能のアクティブ化または非アクティブ化などの重要なライフサイクル・イベントに関連するメッセージ
NOTIFICATION:16	EPM System コンポーネントの通常のイベントに関連するメッセージ
TRACE:1	EPM System コンポーネントのエンド・ユーザーにとって意味のあるイベントのトレースまたはデバッグ・メッセージ
TRACE:16	EPM System コンポーネントの問題を診断するために Oracle サポートが使用できる、詳細なトレースまたはデバッグ・メッセージ
TRACE:32	通常は Oracle Developer がエラーの発生元のソースを特定することを目的としている、非常に詳細なトレースまたはデバッグ・メッセージ

ODL 構成ファイル: コンパクト配置

EPM System のコンパクト配置では、配置されたすべての Web アプリケーションに対して体系的なロギング構成ファイル logging.xml が生成されます。Windows サーバーでこのファイルは通常、C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\config\fmwconfig\servers\EPMServer0 にあります。

ODL 構成ファイル: 標準配置

EPM System の標準配置では、配置された各 Web アプリケーションに対してロギング構成ファイル logging.xml が生成されます。Windows サーバーで、これらのファイルは通常、次のように配置されます:

表 9 標準配置での ODL 構成ファイルの場所

コンポーネント	logging.xml の場所
管理サーバー(Oracle WebLogic Server 管理コンソール、Oracle Web Services Manager、Enterprise Manager)	C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\config\fmwconfig\servers\AdminServer\logging.xml
Provider Services	C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\config\fmwconfig\servers\AnalyticProviderServices0\logging.xml
Calculation Manager	C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\config\fmwconfig\servers\CalcMgr0\logging.xml
EPMA データ・シンクロナイザ	C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\config\fmwconfig\servers\EpmaDataSync0\logging.xml
EPMA Web レポート	C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\servers\EpmaWebreports0
Administration Services	C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\servers\EssbaseAdminServices0
Financial Reporting	C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\servers\FinancialReporting0
Foundation Services	C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\config\fmwconfig\servers\FoundationServices0
Financial Management Web	C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\servers\HFMWeb0
Planning	C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\servers\Planning0
Reporting and Analysis Framework	C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\servers\RaFramework0
Web Analysis	C:\Oracle\Middleware\user_projects\domains\EPMSystem\servers\WebAnalysis0

ODL 構成ファイルの変更

logging.xml で定義されたロガーのプロパティを変更して、記録されるメッセージ・レベルを決定します。デフォルトでは、EPM System コンポーネントの通常のコピーに適切なロギング・レベルは logging.xml で設定されます。追加のログ・ハンドラ・パラメータは、ロギング動作を変更するように設定できます。たとえば、ログ・ハンドラに rotationFrequency パラメータを含めることで、ロギング・ファイルのローテーション頻度を指定できます。全パラメータのリストについては、表 10 を参照してください。

表 10 構成可能な ODL ログ・プロパティ

ログ・プロパティ	説明
path	ログのパス
format	使用するフォーマット 推奨値は ODL-Text です。
maxFileSize	各ログ・ファイルの最大サイズ(バイト) メインのログ・ファイルが指定されたサイズに達すると、ログ・ローテーションがトリガーされます。メインのログ・ファイルがアーカイブされて、新しいログ・ファイルが作成されます。
maxLogSize	ログ全体の最大サイズ(バイト) ログの合計サイズを指定の上限以下に保つために、古いアーカイブ・ファイルは削除されます。
rotationFrequency	ログのローテーションの頻度(分) 値は数値(分)、あるいは hourly、daily、weekly のいずれかです。(この設定は大文字と小文字が区別されません。)
baseRotationTime	時間ベースのログ・ローテーションの基本時間; たとえば、rotationFrequency 設定の基準となります デフォルト: 1970 年 1 月 1 日(UTC) 次のいずれかのフォーマットを使用します: <ul style="list-style-type: none">● HH:mm● yyyy-MM-dd● yyyy-MM-ddT-HH:mm● yyyy-MM-dd-HH:mm:ss.sTZ。TZ はタイムゾーン・インディケータであり、UTC を表す Z、またはグリニッジ標準時からのオフセット(フォーマットは plus_or_minusHH:mmmm)を指定します 注: 時間フォーマットがタイムゾーンを指定しない場合は、ローカル・タイムゾーンが使用されます。
retentionPeriod	ログ・ファイルの保存期間 指定した期間よりも古いファイルは削除されます。ファイルはログ・ローテーションがある場合のみ削除され、バックグラウンド・スレッドがログ・ファイルを削除することはありません。このため、保存期間が終了した後もファイルがしばらく削除されない場合があります。値は数値(分)、もしくは日単位、週単位、月単位(30 日)または年単位になります(値の大文字と小文字は区別されません)。

ログ・プロパティ	説明
encoding	<p>使用する文字エンコードのタイプ</p> <p>XML ファイルは、拡張文字を処理するため、UTF-8 エンコードにする必要があります。デフォルトは<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>です。</p>
supplementalAttributes	<p>カンマで区切られた補足属性名のリストで、各ログ・メッセージに追加できます。</p> <p>属性値は <code>ExecutionContext</code> クラスで定義する必要があります。</p>
useSourceClassAndMethod	<p>Java ソース・クラスとメソッド名を各ログ・メッセージに追加するかどうか</p> <p>値はレベル名です。指定したレベル以下のメッセージにソース・クラスおよびメソッド名が含まれます。定数 <code>true</code> および <code>false</code> も <code>OFF</code> および <code>ALL</code> の別名として受け取られます。デフォルト値は <code>TRACE:1</code> (詳細)です。</p>
useDefaultAttributes	<p>データベースの属性値を各ログ・メッセージに追加するかどうか</p> <p>割当て可能なデフォルト属性は <code>HOST_ID</code>、<code>HOST_NWADDR</code> および <code>USER_ID</code> です。値は <code>true</code> または <code>false</code> になります。デフォルト値は <code>ODL-XML</code> フォーマットでは <code>true</code>、<code>ODL-テキスト</code>・フォーマットでは <code>false</code> です。</p>
includeMessageArguments	<p>メッセージの引数を、メッセージ ID も持つフォーマットされたログ・メッセージに含めるかどうか</p> <p>指定可能な値: <code>true</code> (デフォルト)または <code>false</code>。</p>
useThreadName	<p>ハンドラが、<code>java.util.logging.LogRecord</code> によって提供される <code>threadID</code> のかわりに、実際のスレッド名を記録しようとするかどうかを制御する、<code>useThreadName</code> フラグ</p> <p>フラグが <code>true</code> の場合、ハンドラは実際のスレッド名を記録しようとします。ハンドラが実際のスレッド名を判定できないこともあります。その場合は <code>threadID</code> を記録します。デフォルト値は <code>true</code> です。</p>
useRealThreadId	<p><code>useRealThreadId</code> フラグは、<code>java.util.logging.LogRecord</code> に提供される <code>threadID</code> ではなく、実際のスレッド ID をハンドラが記録しようとする場合に制御を行います。</p> <p>フラグが <code>true</code> の場合、ハンドラは実際のスレッド ID を記録しようとします。ハンドラが実際のスレッド名を判定できないこともあります。その場合は <code>threadID</code> を記録します。デフォルト値は <code>false</code> です。実際のスレッド ID の記録は、<code>useThreadName</code> プロパティと相互に排他的になります。</p> <p><code>useThreadName</code> が <code>true</code> の場合、<code>useRealThreadId</code> プロパティの値は無視されます。</p>
locale	<p>メッセージをローカライズするためのデフォルトのロケールの上書き</p> <p>デフォルト値はデフォルト・ロケールです。これは、EPM System コンフィグレータで設定されます。</p>
keepOpen	<p>メインのログ・ファイルが常に開いているか、それともログ操作のたびに開かれて閉じられるか。</p> <p>指定可能な設定: <code>true</code> および <code>false</code>。デフォルト設定は <code>true</code> です。この場合、メインのログ・ファイルは常に開いています。</p> <p>ほとんどのケースでデフォルト値を使用します。</p>

ログ・プロパティ	説明
deleteFiles	<p>ログ・サイズ合計が最大制限に達したときにアーカイブ・ファイルを削除できるかどうか</p> <p>指定可能な設定: true および false。ほとんどのケースでこのフラグのデフォルト値は true になります。つまり、古いファイルは削除できます。アーカイブ・ファイルを削除しない方がいい、まれな使用ケースの場合はこのフラグを false に設定できます。</p> <p>注: deleteFiles が false に設定されていて、maxLogSize 制限が設定されている場合、指定された maxLogSize 制限にログが達した後はメッセージは記録されません。</p>
autoFlushLevel	<p>自動フラッシュのレベル設定</p> <p>ODLHandler ではログ・レコードをバッファできますが、指定された autoFlush レベル以上のログ・レコードを取得すると、バッファが自動的にフラッシュされます。デフォルト値は NOTIFICATION:1 です。</p>
addJvmNumber	<p>ログ・ファイル名に追加された JVM 番号</p> <p>JVM 番号はシステム・プロパティ oracle.process.index により定義されます。システム・プロパティが設定されていない場合、このオプションは無視されます。</p>
applicationContextProvider	<p>ApplicationContext インタフェースを実装するクラスの名前</p> <p>クラスにはデフォルトのコンストラクタが必要です。特殊な値、disabled はアプリケーション名のロギングの無効化に使用できます。デフォルトのアプリケーション・コンテキスト・プロバイダはプラットフォームに固有であり、ほとんどの場合、このプロパティを設定する必要はありません。</p>
userContextProvider	<p>UserContext インタフェースを実装するクラスの名前</p> <p>クラスにはデフォルトのコンストラクタが必要です。特殊な値、disabled はユーザー名のロギングの無効化に使用できます。デフォルトのユーザー・コンテキスト・プロバイダはプラットフォームに固有であり、ほとんどの場合、このプロパティを設定する必要はありません。</p>

ログガーのプロパティを変更することで、コンポーネントをデバッグするか、EPM System コンポーネントに関する問題を特定するために Oracle サポートで求められる情報を生成します。

たとえば、Shared Services デバッグ・メッセージを取得するために、各 Shared Services ログガー定義のロギング・レベルを TRACE:32 に変更します。

注: デバッグが完了した後、最適なロギング設定を確実にするため、バックアップ・コピーから元の logging.xml をリストアします。

▶ ログ構成ファイルを変更するには:

- 1 ログ動作が変更される対象の EPM System コンポーネントの、ログ構成ファイルのバックアップ・コピーを作成します。27 ページの「EPM System 製品のロギング・マトリックス」を参照してください。
- 2 テキスト・エディタを使用して、logging.xml を開きます。
- 3 ログ定義を特定します。たとえば、Shared Services のロギング・レベルを変更するには、次のログ定義を変更します:

```

    <logger name="oracle.EPMCAS" level="NOTIFICATION:1"
useParentHandlers="false">
    <handler name="epmcas-handler" />
</logger>
<logger name="oracle.EPMCES" level="NOTIFICATION:1" useParentHandlers="false">
    <handler name="epmces-handler" />
</logger>
<logger name="oracle.EPMCMS" level="NOTIFICATION:1" useParentHandlers="false">
    <handler name="epmcms-handler" />
</logger>
<logger level="NOTIFICATION:1" name="oracle.EPMCSS">
    <handler name="epmcss-handler" />
</logger>

```

- 4 メッセージ・ロギング・レベルを変更するために必要に応じて level プロパティを変更します。たとえば、詳細なデバッグ・メッセージを記録するために各ロガーの level プロパティを TRACE:32 に設定します。

32 ページの「ODL ロギング・レベル」を参照してください。

- 5 logging.xml を保存して閉じます。
- 6 変更を有効にするには EPM System コンポーネントを再起動します。

リモート・ロギングおよびローカル・ロギング

一部の EPM System 製品は、Reporting and Analysis Framework ロギング・サービスとの通信によりリモート・ロギングを使用します。

分散環境では、リモート・ロギング機能を使用して、別のマシンで実行中のすべてのコンポーネントに対するすべてのログを 1 箇所に作成できます。

これを実行するには分散環境内の 1 つのマシンを選択して、ロギング・サービスをこのマシンのみで有効にしてください。その他のマシンではすべてロギング・サービスを無効にする必要があります。Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework Administrator's Guide を参照してください。

デフォルトでは、Reporting and Analysis Framework サービスおよび Interactive Reporting サービスは、リモート・ロギングを使用するように構成されています。

リモート・ロギングについてマシンを構成すると、ログ・ファイルはローカル・ファイルシステムに作成されるのではなく、ロギング・サービスが実行中のマシンで作成されます。このデフォルト構成を変更して、メッセージをローカルで記録するように選択することも可能です。Interactive Reporting ログ・サービスは、デフォルトでリモート・ロギングを使用します。

コンポーネントがローカル・ロギングを行うように構成されている場合、ロギング・サービスはそのコンポーネントでは使用されません。

リモート・ロギングのバックアップ・ファイル

ロギング・サービスが失敗した場合、ログ・ファイルと同じ場所にあるバックアップ・ファイルにロギング・サービスのログ・メッセージが書き込まれます。バックアップ・ファイル名の構文は次のとおりです:

```
COMPONENT_NAME  
LoggingBackup.log
```

ロギング・サービスが復元されると、バックアップ・ファイルからのデータが、ロギング・サービスが実行中のマシンの対応するログ・ファイルに転送されます。その後、バックアップ・ファイルは除去されます。

ログ・ローテーション: ODL

ODL を使用する製品のログは、製品のロギング構成ファイルでの設定に応じて自動的にローテーションされます。たとえば、ログのファイル・サイズが `maxFileSize` プロパティで指定された上限に達すると、そのログはローテーションされます。ODL ログのローテーションは、メインのログ・ファイルをアーカイブしてメインのログ・ファイルを新たに作成することで行われます。たとえば、`FoundationServices0.log` は `Foundation Services` のメインのログ・ファイルです。`FoundationServices0.log` は、指定の最大ファイル・サイズに達すると `FoundationServicesn.log` としてアーカイブされます。n はアーカイブ番号シーケンスにおける次の番号です。ローテーションとログ・ファイルの保存に影響を与える ODL ログ・ファイル・プロパティの設定の詳細は、[表 10](#) を参照してください。

インストール、構成および診断ログ

EPM System インストーラ、EPM System コンフィグレータおよび EPM System 診断では、ODL ロギング・フォーマットが使用されます。[32 ページ](#)の「[ODL 構成](#)」を参照してください。

表 11 EPM System のインストール、構成および診断ログ・ファイル

製品	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
EPM System インストーラ	EPM_ORACLE_HOME / diagnostics / logs/install	<ul style="list-style-type: none"> ● common-install.log - 共通コンポーネント・ファイル・アクティビティ(ODBC など) ● common-ocm-install.log - Oracle Configuration Manager アクティビティ ● common-ohs-install.log - Oracle HTTP Server のアクティビティ ● common-ohs-oui-out.log - Oracle HTTP Server のインストールに関する Oracle Universal Installer 情報(Oracle HTTP Server がインストールされている場合) ● Common-opmn-install.log - Oracle Process Manager and Notification Server インストール・メッセージ ● common-opmn-patchset-oui-out - OPMN インストール・パッチセットのトレース・ログ・メッセージ ● common-oracle-common-install-appdev (oracle_common)インストールの一般ログ・メッセージ ● common-oracle-common-oui-out-appdev (oracle_common)インストールの OUI ログ・メッセージ ● common-product-install.log - 製品共通コンポーネント・ファイル・アクティビティ(ADM ドライバ、CRS ユーティリティなど) ● common-staticcontent-install.log - 静的コンテンツ・ファイル(Web サーバー・マシン上の各製品のヘルプなど)。 ● common-wl-install.log - 組込み WebLogic のインストール・アクティビティ ● dotNetInstall.log - 32 ビット.Net インストールのメッセージ ● dotNet35Install.log - .NET 3.5 のインストール・メッセージ ● dotNetInstall64.log - 64 ビット.NET のインストール・メッセージ ● dotNetRegister.log - 32 ビット.NET 登録のメッセージ ● dotNetRegister64.log - 64 ビット.NET 登録のメッセージ ● eas-install - Administration Services のインストール・メッセージ ● EPM_EASConsoleInstallLog - Administration Services コンソールの Windows クライアント・インストーラ・メッセージ ● EPM_SVCInstallLog - Smart View の Windows インストーラ・メッセージ ● epma-register-profilereaderdll-stderr.log - HFMProfielReader.dll を登録する際のエラー・ログ ● epma-register-profilereaderdll-stdout.log - HFMProfileReader.dll を登録する際のトレース・ログ ● epma-register-zlibdll-stderr.log - ZLib.dll を登録する際のエラー・ログ ● epma-register-zlibdll-stdout.log - ZLib.dll を登録する際のトレース・ログ ● hfm-cacls-filetransfer-stderr.log - ファイル転送フォルダに cacls を設定する際のエラー・ログ

製品	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
		<ul style="list-style-type: none"> ● hfm-cacls-filetransfer-stdout.log - ファイル転送フォルダに cacls を設定する際のトレース・ログ ● hfm-cacls-lcm-service-stderr.log - lcm サービス・フォルダに cacls を設定する際のエラー・ログ ● hfm-cacls-lcm-service-stdout.log - lcm サービス・フォルダに cacls を設定する際のトレース・ログ ● hfm-registerclientdlls64 - 各 64 ビット・クライアント DLL 登録のエラー ● hfm-registerclientdlls.log - 各 32 ビット・クライアント DLL 登録のエラー ● hfm-registercommondlls.log - 各クライアント DLL 登録のトレース・ログ ● hfm-registerdlladmclient-stderr.log - 各 ADM クライアント DLL 登録のエラー・ログ ● hfm-registerdlladmclient-stdout.log - 各 ADM クライアント DLL 登録のトレース・ログ ● hfm-registerdllclient-stderr.log - 各クライアント DLL 登録のエラー・ログ ● hfm-registerdllclient-stdout.log - 各クライアント DLL 登録のトレース・ログ ● hfm-registerdllcommon-stderr.log - 各共通 DLL 登録のエラー・ログ ● hfm-registerdllcommon-stdout.log - 各共通 DLL 登録のトレース・ログ ● hfm-registerserverdlls.log - 各サーバー DLL 登録のエラー・ログ ● hfm-regWinHttpErr.log - winhttp.dll を登録する際のエラー・ログ ● hfm-regWinHttpOut.log - winhttp.dll を登録する際のトレース・ログ ● hfmsvcs-regAsyncCallback-stderr.log - AsyncCallback.dll を登録する際のエラー・ログ ● hfmsvcs-regAsyncCallback-stdout.log - AsyncCallback.dll を登録する際のトレース・ログ ● hfm-updatereg-stderr.log - Financial Management Windows レジストリ・エントリ作成のエラー・ログ ● hfm-updatereg-stdout.log - Financial Management Windows レジストリ・エントリ作成のトレース・ログ ● install-ocm-configCCR-output - Oracle Configuration Manager 設定処理メッセージのパート 1 ● install-ocm-output.log - Oracle Configuration Manager のファイル情報 ● install-ocm-configCCR-output - Oracle Configuration Manager 設定処理メッセージのパート 2 ● installTool-install-DDD-MM-DD.YYYY-TIME.log - ユーザー・アクティビティを記録するために EPM System インストーラによって書き込まれるメインのログ

製品	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
		<ul style="list-style-type: none"> ● installTool-install-stderr.log - コンソール出力からフィルタリングされたエラー ● installTool-install-stdout.log - コンソール出力 ● PRODUCT-install.log - 製品アセンブリのインストールに失敗したかどうかの情報アセンブリごとにログ・ファイルがあります。例: Shared Services の hss-install.log。 ● installTool-summary-DDD-MM.DD.YYYY-TIME.log - EPM System インストーラが実行するチェックの結果 ● irclient-fontreg-stderr.log - フォント・ファイル登録のエラー・ログ ● irclient-fontreg-stdout.log - フォント・ファイル登録のトレース・ログ ● ismpEngine-install-stderr-InstallShield メッセージの内部ログ・ファイル ● wl_install_err.log - WebLogic インストール時のログ、エラー ● wl_install_out.log - WebLogic インストール時のログ、完全なログ
EPM System コンフィグレータ	EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics/logs/config	<ul style="list-style-type: none"> ● cmconfig.log - Reporting and Analysis の構成中に呼び出された Reporting and Analysis (CMC) API から生成されたトレース情報 ● configtool.log - 構成タスクの出力および警告メッセージ ● configtool-http-ant.log - Web サーバーのセットアップ時に実行された ant コードからのトレース ● ConfigTool-stdout.log - コンソール出力 ● Configtool-appdeployment.log - 配置手順のトレース ● configtool_summary.log - 合格/不合格タスクに関するサマリー・ステータス ● configtool-wasdeployment.log - WebSphere 構成設定メッセージ ● EssbaseExternalizationTask.log - Essbase のカスタム構成中に実行された Essbase 外部化プロセスのトレース情報 ● listener.log - 各 Web アプリケーションの起動時に生成されるアプリケーション・リスナー・メッセージ(全アプリケーションで 1 ファイル) ● SharedServices_CMSCClient.log - CMS の呼出しが行われるときに構成中に生成される Shared Services CMS クライアント・トレース ● ocm-config.log - Oracle Configuration Manager の構成ログ ● registry.log - 構成時に作成される Shared Services レジストリ・コールのトレース ● SharedServices_Security.log - Shared Services レジストリ登録ログ

製品	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
EPM System 診断 注： EPM System 診断では、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/reports に検証ツール・レポート instance_report_20110305_121855.html も作成されます。	EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics / logs/validation	<ul style="list-style-type: none"> validation.log - 成功または失敗を示す実行された各チェックの要約レベル情報 注： ファイル名 validation-n.log は、ログがサイズ制限のためにロールオーバーしたことを示します。 validationTool-stdout.log - 実行された各チェックの検証の詳細レベル情報 validationTool-stderr.log - 診断ユーティリティの実行中に生成されるエラー情報 velocity.log - velocity コンポーネントのコールによって生成される診断ユーティリティのトレース
EPM System のスターター	Windows - WebLogic Server: EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics / logs/services UNIX - WebLogic Server: EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics / logs/starter	start.bat(Windows)または start.sh(UNIX)で起動する各製品コンポーネントの startercomponent.log ファイル UNIX スターター・ログには、完全開始シーケンス・トレースが含まれます。 Windows スターター・ログは、製品コンポーネントが stdout に書き込む内容を含みます。

アプリケーション・サーバー、Web サーバー および EPM System プロセス・ログ

アプリケーション・サーバー、Web サーバーおよび EPM System プロセス(開始や停止など)の詳細は、次のログを確認してください。

- アプリケーション・サーバー・ログ(WebLogic Server のサービス・ログ、エラー・ログおよびコンソール・ログ) - EPM System インストーラでインストールされた WebLogic Server に関する情報

場所: WAS_HOME/profiles/profile name/logs/server name

(EPM System インストーラ外でインストールされた WebLogic Server については、Oracle WebLogic Server のドキュメントのログに関する情報を参照してください。)

- 場所: product
- ファイル名: 製品によって異なる

例: EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/epma/DimensionServer.log

- Web サーバー・ログ - EPM System インストーラでインストールされた Web サーバーに関する情報

(EPM System インストーラ外でインストールされた Web サーバーについては、ベンダーのドキュメントのログに関する情報を参照してください。)

- 場所: EPM_ORACLE_INSTANCE/httpConfig/ohs/diagnostics/logs/ OHS/ohs_component
- ログ・ファイル:
 - access_log および access_log.number - WebLogic により管理対象サーバー用に生成されたログ・ファイル
 - console~OHS~1.log - Oracle HTTP Server により生成されたログ・ファイル、コンソール出力
 - ohs_component.log - Oracle HTTP Server により生成されたログ・ファイル
- WebSphere Application Server ログ:
 - 場所: WAS_HOME/profiles/ ApplicationServerProfileName/logs/serverName
- 各 EPM System 製品の開始ログと停止ログ(UNIX)
 - 場所: EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/starter
 - ファイル名と説明: 製品によって異なる
- 各管理対象サーバーのサービス起動ログ(Windows):
 - EPM_ORACLE_INSTANCE /diagnostics/logs/services
- セキュリティ・ログ - CSS および Shared Services レジストリ製品のアクティビティ(ネイティブ・ディレクトリの初期化と CSS の初期化を含む)
- WebLogic ログ - Oracle サポート・サービスへの連絡の際に必要な WebLogic アクティビティ
 - 場所: MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/managed server name/logs
 - ファイル名: access.log

たとえば、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/EpmaDataSync0/logs/access.log などです

アップグレード・ログ

一般に、旧リリースからリリース 11.1.2.3 にアップグレードすると、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/upgrades にログが作成されます。アップグレード・ログ・ファイルの名前は product-upgrade.log となります。例えば、planning-upgrade.log または epma-upgrade.log などのようになります。

一般に、アップグレード・ロギング構成情報は、EPM_ORACLE_HOME/upgrades/product/*.xml に格納されます。たとえば、Reporting and Analysis のアップグレード・ロギング構成情報は、デフォルトで EPM_ORACLE_HOME/upgrades/ReportingAnalysis/logging_raf_upgrade.xml に格納されます。ファイル名は製品によって異なります。

例外:

- Shared Services - 移行ユーティリティによって作成されるログ・ファイルの場所は、EPM_ORACLE_HOME/upgrades/foundation/conf/hssupgrade.properties で設定されます。場所を設定するには、hssupgrade.properties をテキスト・エディタで開き、hss.log.folder=パラメータでパスを指定します。デフォルトのログ・ファイル名はhss_upgrade_ps2.log です。
- Provider Services - Provider Services アップグレード・ログ・ファイルのパスは、EPM_ORACLE_HOME/upgrades/aps/xml にある logging.xml ファイルで設定できます。デフォルトで、logging.xml はログ・ファイルを現在のディレクトリに作成します。
- Financial Management - EPM System コンフィグレータから Financial Management アプリケーション・アップグレード・ユーティリティを実行する際に、Financial Management アプリケーションのアップグレードのログ・ファイルを作成します。いくつかのロギングおよびエラー処理オプションも選択できます。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

Foundation Services ログ

表 12 Foundation Services ログ

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Foundation Services	MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/FoundationServices0/logs	<ul style="list-style-type: none"> ● FoundationServices0.log - サーバーおよびセキュリティ・アクティビティ ● Framework.log <ul style="list-style-type: none"> ○ EPM System 共通ユーザー・インタフェース・フレームワークのエラーおよび情報メッセージ ○ ロケールの検出など様々なメッセージ ○ BPMUI 構成ファイルやレジストリ設定に関するメッセージ ○ 無効な構成ファイル(破損した BpmServer.properties やレジストリなど)によるエラー。 ○ BPMUI セキュリティ・メッセージ。CSS 初期化、Web アプリケーションからのログオン/ログアウト、CSS 認証エラー・メッセージなどがあります。

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Shared Services	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSys ^{tem} /servers/FoundationServices0/logs	<ul style="list-style-type: none"> ● SharedServices_Admin.log - アプリケーション・グループの管理アクティビティ ● SharedServices_Audit.log - データベースに対する監査情報の読取り/書込み時、または監査構成時の監査サーバー・エラー ● SharedServices_Audit_Client.log - 監査クライアントに関する情報 ● SharedServices_CMSCli^{ent}.log - メタデータ・サービス・クライアントのアクティビティ ● SharedServices_Hub.log - Shared Services リスナーおよび初期化アクティビティ ● SharedServices_ImportExport.log - LCM インポート/エクスポート・アクティビティに関するエラーおよび情報メッセージ ● SharedServices_LCM.log - EPM Workspace から実行した場合のライフサイクル管理アクティビティ ● SharedServices_Registry.log - Shared Services レジストリ・アクティビティ ● SharedServices_Security.log - ユーザー管理、プロビジョニング、認証、シングル・サインオンのアクティビティ ● SharedServices_TaskFlow.log - タスクフローに関する情報
EPM Workspace	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSys ^{tem} /servers/FoundationServices0/logs	Workspace.log - EPM Workspace エラーおよび情報メッセージ
Performance Management Architect	EPM_ORACLE_INSTANCE /diagnostics/logs/epma	DimensionServer.log - Performance Management Architect 次元サーバーのアクティビティ(サービスの起動、バックグラウンド・ジョブ、警告、エラーなど)
	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSys ^{tem} /servers/EpmaDataSync0/logs	<ul style="list-style-type: none"> ● access.log - Web アプリケーション内でアクセスされたサイト(アクセス・ロギングが有効になっている場合) ● datasync.log - Performance Management Architect データ同期 Web アプリケーションのデータ同期アクティビティからの情報(コネクタの検証エラーや実行エラーなど) ● EpmaDataSync0.log - Performance Management Architect Web サーバーのイベント(起動や停止など) サーバーを再起動すると、新しい EpmaDataSync0.log ファイルが作成されます。 ● essconn.log - Essbase データ同期アクティビティおよびエラー ● registry.log - Performance Management Architect データ・シンクロナイザのレジストリ・アクティビティ ● SharedServices_SecurityClient.log - ログオン・アクティビティおよびエラー

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/ EPMSystem/servers/ EpmaWebReports0/logs	<ul style="list-style-type: none"> ● access.log - Web アプリケーション内でアクセスされたサイト(アクセス・ロギングが有効になっている場合) ● epma.log - Performance Management Architect Web 層のアクティビティ ● EpmaWebReports0.log - Performance Management Architect Web サーバーのイベント(起動や停止など) <p>サーバーを再起動すると、新しい EpmaWebReports0.log ファイルが作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Framework.log <ul style="list-style-type: none"> ○ EPM System 共通ユーザー・インタフェース・フレームワークのエラーおよび情報メッセージ ○ ロケールの検出など様々なメッセージ ○ BPMUI 構成ファイルやレジストリ設定に関するメッセージ ○ 無効な構成ファイル(破損した BpmServer.properties やレジストリなど)によるエラー。 ○ BPMUI セキュリティ・メッセージ。CSS 初期化、Web アプリケーションからのログオン/ログアウト、CSS 認証エラー・メッセージなどがあります。 ● registry.log - Performance Management Architect レジストリ・アクティビティ ● SharedServices_SecurityClient.log - ログオン・アクティビティおよびエラー

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Calculation Manager	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSysstem/servers/CalcMgr0/logs	<ul style="list-style-type: none"> ● access.log - Web アプリケーション内でどのサイトがアクセスされたか(アクセス・ロギングが有効になっている場合) ● apsserver.log - Calculation Manager と Java API の間の通信 ● CalcManager.log - Calculation Manager Web 層のアクティビティ ● CalcMgr0.log - すべての Calculation Manager アクティビティ ● Framework.log <ul style="list-style-type: none"> ○ EPM System 共通ユーザー・インタフェース・フレームワークのエラーおよび情報メッセージ ○ ロケールの検出など様々なメッセージ ○ BPMUI 構成ファイルやレジストリ設定に関するメッセージ ○ 無効な構成ファイル(破損した BpmServer.properties やレジストリなど)によるエラー。 ○ BPMUI セキュリティ・メッセージ。CSS 初期化、Web アプリケーションからのログオン/ログアウト、CSS 認証エラー・メッセージなどがあります。 ○ apsserver.log - Calculation Manager と Essbase サーバーの間の通信を記録します ● registry.log - Calculation Manager レジストリ・アクティビティ ● SharedServices_SecurityClient.log - ログオン・アクティビティおよびエラー
Smart View	Smart View はクライアントサイド・アプリケーション。イベントやエラー、その他の情報が記録されるファイルの名前と場所は、オプションとして Smart View で指定します。Smart View のロギング・オプションの詳細については、Oracle Hyperion Smart View for Office User's Guide を参照してください。	

ライフサイクル管理のログ

表 13 ライフサイクル管理のログ・ファイル

関連製品	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Shared Services	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSysstem /servers/FoundationServices0/logs	SharedServices_LCM.log - 管理対象サーバーにおけるタイムスタンプ付きの移行アクティビティ

関連製品	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/ epmsystem1/diagnostics/logs/ migration	LCM_timestamp.log という名前の移行ログ

Essbase ログ

Integration Services では log4j フォーマットが使用されますが、その他すべての Essbase コンポーネントでは ODL が使用されます。

Integration Services アクティビティのログ・ファイルは、EPM_ORACLE_HOME/logs/eis/olapisvr.log です。olapisvr.log はローリング・ログ・ファイルであるため、手動でのアーカイブは不要です。

次の表に、ODL を使用する Essbase コンポーネントのログに関する情報を示します。

表 14 Essbase ODL コンポーネントのログ

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Essbase サーバー	EPM_ORACLE_INSTANCE/ diagnostics/logs/essbase/ essbase_0 (0 はインスタンス番号)	<ul style="list-style-type: none"> ● ESSBASE.LOG - Essbase サーバーのアクティビティとエラー ● ESSBASE_ODL.log - Essbase サーバーのアクティビティとエラー ● dataload_ODL.err - データ・ロードおよび次元構築のエラー ● log0000x.xcp - Essbase サーバーが異常停止した場合に発生するエラー ● leasemanager_server_HOSTNAME.log - Essbase サーバー・リース・マネージャ情報 ● leasemanager_essbase_HOSTNAME.log - Essbase エージェント・リース・マネージャ情報 ● log00001.xcp - エージェントが予期せずに停止した場合に発生するエラー <p>注： ESSBASE.LOG および ESSBASE_ODL.log には、異なるフォーマットの同じ情報が含まれます。</p>
	essbase.cfg 設定を介して指定 (Essbase 管理コンソールまたはテキスト・エディタで変更可能)。	<p>dbname_ODL.atx および dbname_ODL.alg(dbname は essbase.cfg 設定を介して指定) - 正常に完了したスプレッドシート更新トランザクション</p> <p>これらは SSAUDIT ログ・ファイルです。Oracle Essbase Database Administrator's Guide のデータ、アプリケーションおよびデータベースの監視に関する項、および Oracle Essbase Technical Reference を参照してください。</p>

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
	EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics/logs/essbase/ essbase_0/ application name	<ul style="list-style-type: none"> ● application name.LOG - Essbase アプリケーションのアクティビティとエラー ● application name_ODL.log - Essbase アプリケーションのアクティビティとエラー ● log00001.xcp - アプリケーション・サーバーが予期せずに停止した場合に発生するエラー
Administration Services 注： コンソール・ロギングを有効にするには、MIDDLEWARE_HOME/EPMSysstem11R1/products/Essbase/eas/console/bin/admincon.bat で、Java オプション・パラメータ-DEAS_CONSOLE_LOG を True に設定します。	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSysstem/servers/EssbaseAdminServices0/logs	<ul style="list-style-type: none"> ● easserver.log - Administration Services サーバー・アクティビティ ● EssbaseAdminServices0.log - Administration Services Web アプリケーション・アクティビティ
Provider Services	MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSysstem/servers/ AnalyticProviderServices0/ logs	<ul style="list-style-type: none"> ● AnalyticProviderServices0.log - Provider Services Web アプリケーション・アクティビティ ● apsserver.log - Provider Services アクティビティ
Essbase Studio	EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics/logs/upgrades	EssbaseStudioServer.log - Essbase Studio アップグレード・アクティビティ
Essbase ステージング・ツール	作業ディレクトリ	<p>essStaging.log - ステージング・ツール (essStage.bat または essStage.sh)がアップグレード中に構成およびセキュリティ情報、データ、ファイル転送用アプリケーションを準備する際に発生するエラー</p> <p>ステージング・ツールの詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。</p>
Essbase 再ホスティング・ツール	EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics/logs/essbase	<p>EssbaseRehost.log - アップグレード中に Essbase 接続を再ホスティングするときに、Essbase 再ホスティング・ツールによって記録されるエラー</p> <p>Essbase サーバーの再ホスティングの詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。</p>

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Essbase セキュリティ・クライアント	EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics/logs/essbase	Security_client.log - EPM System コンポーネントおよび CSS とネイティブのプロバイダとの通信を追跡します また、ネイティブ・プロバイダとのすべてのバインドに対して、レジストリからの JDBC 構成をこのログ・ファイルに記録します。
OPMN	EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics/logs/OPMN/opmn	<ul style="list-style-type: none"> ● opmn.log - Essbase の起動時間、停止時間、および起動と停止の再試行回数に関する情報 ● console~ESSBASE_CLUSTER_NAME~ESSBASE_PROCESS_TYPE~AGENT~1.LOG - すべてのコンソール・メッセージは、コンソール出力ファイルと呼ばれる管理対象プロセス(ここでは Essbase)のファイルに出力されます。 EssbasePing.log - OPMN フォワード Ping 情報
Essbase プラグイン	EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics/logs/essbase/lcm	essbaseplugin.log - アーティファクトのリスト、Essbase アーティファクトの移行(インポート/エクスポート)、アーティファクトのリストにかかる時間およびアーティファクトの移行に関する情報

Reporting and Analysis ログ

サブトピック

- [Reporting and Analysis Framework ログ](#)
- [Financial Reporting ログ](#)
- [Web Analysis ログ](#)
- [Interactive Reporting ログ](#)

Reporting and Analysis Framework ログ

表 15 Reporting and Analysis Framework ログ・ファイル

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics/logs/ ReportingAnalysis	<ul style="list-style-type: none">● Reporting and Analysis Framework サービス・ロギング情報:<ul style="list-style-type: none">○ configuration_messages_\${module}.log - Reporting and Analysis Framework サービス構成情報○ eiengine.log - EIEngine ユーティリティ(エクスポート/インポート・ユーティリティ)のメッセージ○ logwriter_messages_\${module}.log - 内部ログの Reporting and Analysis Framework サービス・メッセージを保持するログ・ファイル○ server_messages_\${OriginatorType}.log - Reporting and Analysis Framework サービス・ログ・ファイルのパターン。これらのファイルには、RAF サービスのログ・メッセージが含まれます。○ stdout_console_\${module}.log - Reporting and Analysis Framework サービスの stdout (コンソール)ログ・ファイル。このファイルには、開始された Reporting and Analysis Framework サービスに関する情報、一部の stdout コンソール・ログが含まれます。● agent.logおよびstdout_console_agent.log - Reporting and Analysis Framework エージェントのロギング情報● JobUtilities.log - カレンダ・マネージャのジョブ・ユーティリティのアクティビティ● migrator.log - 移行アクティビティ● /SDK/sdk.log - ソフトウェア開発キット・ログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSysystem/servers/RaFramework0/logs	<ul style="list-style-type: none"> ● RaFramework0.log - Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション・サーバー・ログ ● RaFramework_Bpmui.log - Reporting and Analysis Framework Web アプリケーションに関する各種メッセージ(ロケール検出など) ● RaFramework_AdministrationServlet.log - 管理サーブレットに関する Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション情報 ● RaFramework_BrowseServlet.log - Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション・ログでサーブレットの表示に関連のあるもの ● RaFramework_Changemgmt.log - インパクト・マネージャ・ログ ● RaFramework_CommonClient.log - Reporting and Analysis Framework Web アプリケーションの共通クライアント機能に関する情報 ● RaFramework_DataAccessServlet.log - データ・アクセス・サーブレットに関する Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション情報 ● RaFramework_Foundation.log - Reporting and Analysis Framework サービスとのインタラクションに関する Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション情報 ● RaFramework_JobManagerServlet.log - ジョブ・マネージャ・サーブレットに関する Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション情報 ● RaFramework_PersonalPagesServlet.log - 個人用ページ・サーブレットに関する Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション情報 ● RaFramework_Portlets.log - ポートレット・インフラストラクチャ・メッセージ ● RaFramework_Search.log - 検索関連メッセージ ● RaFramework_WebServices.log - Web サービス関連メッセージ ● RaFramework_configuration_messages.log - Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション構成メッセージ ● RaFramework_iHTMLServlet.log - Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション・ログで ihtml サーブレットに関連のあるもの ● RaFramework_logwriter_servlets_messages.log - Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション・ログ・ライター・メッセージ ● RaFramework_stdout_console_servlets.log - Reporting and Analysis Framework Web アプリケーションの log-stdout (コンソール)ログ・ファイル

サービスのログ・ファイル

各サービスにはログ・ファイルがあります。分散環境では、1つのタイプのすべてのサービスがこれらのメッセージを1つのファイルに記録します。別々のログ・ファイルが、構成または環境情報、および stdout メッセージに対して生成されます。

サービスのログ・ファイル名のフォーマット:

server_messages_OriginatorType.log

ここで

OriginatorType は、以下のサービス・ログ・ファイルのいずれかです。

- AnalyticBridgeService

- AuthenticationService
- AuthorizationService
- CommonServices
- DataAccessService
- EventService
- GSM
- HarvesterService
- IntelligenceService
- IRJobService
- IRServiceHelper
- JobService
- LoggingService
- LSM
- PublisherService
- RepositoryService
- SearchIndexing
- SearchKeywordProvider
- SearchMonitor
- SessionManager
- ServiceBroker
- TransformerService
- UsageService

特別なログ・ファイルは次のとおりです:

- COMPONENT_NAMELoggingBackup.log - ログイン・サービスが使用不可の場合にログイン・メッセージが含まれます(例: rafservicesLoggingBackup.log)
- configuration_messages.log - 基本環境および構成情報が含まれます。
- stdout_console_MODULE_NAME.log - stdout および stderr に送信されるメッセージが含まれます

Reporting and Analysis Framework サービスのログイン・レベルの動的な変更

➤ Reporting and Analysis Framework サービスのログイン・レベルを動的に変更するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「管理」、「Reporting and Analysis」、「サービス」の順にクリックします。

- 2 Reporting and Analysis Framework の「プロパティ」ダイアログ・ボックスまたは Interactive Reporting サービスの「ログ」パネルを開きます。
- 3 ロガー・レベルを追加(Reporting and Analysis Framework の場合)、削除(Reporting and Analysis Framework のカスタム・ロガーの場合)または変更します。
- 4 変更を適用するには、コンテキスト・メニューで、「ログ構成のリフレッシュ」をクリックします。変更はすぐに適用されます。

▶ Reporting and Analysis Framework Web アプリケーションのロギング・レベルを動的に変更するには:

- 1 EPM_ORACLE_INSTANCE/ReportingAnalysis/RAFrameworkWebapp/WEB-INF を開きます。
- 2 logging.properties を作成します。
- 3 必要なロガーを特定のレベルで追加します。ロガーの構文:

```
oracle.EPMRAF.[logger name].level=[logger level]
```

Financial Reporting ログ

表 16 に、次の場所に保管される Financial Reporting のログ・メッセージを示します:

表 16 Financial Reporting ログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
アプリケーション・ログ: EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/FinancialReporting	<ul style="list-style-type: none"> ● Adm.log - Financial Reporting コンポーネントとデータ・ソース間のインタラクションを記録するコンポーネント・ログ ● AdmAccess.log - Financial Reporting コンポーネントからデータ・ソースへのセキュリティ・アクセスを記録するコンポーネント・ログ ● AdmPerformance.log - Financial Reporting コンポーネントとデータ・ソース間のインタラクションのパフォーマンスを監視するコンポーネント・ログ ● FRAccess.log - Financial Reporting へのセキュリティ・アクセスを監視します。 ● FRPerformance.log - Financial Reporting サーバーおよび関連するコンポーネントのパフォーマンスを監視します ● FRClientAccess.log - Financial Reporting Studio クライアントのセキュリティ・アクセスを監視します ● FRClientLogging.log - Financial Reporting Studio クライアントのアクティビティを監視します ● FRClientPerformance.log - Financial Reporting Studio クライアントのパフォーマンスを監視します ● FRPrintLogging.log - 印刷サーバーのアクティビティを監視します ● FRPrintAccess.log - 印刷サーバーのアクセス・アクティビティを監視します ● FRPrintPerformance.log - 印刷サーバーのパフォーマンスを監視します

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Web アプリケーション・ログ: MIDDLEWARE_HOME /user_projects/ domains/EPMSysstem/servers/ FinancialReporting0/logs	<ul style="list-style-type: none"> ● FRLogging.log - Financial Reporting サーバーおよび関連するコンポーネント内のアクティビティを監視します ● FinancialReporting0.log - Web 層アクティビティ
Financial Reporting 注釈監査ログ: MIDDLEWARE_HOME /user_projects/ domains/EPMSysstem/servers/ FinancialReporting0/logs	AnnotationAudit.log - 注釈の作成、変更および関連付けを記録します

Web Analysis ログ

次の Web Analysis ログ・ファイルは MIDDLEWARE_HOME/domains/EPMSysstem/servers/WebAnalysis0/logs にあります。

- Adm.log - ADM API アクティビティ
- AdmAccess.log - ADM API アクティビティ
- AdmAps.log - ADM API アクティビティ
- AdmPerformance.log - ADM API アクティビティ
- WebAnalysis0.log - Web 層アクティビティ。このログは ODL に準拠していません。
- WebAnalysis.log - Web Analysis アクティビティ
- WebAnalysisAtf.log - Web Analysis アプリケーションの ATF 部分
- WebAnalysisAudit.log - 監査情報

Interactive Reporting ログ

Interactive Reporting サービスはリモート・ロギングを使用します。

表 17 Interactive Reporting ログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
MIDDLEWARE_HOME /user_projects/ empssystem1/diagnostics/ logs/ReportingAnalysis	<ul style="list-style-type: none"> ● server_messages_IRServiceHelper.log - Interactive Reporting サービスの情報 ● server_messages_IRJobService.log - Interactive Reporting ジョブ・サービス(Interactive Reporting ジョブに関する問題のトラブルシューティングに有効) ● server_messages_IntelligenceService.log - Interactive Reporting サービスの情報 ● server_messages_DataAccessService.log - データ・アクセス・サービスの情報

リモート・ロギングまたはローカル・ロギングの指定

Interactive Reporting サービスでは、ローカル・ロギングとリモート・ロギングを使用できます。

▶ リモート・ロギングを使用するには、次のようにします:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「管理者」、「Reporting and Analysis」 「」、「サービス」の順にクリックします。
- 2 Interactive Reporting サービス(インテリジェンス、データ・アクセス、サービスおよび IR ジョブ)の「ログ」パネルの「プロパティ」ウィンドウを開きます。
- 3 プロパティ・グループ「モジュール・プロパティ」のロギング・レベルを変更し、「OK」をクリックします。
- 4 コンテキスト・メニューで、「ログ構成のリフレッシュ」をクリックします。変更はすぐに適用されます。

▶ ローカル・ロギングを使用するには:

- 1 EPM Workspace で、「ナビゲート」、「管理者」、「Reporting and Analysis」 「」、「サービス」の順にクリックします。
- 2 Interactive Reporting サービス(インテリジェンス、データ・アクセス、サービスおよび IR ジョブ)ログ・パネルの「プロパティ」ダイアログ・ボックスを開きます。
- 3 プロパティ・グループ「モジュール・プロパティ」のロギング・レベルを変更し、「OK」をクリックします。
- 4 プロパティ・グループ「管理」で、プロパティ `useRemoteLogger` を `No` に変更し、「OK」をクリックします。
- 5 コンテキスト・メニューで、「再起動」をクリックします。

サービスがローカル・ロギング・モードで起動し、ログ・ファイル (`0_das.log`、`0_BIService.log` または `0_IRJob.log`) が `EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/ReportingAnalysis` にあります。

注: 各サービスの最初のファイルの名前は、0 で始まります。後続のファイルは、`0_das.log`、`1_das.log` などのように順番に番号が付けられます。

Financial Performance Management アプリケーションのログ

サブトピック

- [Planning ログ](#)
- [Financial Management ログ](#)
- [Performance Scorecard ログ](#)
- [Profitability and Cost Management ログ](#)
- [Disclosure Management ログ](#)
- [Financial Close Management ログ](#)
- [SOA Suite サーバー・ログ](#)
- [Strategic Finance ログ](#)

Planning ログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
C:/ MIDDLEWARE_HOME / user_projects/domains/ EPMSysstem/servers/ Planning0/logs	Planning_ADF.log - ADF(Oracle Application Development Framework)情報 Planning サーバーの実行中に、このログは削除できません。サーバーが再起動すると、ログが再作成されます。
EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics/logs/ planning このフォルダのログは削除 できます。	<ul style="list-style-type: none">● UserProvisionSync.log - セキュリティ・リフレッシュ情報(プロビジョニングや「ユーザーが見つかりません」という問題など) このログを使用して、Planning と Shared Services の間の同期の問題をトラブルシューティングします。● Planning ユーティリティ・ログ - 各 Planning ユーティリティのログ● PlanningAppUpgradeLog_application_name.txt - アップグレードされた各 Planning アプリケーションのアップグレード・ログ

▶ Planning アプリケーション・サーバーのロギング・レベルを変更するには:

- 1 Planning アプリケーションに管理者または所有者としてログインします。
- 2 「管理」、「アプリケーション」、「プロパティの管理」の順に選択します。
- 3 「システム」タブを選択します。
- 4 DEBUG_ENABLED を true に設定します。
- 5 ログ・レベルを変更した後に、変更内容を有効にするには、Planning アプリケーション・サーバーを再起動します。

Financial Management ログ

表 18 Financial Management のログ・ファイル

コンポーネント	デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Financial Management ヒント: EPM_ORACLE_HOME/ products/FinancialManagement/ Utilities ディレクトリの Financial Management ログ・ビューアはログの 表示に有用です。「スタート」メ ニューから Financial Management ロ グ・ビューアに移動して、「プログラ ム」を選択し、「EPM System」に 続いて「Financial Management」、 「ユーティリティ」を選択します。	EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics/logs/hfm	<ul style="list-style-type: none"> ● EPMWindowsConfig.log - Financial Management 固有の構成タスクに関連するアクティビティ ● hfm.odl.log - Financial Management コア・アクティビティ ● HsvEventLog.log - Financial Management アクティビティ ● InteropJava.log - Financial Management interop アクティビティ
	EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics/logs/ upgrades	HFMApplcationUpgrade.log - Financial Management アプリケーショ ン・アップグレード・アクティビ ティ
Financial Management Web アプリケーション	MIDDLEWARE_HOME /user_ projects/domains/ EPMSysstem/servers/ HFMAdfWeb0	oracle-epm-fm.log - Financial Management Web アプリケーション・ アクティビティ
Financial Management Web サービス	MIDDLEWARE_HOME /user_ projects/domains/ EPMSysstem/servers/ FinancialManagement0/ logs/hfm	epm-fm-webservices.log - Financial Close Management の WebLogic Web サービス・アクティビティ

次の Windows レジストリ設定を変更して、タスクフローのロギングを有効化できます:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hyperion Solutions\Hyperion Financial Management\Web
\HsvActionsLogLevel
```

次の値のいずれかを設定して、記録するイベントを指定します:

- 0 - なし。ロギングは発生しません
- 1 - エラー。例外を引き起こしたことを記録します
- 2 - 警告。予期しない入力パラメータなど、警告メッセージを記録します
- 3 - デバッグ。タスクの自動化および主要なメソッドの入力パラメータを記録します
- 4 - トレース。すべてのメソッドおよびクラスでの入力および終了メソッドを記録します

デフォルトで、メッセージは EPM_ORACLE_INSTANCE\diagnostics\logs\hfm
\hfmtaskflows-dialog に記録されます。

注： IIS アプリケーション・プール・プロセスを実行している ID には、ログ・ファイル・ディレクトリ (例: EPM_ORACLE_INSTANCE\diagnostics\logs\hfm\)へのフル・アクセスが必要です。

Performance Scorecard ログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
EPM_ORACLE_INSTANCE / diagnostics/logs/ hps	<ul style="list-style-type: none"> ● HPSWebReports.log - Performance Scorecard アプリケーション・アクティビティ <p>注： HPSWebReports.log にはライフサイクル管理アクティビティが記録されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● HPSAlerter.log - Performance Scorecard Alerter サーバー・アクティビティ
EPM_ORACLE_INSTANCE /HPS/tools/ log	<ul style="list-style-type: none"> ● error.log - 一般的なインポートまたはエクスポート・エラー ● failedrecords.log - インポート中に失敗したレコード ● successfulRecords.log - インポート中に成功したレコード

デフォルトでは、Performance Scorecard ログは、サイズが 10MB に達すると自動的にローテーションされます。最新の 9 個のバージョンが保存されます。ローテーション・ポリシーは、EPM_ORACLE_INSTANCE/HPS/hpsfiles/config の HPSConfig.properties ファイルで変更できます。successfulRecords.log を除いて、Oracle Hyperion Performance Scorecard ログは削除せず、アーカイブする必要があります。

Profitability and Cost Management ログ

表 19 Profitability and Cost Management のログ・ファイル

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
Profitability and Cost Management: MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/servers/Profitability0/logs	hpcm.log - Profitability and Cost Management アクティビティ

Disclosure Management ログ

表 20 Disclosure Management のログ・ファイル

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSystem/servers/ DisclosureManagement0/logs	<ul style="list-style-type: none">● DisclosureManagement0.log - Disclosure Management Web 層アクティビティ● DiscMan.log - Disclosure Management アクティビティ● DiscManAuditService.log - 監査サービス・アクティビティ● DiscManMappingTool.log - マッピング・ツール・アクティビティ● DiscManReportService.log - レポート・サービス・アクティビティ● DiscManRepository.log - Disclosure Management リポジトリ・アクティビティ● DiscManRepositoryService.log - Disclosure Management リポジトリ・サービス・アクティビティ● DiscManSessionService.log - セッション・サービス・アクティビティ

Financial Close Management ログ

次の Financial Close Management ログのデフォルトの場所は、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/FinancialClose0/logs です:

- FinancialClose0.log - Close Manager Web 層アクティビティ
- FinancialClose.log - Close Manager アクティビティ
- FinancialClose0-diagnostic.log - FinancialClose0.log よりも詳細な診断メッセージを使用した Close Manager Web 層アクティビティ
- AccountReconciliation0.log - Account Reconciliation Management Web 層アクティビティ

注: Account Reconciliation Management が Financial Close Management と同じサーバーに配置されている場合、AccountReconciliation0.log が存在しない可能性があります。

- AccountReconciliation.log - Account Reconciliation Management アクティビティ

SOA Suite サーバー・ログ

次の Oracle SOA Suite サーバー・ログのデフォルトの場所は、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/soa_server1/logs です:

- soa_server1.Log - SOA Suite サービス・アクティビティ
- soa_server1-diagnostic.log - SOA Suite Web 層アクティビティ

Strategic Finance ログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容	ローテーション
EPM_ORACLE_INSTANCE//diagnostics/logs/hsf	debug_YYYYMMDD_HHMMSS.log - Strategic Finance サーバーからのデバッグ情報(各サーバー操作の詳細情報)	削除可能
	<p>Microsoft アプリケーション・イベント・ログ:</p> <ul style="list-style-type: none"> hsf_service.log hsf_service_err.log HSFGateway.log (.NET Web サービス・プロセスから) <p>注: アプリケーション・イベント・ログを表示するには、Windows「コントロールパネル」から「管理ツール」を選択し、「イベント ビューア」、「アプリケーション」の順に選択します。</p>	<p>ユーザーのアクティビティを監査するためにアーカイブされたイベント・ログ・ファイルを使用できます。</p> <p>注: イベント・ログ・ファイルはサービス・プロセスが開始されるたびに作成され、ファイルは1日に1回以上開始されます。</p>
	<p>CSS で生成されたログ:</p> <ul style="list-style-type: none"> SharedServices_Audit_Client.log SharedServices_Security.log 	
EPM_ORACLE_INSTANCE//diagnostics/logs/hsf/event	<p>eventYYYYMMDD.log - Strategic Finance イベントに関する情報</p> <p>注: 管理者ユーティリティの「イベント・ログ」タブを使用すると、個別のイベント・ログを確認できます。Oracle Hyperion Strategic Finance Administrator's Guide を参照してください。</p>	Oracle Hyperion Strategic Finance Server イベント・ログはサーバー管理者で管理できます。(「サーバー」、「設定」の順に選択します)。
EPM_ORACLE_INSTANCE//diagnostics/logs/hsf/userlogs	YYYYMMDD_HHMMSS_seq.log - ユーザー・アクションの履歴(ユーザーの結果ログ・ファイルと呼ばれます)	アーカイブ
MIDDLEWARE_HOME / user_projects / domains / EPMSys / servers / HsfWeb0 / logs	HsfWeb0.log - Oracle Hyperion Strategic Finance Web アプリケーションのメッセージ	削除可能

データ管理ログ

サブトピック

- [FDM ログ](#)
- [FDMEE ログ](#)
- [Data Relationship Management ログ](#)

FDM ログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
データベース	<ul style="list-style-type: none">● tLogActivity テーブル - FDM アクティビティに関する情報および監査関連情報● tBatch - 実行済のすべてのバッチのリスト● tBatchContents - 実行された各バッチ・ファイルの内容● tBatchInformation - 実行された各バッチ・ファイルのステータスおよびエラー
Shared folder /logs	<ul style="list-style-type: none">● username.err - FDM ユーザー・エラー● Authentication.err - FDM での認証の失敗に関する情報
Windows 管理者が設定	Windows イベント・ログ - アプリケーション・マネージャおよび LoadBalance マネージャによって書き込まれるイベント・ログ・エントリ FDM タスク・マネージャで、スケジュール済タスク・イベント(ロギングを使用可能にしている場合)を Windows イベント・ログにロギングすることもできます。

FDMEE ログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/ErpIntegrator0/logs	ErpIntegrator0.log - FDMEE アプリケーション・サーバー・ログ
	aif-CalcManager.log - Calculation Manager API インタラクションに生成されるログ
	aif-HfmAdmDriver.log - Financial Management ADM ドライバ・インタラクションに生成されるログ
	aif-Planning_WebApp.log - Planning サーバー・インタラクションに生成されるログ
MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSystem/servers/ErpIntegrator0/logs/oracledi	odiagent.log - ODI エージェントによって生成されるログ

デフォルトのログの場所	ログ・ファイルの名前と内容
APPLICATION_ROOT_DIRECTORY/ outbox/logs	EPM-APPLICATION-NAME_PROCESS-ID.log - 各種のロード・プロセスによって生成されるログ。このログは、FDME の「プロセスの詳細」ページで Show Log リンクを使用して表示できます。

Data Relationship Management ログ

Data Relationship Management コンソールのリポジトリ・ウィザードでは、リポジトリの作成、コピーおよびアップグレードの情報が、リポジトリ・ウィザードでの操作中に参照可能なログに書き込まれます。リポジトリ・ウィザードのログは、ウィザードの「リポジトリの操作の完了」ページから保存できます。リポジトリ・ウィザードのログはユーザー定義です。

Data Relationship Management のインストールに関する問題を取得するには、Data Relationship Management インストーラでロギングを有効にします。手順は、Oracle Data Relationship Management Installation Guide を参照してください。

これらの Data Relationship Management ログ・ファイルは、C:\Documents and Settings\user name\temp など、ユーザーの Windows 一時ディレクトリにあります:

- MSI.log - インストール・プロセスに関する情報
これは、Data Relationship Management インストーラのプライマリ・ログ・ファイルです。Data Relationship Management インストーラが実行されるたびに上書きされます。このログは削除できます。
- MSIxxxx.log (ここで、xxxx はランダムな英数字です)
このログは、インストールの失敗のトラブルシューティングに役立ちます。これは削除できます。

注意 他の製品の MSIxxxx.log ファイルが同じフォルダにある場合があるため、ファイルの日時と Data Relationship Management インストールの日時が一致し、正しいファイルを削除していることを確認してください。

注: ユーザーの Windows ホーム・ディレクトリによって異なるパスは、Windows バージョン間で異なります。

Central Inventory ログ

Central Inventory には、ホストにインストールされているすべての Oracle 製品に関する情報が含まれています。インベントリ・ファイルおよび OUI と OPatch のログが含まれている logs フォルダがあります。

Windows 環境では、Central Inventory は System drive/program files/Oracle/inventory にあります。

UNIX 環境では、Central Inventory の場所は、通常/etc フォルダにある oraInst.loc ファイルで指定されます。

Central Inventory ログ・ファイルは、通常次のフォーマットで保存されます:

ActionTimestamp .log

たとえば、2013 年 3 月 17 日午前 6 時 45 分に実行された attachHome の場合、次のログが記録されます。

AttachHome2013-03-17_06-45-00AM.log

4

一般的なヒントと解決策

この章の内容

インストールのヒントとトラブルシューティング	65
アップグレード	70
構成のヒントと解決策	71
Windows 統合認証のサポート	77
同時ユーザーのメモリー不足エラー	77
接続の失敗の解決およびサービスの再開	77
デモ用証明書のメッセージ	78
WebLogic 管理コンソールのポートの変更	78
WebSphere の問題	78
UNIX 固有の問題	81

インストールのヒントとトラブルシューティング

サブトピック

- EPM System インストーラのシャットダウン
- クライアント・マシン上の EPM System インストーラ・ファイル
- Oracle HTTP Server
- プロキシ・サーブレット
- 「製品の選択」パネル
- Solaris での EPM System インストーラの抽出
- EPM System インストーラの起動
- EPM System インストーラのフリーズ
- 「ようこそ」パネルの問題
- 再インストール
- Oracle Database のインストール中のインストール・エラー

構成の問題については、71 ページの「構成のヒントと解決策」を参照してください。

ヒント： 前提条件チェックが原因でインストール・プロセスが止まってしまう場合、警告を理解した上でインストールの続行が可能と考えられるときは、`-ignoreChecks` オプションを指定して EPM System インストーラを実行すれば、前提条件チェックを無視して先に進むことができます。

EPM System インストーラのシャットダウン

問題: EPM System インストーラがインストールの完了前に停止します。

解決策: EPM_ORACLE_HOME/diagnostics/logs/install 内の installTool-summary.log を確認します。このログは、EPM System インストーラが実行するチェックの結果を示します。これらのチェックの大部分は、正しいアセンブリがあるか確認するために行われます。たとえば、EPM System コンポーネントを 32 ビット・マシンにインストールする場合、EPM System インストーラによって、32 ビット・アセンブリがあるかどうかを確認されます。

クライアント・マシン上の EPM System インストーラ・ファイル

問題: 各クライアント・マシンへの EPM System インストーラ・ファイルのコピーがサイズのために実行できません。

解決策: EPM System インストーラ・ファイルを共有ドライブにダウンロードすることをお勧めします。ネットワーク・ドライブからインストールすると、そのドライブにマップされます。ダウンロードする必要のあるファイルの詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の第 3 章のインストール用のファイルのダウンロードに関する項を参照してください。

Oracle HTTP Server

Oracle HTTP Server を Foundation Services とともにインストールできます。Oracle HTTP Server をインストールする前に、Oracle HTTP Server の前提条件を満たしていることを確認します。詳細は、次のドキュメントを参照してください:

- システム要件: http://www.oracle.com/technology/software/products/ias/files/fusion_requirements.htm
- 動作保証: http://www.oracle.com/technology/software/products/ias/files/fusion_certification.html
- インストール:
 - Oracle HTTP Server のインストールのドキュメント(http://download.oracle.com/docs/cd/E15523_01/webtier.htm)
 - リリース・ノート(http://download.oracle.com/docs/cd/E15523_01/relnotes.htm)

Oracle HTTP Server のインストールの問題と回避方法の詳細は、プラットフォーム別の Readme を参照してください: http://download.oracle.com/docs/cd/E15523_01/relnotes.htm

EPM System と Oracle HTTP Server に関する情報は、このガイドの第 3 章「EPM System ログの使用方法」を参照してください。

詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成 Readme と Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。

Oracle HTTP Server のインストール

問題: EPM System インストーラで Oracle HTTP Server のインストールが失敗し、EPM System 構成チェックでエラー・メッセージが表示されます。

解決策: 次のログ・ファイルで失敗の原因と必要なパッチに関する情報を確認します。

- Windows - EPM_ORACLE_HOME/diagnostics/logs/ohs のファイル
- UNIX - EPM_ORACLE_HOME/diagnostics/logs/install/common-ohs-oui-out.log

ヒント: EPM System インストーラを使用せずに EPM_ORACLE_HOME/oui/bin から setup.exe (Windows) または runInstaller を使用して Oracle HTTP Server インストーラを GUI モードで実行することもできます。MIDDLEWARE_HOME/ohs をインストール先フォルダとして指定し、その他の設定はすべてデフォルトを使用します。

第 3 章「EPM System ログの使用方法」も参照してください。

プロキシ・サーブレット

EPM System では、他の Web サーバーが指定されていなければ、プロキシ・サーブレットが使用されます。プロキシ・サーブレットに関するメッセージは、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/managed_server_name/logs/ProxyFilter.log にあります。

「製品の選択」パネル

問題: 製品が「製品の選択」パネルに表示されません。この問題は次のいずれかの理由で発生します:

- 製品の部分インストール
- アセンブリがダウンロードされなかった
- アセンブリを違う場所に保存した
- アセンブリの名前が変更された
- アセンブリがこのプラットフォームで使用できない

解決策: アセンブリが正しい場所にあることを確認してください。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide のインストール用のファイルのダウンロードに関する項を参照してください。

Solaris での EPM System インストーラの抽出

問題: Solaris 環境で `jar -xvf` を使用して ZIP ファイルから EPM System インストーラ・ファイルを抽出すると、次のエラー・メッセージが表示されます:

```
Exception in thread "main" java.lang.UnsupportedClassVersionError: Bad version number in .class file
```

解決策: `unzip -o` を使用して EPM System インストーラ・ファイルを抽出します。

EPM System インストーラの起動

問題: コマンド・プロンプト・ウィンドウが表示され、インストーラが起動しません。

解決策: 次の状態を確認し、問題があれば修正します。

- アセンブリのダウンロードが失敗したため、アセンブリ・フォルダに 0 バイトの `dat` ファイルがあるか、`dat` ファイルがありません。次の手順に従います:
 - アセンブリを再度ダウンロードします。
 - EPM System インストーラのパスにスペースが含まれないようにします。
- アセンブリ・フォルダの名前が変更されたか、正しく解凍されていないために、EPM System インストーラで認識できません。次の手順に従います:
 - アセンブリ・フォルダの名前を確認します。
 - アセンブリ・フォルダの名前が正しい場合、アセンブリ・フォルダを再解凍します。

注意 ダウンロードしたアセンブリ・フォルダから WinZip を使用してファイルを解凍する際、「フォルダ名を使用する」オプションを選択解除します。「フォルダ名を使用する」オプションが選択されている場合、アセンブリが正しく解凍されず、EPM System インストーラを起動できません。

- 解凍が失敗したため、JRE または `Help` フォルダがありません。フォルダを再解凍します。

EPM System インストーラのフリーズ

問題: インストールの完了に近づいたときに、EPM System インストーラが停止し、エラー・メッセージ: 「開始クラス `com.installshield.wizard.Wizard` を利用できませんでした」が表示されます。

解決策:

- コンピュータの使用可能な領域を確認し、必要に応じて空き領域を増やします。使用可能な領域が不足している場合、警告が表示されずにインストールが失敗することがあります。

- インストールに十分な領域がある場合、要約パネルにその他のエラー・メッセージが表示されず、インストールが5分以内に再開されない場合は、インストールを停止し、EPM_ORACLE_HOME/OPatch の createInventory スクリプトを実行します。

「ようこそ」パネルの問題

問題: サポートされていないプラットフォーム、メモリー不足またはホスト名の解決に関する警告メッセージが表示されます。EPM System インストーラは、システムにサポートされているオペレーティング・システムがあり、インストールを実行するための最小メモリー要件を満たしているかどうかを確認し、コンピュータのホスト名を確認します。

解決策: メモリーの警告またはサポートされていないプラットフォームの警告が表示される場合は、インストールに問題がある可能性があることに注意してください。マシンのホスト名が IP アドレスに解決されている場合は警告が表示されません。DNS ルックアップの問題は、先に進む前に解決することをお勧めします。解決しない場合、マシンを再起動すると、ホストが別の IP アドレスに解決されることがあり、多くの場合、実行されていたインストールが中止されます。

再インストール

問題: アンインストールの後、EPM System 製品をインストールする際に問題が発生します。

解決策:

- Windows - 次の手順に従ってマシンをクリーンアップします。
 1. すべてのサービスを停止します。
 2. Windows の「プログラムの追加と削除」オプションからアンインストールします。
 3. C:/Documents and Settings/install_user/で、.oracle.instances を削除します。
 4. program files/common files/installshield/universal/common を program files/common files/installshield/universal/common_hyperion に変更します。
 5. システムを再起動します。
- UNIX - ~/oraInventory/ContentsXML/inventory.xml から以前のインストールのエントリをすべて除去します(除去しないと、インストーラは MIDDLEWARE_HOME を認識しません)。

Oracle Database のインストール中のインストール・エラー

問題: Oracle Database のインストール時に、EPM System インストーラによるインストール中に ORA-12638 エラーが発生します。

解決策:

EPM System インストーラでは、配置を実行するユーザーはサーバーの管理者グループのメンバーである必要があります。今後の配置では、ユーザーを管理者グループのメンバーにしてください。配置途中の場合は、次の手順を実行することで、エラーを回避して配置を続行できます:

1. 「中止」をクリックします。
2. テキスト・エディタで `EPM_ORACLE_HOME/OracleDB/product/11.2.0/dbhome_1/NETWORK/ADMIN/sqlnet.ora` を開きます。
3. 次の行を変更します:

```
SQLNET.AUTHENTICATION_SERVICES= (NTS)
```

先:

```
SQLNET.AUTHENTICATION_SERVICES= (NONE)
```

4. 「再試行」をクリックします。

アップグレード

サブトピック

- [EPM System コンフィグレータがアップグレード後に起動しない](#)
- [アップグレード後に Essbase Studio カタログが破損する](#)

EPM System 製品をアップグレードする際は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の「EPM System 製品のアップグレード」のアップグレード・チェックリストに記載されているハイレベルのタスクをすべて実行してください。

注: Shared Services 以外の EPM System 製品については、「旧リリースからのデータのインポート」タスクを分散環境のマシン 1 台だけで実行します。複製されたデータを他のマシンにコピーせずにこのタスクを後に続くマシンで実行すると失敗しますが、最初のマシンでタスクが成功すれば問題にはなりません。

EPM System コンフィグレータがアップグレード後に起動しない

問題: 旧リリースをアンインストールせずにこのリリースにアップグレードすると、「構成」をクリックしたときに、EPM System コンフィグレータが EPM System インストーラから起動しません。

この問題は、PATH 変数の文字制限を超過したときに発生します。

解決策: PATH 変数を編集して旧リリースへの参照をすべて削除します。

アップグレード後に Essbase Studio カタログが破損する

問題: Essbase Studio リリース 11.1.1.4 からリリース 11.1.2.3 にアップグレードした後、Essbase Studio カタログが破損しています

解決策: この問題を回避するには、次のタスクを実行します:

1. Essbase Studio カタログのバックアップを取ります。
2. Studio コンソールを使用して、Essbase Studio カタログ全体を xml 形式にエクスポートします。
3. カタログをクリアします:
 1. Essbase Studio サーバーを停止します。
 2. EPM_ORACLE_HOME/products/Essbase/EssbaseStudio/Server/database/common/database_type に変更して、データベース・クライアントを使用して次のコマンドを実行します。

```
catalog_schema_drop.sql
catalog_schema.sql
```
 3. Essbase Studio サーバーを起動して、Essbase Studio カタログ・コンテンツを初期化します。
4. xml ファイルからカタログ全体を Studio カタログにインポートします。

構成のヒントと解決策

サブトピック

- [分散環境](#)
- [Java ヒープ・サイズ](#)
- [製品データベース](#)
- [EPM System コンフィグレータの起動](#)
- [Oracle HTTP Server の構成](#)
- [複数の Web アプリケーション配置でのメモリー不足エラー](#)
- [Shared Services データベースの初回構成](#)
- [クラスタ化された SQL Server 配置への接続](#)
- [JAR ファイルがない](#)
- [構成エラー・メッセージ](#)
- [「構成」タスク・パネル: 表示されない製品](#)
- [非表示タスクの構成エラー](#)
- [「データベース構成」の使用できないオプション](#)
- [リモート配置タイムアウト](#)
- [構成エラーなしのアプリケーション・サーバーの配置の失敗](#)
- [1つのドメインへの Web アプリケーションの移動](#)

インストールの問題については、65 ページの「インストールのヒントとトラブルシューティング」を参照してください。

ヒント: 前提条件チェックが原因で構成プロセスが止まってしまう場合、警告を理解した上で構成の続行が可能と考えられるときは、`-ignoreChecks` オプションを指定して EPM System コンフィグレータを実行すれば、前提条件チェックを無視して先に進むことができます。

分散環境

分散環境では、1つのマシンで EPM System 製品の構成を完了した後、EPM System コンフィグレータをクローズしてから、別のマシンの構成を開始します。

Java ヒープ・サイズ

Windows 環境でサービスを使用して Web アプリケーション・サーバーを開始および停止する際に、Java ヒープ・サイズを変更できます。バッチ・ファイルまたは Windows レジストリで変更できます。製品に変更を行った後は、Web アプリケーション・サーバーを再起動する必要があります。詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Deployment Options Guide を参照してください。

製品データベース

データベースのバックアップおよびリカバリにおいて柔軟性を確保するために、独自のデータベース・スキーマに各 EPM System 製品を配置することをお勧めします。プロトタイプ環境および開発環境で、すべての製品に対して1つのデータベースを構成すれば問題ありません。

EPM System コンフィグレータの起動

問題: EPM System のインストールと構成を正常に完了した後、Windows の「スタート」メニューから EPM System コンフィグレータを起動できません。次のメッセージが表示されます:

致命的なエラー: 環境変数が正しく設定されていないというメッセージで環境変数のチェックが失敗しました

解決策: コンピュータを再起動します。

Oracle HTTP Server の構成

問題: Oracle HTTP Server での SSL の構成時に、エクスポート済の `ewallet.p12` ファイルを開こうとすると、正しいパスワードを入力したにもかかわらず次のエラー・メッセージが表示されます:

パスワードが正しくありません。再試行してください。

解決策: ウォレットを開けないのは、Oracle Wallet Manager の欠陥によるものです。Oracle Wallet Manager 11g では、OpenSSL などのサードパーティ・ツールによって作成された PKCS12 キーストアを読み込めません。この問題が解決されるまで、新しい `ewallet.p12` ファイルを読むには Oracle 10g クライアントに付属の Oracle

Wallet Manager を使用し、Oracle HTTP Server 11gR1 との使用に保存しておいてください。

Oracle Wallet Manager の 10g バージョンを入手するには、次の URL から Oracle 10g クライアントをダウンロードし、管理者コンポーネントをインストールします：
<http://www.oracle.com/technology/software/products/database/oracle10g/htdocs/10201winsoft.html>

複数の Web アプリケーション配置でのメモリー不足エラー

問題: 複数の Web アプリケーションが WebLogic 管理サーバーまたは WebSphere Application Server に配置される場合、メモリー不足メッセージが配置時に表示されます。

解決策:

- **WebLogic:** WebLogic 管理サーバーのデフォルトのメモリー設定を大きくします。
- **WebSphere:** 一度に少数の Web アプリケーションを配置し、すべての EPM System 製品を同じプロファイルに配置します。

Shared Services データベースの初回構成

問題: EPM System コンフィグレータを初回構成のために実行すると、「Shared Services データベースの初回構成を実行」オプションを選択できません。

解決策: このシナリオで EPM System を構成するには:

1. コマンド・ラインから-forceRegistry オプションを使用して、EPM System コンフィグレータを開始します:
2. Foundation Services を構成します:
Foundation Services のタスクを「共通設定」、「データベースの構成」、「アプリケーション・サーバーへの配置」の順に選択します。
3. EPM System コンフィグレータを終了します。
4. EPM System コンフィグレータを通常どおり再起動し、残りの EPM System 製品を構成します。

クラスタ化された SQL Server 配置への接続

問題: クラスタ化された SQL Server 配置に接続するよう EPM System を構成する必要があります。

解決策: EPM System コンフィグレータで、「データベースの構成」画面の「サーバー」フィールドに SQL Server クラスタの仮想ホストを入力します。

JAR ファイルがない

問題: EPM System 製品をいくつかインストールした後、EPM System コンフィグレータを起動すると、JAR ファイルがないというエラーが表示され、EPM System コンフィグレータが約 30 秒後に終了します。

解決策: JAR ファイルがないというエラー・メッセージは、インストールが不完全なことを表します。次のメッセージを確認してください。

JAR ファイルがないというエラー・メッセージまたは `oracle_common jars` に関連するエラーが表示される場合、WebLogic のインストールが不完全です。

MIDDLEWARE_HOME の `ohs` および `oracle_common` のサブフォルダを確認します。`ohs` にサブフォルダが 1 つか 2 つのみ含まれる場合、または `oracle_common` が空の場合、Oracle HTTP Server、WebLogic またはアプリケーション開発者のインストールが不完全です。システムの最小スワップ領域を確認してください。この領域は 512MB 以上である必要があります。

ログ・ファイルで失敗の詳細な原因を確認します。Central Inventory ログ・フォルダの OUI ログを確認することから始めます。63 ページの「[Central Inventory ログ](#)」を参照してください。

構成エラー・メッセージ

注: トラブルシューティングを目的とする場合、一度に 1 製品または 1 コンポーネントずつ構成タスクを実行します。

- **問題:** 構成が失敗するか、構成時にエラーが表示されます。

解決策: `EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/config` にある `configtool_summary.log` ファイルを確認します。

- **問題:** Oracle Database を初めて構成したとき、`EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/config` の `configtool.log` ファイルに次のエラー・メッセージが追加されます。

ORA-00917: カンマがありません。

このエラーは、データベースが US7ASCII データベース文字セットで構成されている場合に発生します。

解決策: UTF-8 文字セットまたは無制限多言語サポートの他の文字セットを使用してデータベースを再作成します。EPM System リリース 11.1.3 では、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide に記載されているとおり、これらの文字セットのみがサポートされています。

- **問題:** EPM System コンフィグレータで、Oracle Configuration Manager の構成タスクが失敗したことが示されます。これは、構成時に Oracle Configuration Manager が使用可能でない場合に起こります。

解決策: Oracle Configuration Manager が使用可能な状態で EPM System コンフィグレータを再起動し、「Oracle Configuration Manager の構成」タスクを選択します。

- **問題:** Financial Management アプリケーション・サーバーで DCOM ユーザーを構成しようとする、EPM System コンフィグレータが失敗します。

解決策: Financial Management アプリケーション・サーバーに Financial Management IIS Web アプリケーション・コンポーネントをインストールしてから、EPM System コンフィグレータを再度実行し、DCOM ユーザーを構成します。

「構成」タスク・パネル: 表示されない製品

問題: 「構成」タスク・パネルに表示されないコンポーネントまたは製品があります。これは、インストールが不完全な場合に発生します。

解決策: EPM_ORACLE_HOME/diagnostics/logs/install の installTool-install ログおよび product-install.log を確認し、インストールが完了していないコンポーネントがあるかどうか確認します。

非表示タスクの構成エラー

問題: その他の構成タスクは成功しますが、事前構成または Shared Services への製品の登録など、EPM System コンフィグレータのタスク選択画面に表示されなかったタスクに対する構成エラー・メッセージが表示されます。

解決策: 戻って、失敗した非表示タスクを含む各製品の最上位レベルのチェック・ボックスを選択します。EPM System コンフィグレータは非表示タスクを完了します。

「データベース構成」の使用できないオプション

問題: 「データベース構成」パネルのオプションが使用できません。

解決策: インストールに使用したのと同じユーザー・アカウントを使用して、システムを構成していることを確認します。

リモート配置タイムアウト

問題: Web アプリケーションのリモート配置に失敗し、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/config/configtool.log に次の例外が表示されます: 実行したアクションが60,000ミリ秒でタイムアウトしました。

解決策: 次の手順を行います:

1. 次の行を含む EPM_ORACLE_HOME/common/config/11.1.2.0/configTool-options.properties ファイルを作成します:

```
deployment.remote.timeout=timeout in milliseconds
```

たとえば、`deployment.remote.timeout=300000` は、5 分後のタイムアウト (300,000 ミリ秒) を指定します。

2. Web アプリケーションを再配置します。

構成エラーなしのアプリケーション・サーバーの配置の失敗

問題: 製品がアプリケーション・サーバーに配置されませんが、構成エラーはありません。

解決策: `EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/config` の `configtool.log` を確認します。このファイルには、配置プロセスのすべてのエラーが記録されます。エラーを確認できない場合は、アプリケーション・サーバーを再配置します。

1 つのドメインへの Web アプリケーションの移動

問題: EPM System Web アプリケーションが別々の WebLogic ドメインに配置されていますが、管理と監視を容易にするために 1 つのドメインに移動させます。

注: すべての EPM System 製品を 1 つのドメインに配置することをお勧めします。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。

解決策: 次のいずれかの手順を実行します:

- Foundation Services のドメインが正常に機能している場合、すべての EPM System Web アプリケーションをそのドメインに配置します。
 1. そのドメインの Foundation Services マシンで WebLogic 管理サーバーを実行します。
 2. Foundation Services ドメイン以外のドメインに配置されている Web アプリケーションを再配置します。

EPM System コンフィグレータで、「Web アプリケーションを既存のドメインに配置してください。」を選択し、Foundation Services マシンのホスト、ポート、およびドメイン名を入力します。
 3. そのマシンに配置済の Web アプリケーションを Foundation Services マシンに再配置します。
- すべての EPM System Web アプリケーションを新しいドメインに配置するには:
 1. WebLogic 構成ウィザードを使用して基本ドメインを作成します。
 2. 新しいドメインの WebLogic 管理サーバーを起動します。
 3. Foundation Services マシン以外のマシンに配置されていた Web アプリケーションを再配置します。

EPM System コンフィグレータで、「Web アプリケーションを既存のドメインに配置してください。」を選択し、新しいドメインのホスト、ポート、およびドメイン名を入力します。

4. Foundation Services マシンの Web アプリケーションを新しいドメインに再配置します。

Windows 統合認証のサポート

問題: Windows 統合認証を使用して EPM System データベースに接続する必要があります。

注: Windows 統合認証は、SQL Server データベースに対してのみサポートされています。

解決策: Windows 統合認証用に SQL Serverw を設定します。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。

同時ユーザーのメモリー不足エラー

問題: 製品の実行中に同時ユーザーが多数いると、メモリー不足エラーになります。

解決策: アプリケーション・サーバー環境で JAVA_OPTS コマンドを使用して、アプリケーション・サーバー・メモリーを増やします。

接続の失敗の解決およびサービスの再開

サービスを再起動するには、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品の起動および停止に関する項を参照してください。

Windows タスク・マネージャを使用して、サービスが実行中であることを確認できます。

▶ Windows タスク・マネージャでサービスを確認するには:

- 1 「[Ctrl]を押しながら[Shift]と[Esc]」を押します。
 - 2 「Windows セキュリティ」で、「タスク・マネージャ」をクリックします。
 - 3 「Windows タスク・マネージャ」の「プロセス」を選択します。
 - 4 製品の実行可能ファイルの名前を特定します。
- アクティブなプロセスの一覧で、ファイルの名前が見つからない場合は、開始する必要がある場合があります。

- 一覧にある場合は、「メモリーの使用状況」を選択します。500MB 以上を使用している場合は、サービスの再起動を必要とするメモリー・エラーが発生している可能性があります。

デモ用証明書のメッセージ

問題: 管理対象サーバーからの標準出力に、「デモ用の信頼性のある CA 証明書が本番モードで使用されています」で始まり「デモ用の信頼性のある CA で署名された証明書を信用するので、システムがセキュリティ攻撃に対して脆弱になっています」と警告するメッセージが表示されます。

解決策: テスト環境での作業ではない場合、デモ用証明書を除去してメッセージが表示されないようにします。Oracle Enterprise Performance Management System Security Configuration Guide を参照してください。

WebLogic 管理コンソールのポートの変更

配置後に、WebLogic 管理サーバー・ポートを変更する場合、epmsys_registry を使用して EPM System 用のポートを変更する必要があります。これは、EPM System コンフィグレータで WebLogic ドメイン・パネルが表示されるのは配置時に一度のみであるためです。Oracle Enterprise Performance Management System Deployment Options Guide の Shared Services レジストリの更新に関する項を参照してください。

WebSphere の問題

統合ソリューション・コンソール実行中の Web アプリケーションの配置

WebSphere 管理コンソール(統合ソリューション・コンソール)が、Web アプリケーションの配置時に実行中であるかどうかは問題ありません。

配置中の管理者ユーザーの指定

runWASDeployment.bat [sh] のスクリプトを実行すると、管理者ユーザーとパスワードを求めるプロンプトが表示されます。これは、新しく作成されたプロファイルの統合ソリューション・コンソールへのログインに使用される新しいユーザー名とパスワードです。これは、他の EPM System ユーザー名およびパスワードと一致する必要はありません。

統合ソリューション・コンソールのポート番号の確認

この URL(<https://localhost:port/ibm/console/login.do?action=secure>)の WebSphere 管理コンソール(統合ソリューション・コンソール)にログインする際、ポート番号を確認するために、`WAS_HOME/profiles/DM_PROFILE_NAME/properties/portdef.props` を開き、`WC_adminhost_secure` プロパティを検索します。

統合ソリューション・コンソールの起動

問題: URL を入力するとき、統合ソリューション・コンソールが使用できません。

解決策: 次のことを確認してください:

- `WAS_HOME/profiles/DM_PROFILE_NAME/bin/startManager.bat [sh]` および `WAS_HOME/profiles/PROFILE_NAME/bin/startNode.bat [sh]` を起動したことを確認してください。
- `WAS_HOME/profiles/DM_PROFILE_NAME/properties/portdef.props` で `WC_adminhost_secure` プロパティを検索して、ポート設定を確認してください。
- Internet Explorer で「この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります。」というメッセージが表示されたら、「このサイトの閲覧を続行する (推奨されません)」をクリックします。Firefox で「接続の安全性を確認できません」というメッセージが表示されたら、「危険性を理解した上で接続するには」をクリックして、「例外を追加」を選択し、「セキュリティ例外を承認」をクリックします。

サーバーの起動、停止および再起動

WebSphere アプリケーション・サーバーを起動するには、統合ソリューション・コンソールにログインします。「サーバー」、「サーバー・タイプ」、「WebSphere アプリケーション・サーバー」の順に選択します。起動するサーバーを選択して、「開始」、「停止」または「再起動」の順にクリックします。次のスクリプトを使用することもできます:

```
WAS_HOME
/profiles/    PROFILE_NAME
/bin/start [stop] Server.bat [sh]    SERVER_NAME
```

アプリケーションを再起動

アプリケーションの管理対象サーバーを起動するには、統合ソリューション・コンソールにログインします。「アプリケーション」、「アプリケーション・タイプ」、「WebSphere エンタープライズ・アプリケーション」の順に選択します。Web アプリケーションを選択して、「停止」または「開始」をクリックします。次のスクリプトを使用することもできます:

```
WAS_HOME  
/profiles/ PROFILE_NAME  
/bin/start [stop] Server.bat [sh] SERVER_NAME
```

EAR ファイルの更新

WebSphere では自動更新がサポートされていません。EAR ファイルを更新するには、統合ソリューション・コンソールを使用して、アプリケーションを再配置するか更新する必要があります。

EAR ファイルの再配置

再配置の前にアプリケーションを停止することをお勧めします。アプリケーションを再配置するには: 統合ソリューション・コンソールにログインします。「アプリケーション」、「アプリケーション・タイプ」、「WebSphere エンタープライズ・アプリケーション」の順に選択します。再配置する Web アプリケーションを選択して、「更新」をクリックします。新しい EAR ファイルへのパスを入力し、ウィザードの手順に従います。次に、ノードを同期します。

または、WebSphere エンタープライズ・アプリケーションパネルで、「アンインストール」をクリックして、「インストール」をクリックします。新しい EAR ファイルへのパスを入力し、ウィザードの手順に従います。次に、ノードを同期します。

ノードを同期するには: WebSphere アプリケーション・サーバー管理コンソールにログインし、「システム管理」セクションを展開して、「ノード」をクリックします。同期するノードを選択して、「同期」または「完全な再同期」をクリックします。

プロファイルの削除

▶ プロファイルを削除するには:

- 1 アプリケーション・サーバーをすべて停止します。
- 2 デプロイメント・マネージャおよびノード・エージェントを停止します。
- 3 次のコマンドを実行します:

```
WAS_HOME/bin/manageprofiles.bat[sh] -delete -profileName EPMSystemDMPProfile
```

```
WAS_HOME/bin/manageprofiles.bat[sh] -delete -profileName EPMSystemProfile
```

```
WAS_HOME/bin/manageprofiles.bat[sh] -validateAndUpdateRegistry
```

- 4 ファイル・システムからプロファイル・ディレクトリを削除します。

注: または、このプロファイルの Java プロセスをすべて強制終了し、ファイル・システムからプロファイル・ディレクトリを削除してから、`WAS_HOME/bin/manageprofiles.bat [sh] - validateAndUpdateRegistry` を実行できます。

WebSphere インストールのビット・タイプの確認

WebSphere インストールが 32 ビットまたは 64 ビットのいずれであるかを確認するには、スクリプト `WAS_HOME/Plugins/bin/versionInfo.bat (.sh)` を実行します。出力の「アーキテクチャ」行でバージョン番号を確認します。

UNIX 固有の問題

サブトピック

- [TC2000 Solaris での Web アプリケーション起動に時間がかかる](#)
- [AIX での Web サーバー構成の失敗](#)
- [JAR ファイルが見つからない](#)
- [異なる UNIX システムへのインストール](#)
- [JVM を準備しているというエラー・メッセージ](#)
- [Oracle 共通ファイルのインストール](#)

TC2000 Solaris での Web アプリケーション起動に時間がかかる

問題: TC2000 Solaris 環境で、Web アプリケーションの起動にかかる時間が長すぎます。

解決策: TC2000 Solaris 以外の環境に EPM System Web アプリケーションをインストールします。

AIX での Web サーバー構成の失敗

問題: Foundation Services のインストール後、「Oracle Configuration Manager の構成」タスクと「Web サーバーの構成」タスクは失敗しますが、その他のタスクは成功します。

解決策: `/usr/lib/libm.a` が存在していることと、オペレーティング・システムに次のファイル・セットが存在していることを確認します:

- `bos.adt.base`
- `bos.adt.lib`
- `bos.adt.libm`
- `bos.perf.libperfstat`
- `bos.perf.perfstat`

- bos.perf.proctools
- xlC.aix61.rte:9.0.0.1
- xlC.rte:9.0.0.1

欠落しているファイル・セットがある場合は、次の手順を実行します:

1. Foundation Services をアンインストールします。
2. 欠落しているファイル・セットをインストールします。
3. rootpre.sh を実行します。
4. 再度 Foundation Services をインストールして構成します。

JAR ファイルが見付からない

問題: EPM System コンフィグレータが次のエラー・メッセージを表示して停止します: 一部の参照されたjarが見付かりません。

エラー・トレースは次の例のようになります:

```
$ ./configtool.sh -console
Launching the Hyperion Configuration Utility, please wait...
Running preconfig checks...
Running EPM_ORACLE_HOME check...
  EPM_ORACLE_HOME environment variable value:
  /HYPEPM2/Oracle/Middleware/EPMSysstem11R1
  JAVA_HOME environment variable value: /HYPEPM2/Oracle/Middleware/EPMSysstem11R1/..
  jdk160_11
EPM_ORACLE_HOME check succeeded
Running .oracle.products check... .oracle.products check succeeded
Running Jars manifest check...
  Time spent for manifests parsing: 80592 ms
  Maximum jars depth achieved: 9, while restriction was: unrestricted
  Parsed 417 manifests
  Total jars and classpath entries encountered: 417
  Total not-existing referenced classpath entries count: 62
  Total classpath elements to check: 67
  ERROR: /HYPEPM2/Oracle/Middleware/oracle_common/modules/
org.apache.commons.beanutils_1.6.jar not exists; file depth: 1; referenced from /
HYPEPM2/Oracle/Middleware/EPMSysstem11R1/common/config/11.1.2.0/configtool.jar
  ERROR: /HYPEPM2/Oracle/Middleware/oracle_common/modules/oracle.odl_11.1.1/ojdl.jar
not exists; file depth: 2; referenced from /HYPEPM2/Oracle/Middleware/EPMSysstem11R1/
common/jlib/11.1.2.0/epm_j2se.jar referenced from /HYPEPM2/Oracle/Middleware/
EPMSysstem11R1/common/config/11.1.2.0/configtool.jar
  ERROR: /HYPEPM2/Oracle/Middleware/oracle_common/modules/oracle.jmx_11.1.1/
jmxframework.jar not exists; file depth: 2; referenced from /HYPEPM2/Oracle/
Middleware/EPMSysstem11R1/common/jlib/11.1.2.0/epm_soa.jar referenced from /HYPEPM2/
Oracle/Middleware/EPMSysstem11R1/common/config/11.1.2.0/configtool.jar
  ERROR: /HYPEPM2/Oracle/Middleware/oracle_common/modules/oracle.dms_11.1.1/dms.jar
not exists; file depth: 2; referenced from /HYPEPM2/Oracle/Middleware/EPMSysstem11R1/
common/jlib/11.1.2.0/epm_j2se.jar referenced from /HYPEPM2/Oracle/Middleware/
EPMSysstem11R1/common/config/11.1.2.0/configtool.jar
  ERROR: /HYPEPM2/Oracle/Middleware/oracle_common/modules/oracle.http_client_11.1.
1.jar not exists; file depth: 2; referenced from /HYPEPM2/Oracle/Middleware/
```

```
EPMSysstem11R1/common/jlib/11.1.2.0/epm_soa.jar referenced from /HYPEPM2/Oracle/  
Middleware/EPMSysstem11R1/common/config/11.1.2.0/configtool.jar  
FATAL ERROR: Jars manifest check failed with message "Some referenced jars do not  
exist"  
Exiting in 30 seconds
```

解決策: 現在のユーザーを、他の Oracle ソフトウェアをインストールするユーザーのグループに追加し、その後 EPM System をアンインストールしてインストールをやり直します。

EPM System をインストールするユーザーは、他の Oracle ソフトウェアをインストールする他のユーザーと同じ UNIX グループのメンバーである必要があります。この要件は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の新規配置での EPM System 製品のインストールに関する項で説明されています。

異なる UNIX システムへのインストール

問題: \$HOME が UNIX システム間で共有されている場合、異なる UNIX システムに同時に EPM System 製品をインストールできません。

EPM System インストーラを異なる UNIX システムで同時に実行すると、EPM System インストーラは、一時インストール・ファイルを同じ \$HOME/InstallShield ディレクトリに書き込もうとするため、各インストールが失敗します。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストーラでは、サードパーティのツールである InstallShield が使用され、InstallShield の制限がこの競合の原因になります。

解決策: 1 つの UNIX システムでインストールを完了してから、同じユーザーが別の UNIX システムでのインストールを開始するようにします。

JVM を準備しているというエラー・メッセージ

問題: 「Java仮想マシンを準備しています...ファイル書込みエラー」というエラー・メッセージが表示されます。これは、一時ディスク領域が不十分であることを示しています。

解決策: /var/tmp と /tmp の一時ファイルを削除します。コンピュータに対するルート権限があり、安全に他の未使用一時ファイルを除去できる場合は除去してください。

Oracle 共通ファイルのインストール

問題: AIX 環境で Oracle 共通ファイルのインストールが失敗し、common-oracle-common-oui-out.log ファイルに次のようなエラー・メッセージが含まれます:

```
コマンドlsattr -El proc0 |grep freqを使用してCPUの自動チェックを実行できませんでした。失敗しました。
```

解決策: /usr/sbin がパスに含まれていることを確認してください。

この章の内容

Foundation Services アップグレード	85
Foundation Services の起動	86
EPM Workspace	87
Shared Services	91
ライフサイクル管理	102
Performance Management Architect	109
Smart View	116

Foundation Services アップグレード

アップグレードに関する一般的な情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

問題: 旧リリースから FDM をアップグレードする際、旧リリースのアプリケーション・データを保持する必要があります。

解決策: スキーマ更新ユーティリティを使用してアプリケーションをアップグレードします。新しい場所にデータを複製した場合、アプリケーションを追加するように求められます。追加した各アプリケーションについて、複製した FDM データ・フォルダとデータベース情報を指定します。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。

Shared Services のアップグレードをトラブルシューティングするには、次のログ・ファイルを確認します:

- 旧リリースの Shared Services の HYPERION_HOME/migrate/logs フォルダ:
 1. SharedServices_Migrate_Summary.log
 2. SharedServices_Migrate.log
- Shared Services リリース 11.1.2.2 の EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/upgrades/foundation フォルダ:
 1. SharedServices_Upgrade_Summary.log

注: 次のエラー・メッセージは無視しても構いません: EPMCSS-01572:
Shared Servicesセキュリティ管理ユーザーのプロビジョニング解除に失敗しました。

2. 個々のログ(サマリー・ログにエラーが記録されている場合)。

EPM System 製品のアップグレードの詳細は、70 ページの「アップグレード」を参照してください。

問題: アップグレード後、Shared Services でユーザー、グループ、またはプロビジョニング情報が表示されません。

この問題は、アップグレード時に旧リリースの Shared Services からデータをインポートしていない場合に発生します。

注: EPM System 製品をアップグレードする前に、旧リリースからデータをエクスポートする必要があります。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

解決策: EPM System コンフィグレータで、Foundation タスク「旧リリースからのデータのインポート」を選択します。

注: プロビジョニング情報は、アップグレード済の製品に対してのみ提供されます。

問題: EPM System コンフィグレータでの構成時に、Foundation タスク「旧リリースからのデータのインポート」を選択すると、ファイルが存在しないためのエラーが発生します。

この問題は、アップグレード前に旧リリースの Shared Services からデータをエクスポートしていない場合に発生します。EPM System 製品をアップグレードする前に、旧リリースからデータをエクスポートする必要があります。

解決策: 次の手順を行います:

1. 旧リリースから Shared Services データをエクスポートします。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

注: データのエクスポート前に、誤って旧リリースの Shared Services をアンインストールした場合は、旧リリースを再インストールしてからデータをエクスポートしてください。その後で、旧リリースの Shared Services をアンインストールできます。

2. EPM System コンフィグレータで新しいリリースを構成する際、Foundation タスク「旧リリースからのデータのインポート」を選択します。

Foundation Services の起動

問題: SSL モードで Oracle Database を使用する場合に、Foundation Services Web アプリケーションを起動できません。

解決策: データベース証明書を次のトラスト・ストアにインポートします:

EPM Workspace

サブトピック

- ログオンに時間がかかる
- EPM Workspace に表示されない製品または製品メニュー
- 切り捨てられたメニュー
- Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の起動
- Internet Explorer でのアイコンの点滅
- Internet Explorer で無効のアイコンが白い背景で表示される
- Mozilla Firefox での空の画面
- 404 エラー・メッセージ
- パフォーマンスの低下

EPM Workspace に関する一般的なヒントと推奨事項:

- Shared Services の情報を含む EPM Workspace インストールについての全構成情報は、次の URL で使用可能です。

`http://hostname:port/workspace/debug/configInfo.jsp`

ここで、hostname は、Foundation Services サーバーの名前で、port は、アプリケーション・サーバーがリスニングしている TCP ポートです。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide のポートに関する項を参照してください。

注: この URL にアクセスするには、クライアント・デバッグを有効にする必要があります: EPM Workspace (`http://server:port/workspace`) にログオンし、「ナビゲート」、「管理」、「Workspace サーバー設定」の順に選択します。

クライアント・デバッグを有効にした後、EPM Workspace からログアウトし、ブラウザを閉じてから再度ログオンします。

- ログで起動の失敗に関する情報を確認してください。第 3 章「EPM System ログの使用方法」を参照してください。

ログオンに時間がかかる

問題: EPM Workspace へのログオンに非常に時間がかかります。

解決策: 統合されているすべてのアプリケーションが起動していることを確認します。統合されているアプリケーションが起動していない場合、「Workspace サーバー設定」パネルでそのアプリケーションを無効にします。「Workspace サーバー設定」にアクセスするには、「ナビゲート」、「管理」、「Workspace サーバー設定」の順に選択します。「使用可能な製品」をクリックして、起動されない製品の選択を解除します。詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide を参照してください。

EPM System 診断を実行することもできます。手順については、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide のインストールの検証と配置の確認に関する項を参照してください。

EPM Workspace に表示されない製品または製品メニュー

問題: EPM Workspace に表示されるはずの製品が表示されません。

解決策:

- 管理者に連絡して、ユーザーの権限を確認します。
- EPM Workspace に統合されている製品のリストについては、`http://host.example.com:port/workspace/status` に移動してください。
- 「ナビゲート」、「管理」、「Workspace サーバー設定」の順に選択します。「Workspace サーバー設定」でクライアント・デバッグを有効にし、EPM Workspace からログオフします。ブラウザを閉じてから、再度ログオンします。
- ユーザーの役割のリストは、`http://host.example.com:port/workspace/debug/userInfo.jsp` にあります。

注: EPM System 製品のインストールと構成が終わったら、Web サーバー構成タスクを再度実行して、Web サーバーおよび Foundation Services 管理対象サーバーを再起動する必要があります。

切り捨てられたメニュー

問題: Internet Explorer 7 以降のバージョンでは、EPM Workspace にログオンして「ナビゲート」、「アプリケーション」、次に製品、そして「メニュー」を順に選択すると、製品のアプリケーションが表示されません。

注: この問題は、他のメニューでも発生することがあります。

解決策: Internet Explorer 7 のセキュリティ・オプションを編集し、サイズまたは位置が制約されない、スクリプトによって起動されるウィンドウを許可するオプションを使用可能に設定します。

Oracle Business Intelligence Enterprise Edition の起動

問題: EPM Workspace から Oracle Business Intelligence Enterprise Edition を起動しようとすると、直接起動できますが、Javascript エラー・メッセージ(5250行「Object not found」)が表示されます。

このエラーは、WebLogic Server 上で Oracle Business Intelligence Enterprise Edition 10.x が実行されていて、EPM Workspace のフロントエンド Web サーバーが IIS である場合に発生します。

解決策: Oracle Business Intelligence Enterprise Edition のファイル analytics.war の web.xml に次の行を追加して、WAR ファイルを再配置します:

```
<mime-mapping>
  <extension>xml</extension>
  <mime-type>text/xml</mime-type>
</mime-mapping>
<mime-mapping>
  <extension>xsd</extension>
  <mime-type>text/xml</mime-type>
</mime-mapping>
```

Internet Explorer でのアイコンの点滅

問題: Internet Explorer における EPM Workspace では、アイコンが点滅し、常にダウンロードしているように見えます。これは、Web サーバーでの SSL および HTTP 圧縮が使用可能なときに、Internet Explorer により静的コンテンツがキャッシュされない場合に発生する可能性があります。

解決策: 次の手順に従って、Web サーバー・レベルで静的コンテンツに対してコンテンツの有効期限ヘッダーを適用します:

1. Web サーバー・ディレクトリ構造で静的コンテンツ・フォルダを検索します。
2. 「プロパティ」をクリックして、「HTTP ヘッダー」・タブを選択します。
3. 「コンテンツの有効期限を有効にする」を選択し、有効期間を選択して 1 日と指定します。

Internet Explorer で無効のアイコンが白い背景で表示される

問題: Internet Explorer の EPM Workspace により、無効のアイコンがクライアント・マシン上に白い背景で表示されます。

解決策: この問題を解決するには、次のようにします:

1. EPM Workspace で、「ファイル」、「プリファレンス」の順に選択します。
2. 「全般」タブで、「スクリーン・リーダー・サポートの使用可能」の選択を解除します。
3. EPM Workspace を終了し、再度 EPM Workspace にログインします。

Mozilla Firefox での空の画面

問題: Mozilla Firefox バージョン 4 以上を使用すると、ログオン画面のかわりに空の画面が表示されます。

解決策: Remote XUL Manager アドオンをインストールおよび構成して、Firefox を再起動します。

<https://addons.mozilla.org/en-us/firefox/addon/remote-xul-manager> からアドオンをインストールします。

アドオンを構成するには:

1. Firefox で「ツール」、「Web 開発」、「Remote XUL Manager」の順に選択します。
2. 「Remote XUL Manager」ウィンドウで、「追加」をクリックし、EPM System Web サーバーで使用する各ホストまたはドメインの名前を入力します。

たとえば、通常の配置で、テストの EPM System Web サーバーに `epmtest.example.com`、本番サーバーに `epm.example.com` があります。Remote XUL Manager を両方のホスト名(`epmtest.example.com` および `epm.example.com`)またはドメイン名のみ(`example.com`)で構成できる可能性があります。

注: EPM System Web サーバーにショート・ホスト名(たとえば、`http://myserver/`など)または IP アドレス(たとえば、`http://10.12.1.2/`など)でアクセスする場合、この名前または IP アドレスも追加する必要があります。マネージャ。

前の手順に従ってエンドユーザーへの配布用にアドオンをインストールおよび構成する管理者は、次の追加手順を実行する必要があります:

1. 「Remote XUL Manager」ウィンドウで、「ファイル」、「Generate Installer」の順にクリックして、ドメインを選択します。
2. (オプション)エンド・ユーザーのメッセージをカスタマイズします。
3. XPI ファイルを生成して、エンドユーザーに配布します。

各エンドユーザーは、XPI ファイルを Firefox にドラッグ・アンド・ドロップして、Firefox を再起動する必要がある場合があります。

Firefox はドメインのリストを表示し、エンドユーザーのマシンから Remote XUL Manager 自体が削除されます。

404 エラー・メッセージ

問題: 正常に動作した後、EPM Workspace Web アプリケーションで 404 エラー・メッセージを表示するようになります。

解決策: WebLogic ドメインのログで、「サーバーの状態をFAILEDに設定しています」というメッセージを確認します。このメッセージが存在する場合、前のエラー・メッセージを確認します。アクセスできないデータベースなどの前のメッセージで示された修正可能な問題を修正して、WebLogic 管理対象サーバーを再起動します。メッセージがない、またはメッセージが既知の条件を示していない場合、管理対象サーバーの再起動で問題が解決する可能性があります。

パフォーマンスの低下

問題: 製品をオフラインにするとパフォーマンスが低下しました。

解決策: EPM Workspace のサーバー設定で、「使用可能な製品」のリストからオフラインの製品の選択を解除します。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace Administrator's Guide の Workspace サーバー設定に関する項を参照してください。

Shared Services

サブトピック

- リモート診断エージェントの実行
- Shared Services へのログオン
- Active Directory の高可用性
- 製品の登録
- ログオンの失敗後のセキュリティ・ロックアウト
- ユーザー名内のアスタリスク
- EPM System 管理者のユーザー名
- AuditHandler メッセージ
- 監査データの削除および Oracle データベースのテーブルスペース
- シングル・サインオン
- Shared Services レジストリの内容と更新
- ユーザー・ディレクトリとプロビジョニング
- 起動およびアクセスに関する問題
- 製品固有の問題

リモート診断エージェントの実行

Shared Services の不具合を報告する前に、リモート診断エージェント(RDA)を実行します。RDA 出力をバグ・レポートに添付します。出力ファイルは、MIDDLEWARE_HOME/ohs/rda にあります。

▶ RDA を実行するには、コマンド・ウィンドウに次のコマンドを入力します:

```
MIDDLEWARE_HOME/ohs/rda/rda.cmd
```

詳細は、MIDDLEWARE_HOME/ohs/rda にある RDA の readme ファイルを参照してください。

Shared Services へのログオン

問題: Shared Services へのログオンに失敗します。

解決策: EPM System 診断を起動して、ユーザー・ディレクトリと Shared Services Web アプリケーションをトラブルシューティングし、製品の Web アプリケーションが起動されているようにします。手順については、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide のインストールの検証と配置の確認に関する項を参照してください。

SharedServices_Security.log ファイルも確認します。製品にログオンできない場合、SharedServices_SecurityClient.log を確認します。第 3 章「EPM System ログの使用方法」を参照してください。

Microsoft Active Directory に対するログオンに失敗する場合、DNS 検索を使用して Active Directory を検索するよう Shared Services が構成されていることを確認します。手順は、次の「Active Directory の高可用性」の解決策を参照してください。Active Directory に対するログオンの失敗の原因のうち最も一般的なものは、ドメイン・コントローラがメンテナンスのため、オフラインであることです。

Active Directory の高可用性

問題: Microsoft Active Directory の高可用性が確実に実現される必要があります。

解決策: DNS 検索を使用して Active Directory を検索するよう Shared Services を構成します:

- ドメイン名を指定します。
- (オプション)サイトと DNS IP アドレスを指定します。

注意 Shared Services での Active Directory の構成に「ホスト名」オプションを選択しないようお勧めします。「ホスト名」オプションは、テスト目的でのみ使用します。

DNS 検索を実行するよう構成されている場合、障害時、Shared Services は DNS サーバーに問い合わせて登録されているドメイン・コントローラを識別し、使用可能なドメイン・コントローラに切り替えます。詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide を参照してください。

注: 高可用性が必要かどうかに関係なく、DNS 検索を使用して Active Directory を検索するよう Shared Services を構成することをお勧めします。

製品の登録

問題: EPM System 製品と Shared Services が異なるマシンにある場合、EPM System 製品を Shared Services に登録できません。次のメッセージが SharedServices_security.log に出力されます:

```
com.hyperion.interop.lib.OperationFailedException: 認証できません。
```

解決策:

- Shared Services に対する管理者のパスワードが正しいことを確認します。
- 原子時計を使用するオンライン・タイム・ソースを利用します。両方のマシンでこのタイム・ソースを使用して同期をとります。

ログオンの失敗後のセキュリティ・ロックアウト

問題: セキュリティ上の理由から、EPM Workspace へのログオンに数回失敗したユーザーをロック・アウトする必要があります。

解決策: 外部ディレクトリ (Microsoft Active Directory や Oracle Internet Directory などの LDAP 対応のユーザー・ディレクトリ) で、何回ログオンに失敗したらユーザーをロック・アウトするかを指定するパスワード・ポリシーを定義します。EPM System は、外部ユーザー・ディレクトリのパスワード・ポリシーによって制御されるすべてのロックに対応します。リリース 11.1.2 の EPM System セキュリティでは、ネイティブ・ディレクトリのパスワード・ポリシーがサポートされないため、指定された回数ログオンを失敗してもネイティブ・ディレクトリ・ユーザーはロック・アウトされません。

ユーザー名内のアスタリスク

問題: ユーザー名にアスタリスク(*)を含むユーザーは、同じようなユーザー名の情報に不正にアクセスできます。

解決策: アスタリスク文字(*)は Shared Services レジストリでの検索でワイルドカード文字として使用されるため、ユーザー名または共通名(CN)に使用しないでください。ユーザー名でサポートされる文字の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide を参照してください。

EPM System 管理者のユーザー名

問題: EPM System 管理者を、"admin"ではなく企業ディレクトリに登録されているユーザーにして、企業のパスワード・ポリシーが管理者に適用されるようにする必要があります。

解決策: Shared Services で、EPM 管理者とするユーザーに管理者の役割をプロビジョニングします。

ヒント: ネイティブの "admin" アカウントには長いランダムなパスワードを割り当てて、アクセスできないようにします。"admin"アカウントは削除できません

AuditHandler メッセージ

問題: SharedServices_Audit.log ファイルに次の行が含まれています:

```
AuditHandler - Server Audit Enable Status:- false
```

解決策: このメッセージは、Shared Services サーバーで監査が有効でないことを表していますが、無視しても問題ありません。

監査クライアントが、ステータスについてサーバーに ping すると、AuditHandler ステータス・メッセージが含まれます。監査が有効な場合、クライアントは監査イベントを処理しますが、有効でない場合は、監査イベントを無視します。

監査データの削除および Oracle データベースのテーブルスペース

問題: Shared Services を使用して監査データを繰り返し削除した後、Oracle データベースからテーブル・スペースが解放されません。

注: Oracle データベースでは、テーブルからデータを削除してもテーブル・スペースは自動的に解放されません。

解決策: 次の手順を行います:

1. Shared Services サーバーを停止し、次のクエリーを実行してテーブルが使用している領域を圧縮します:

```
alter table SMA_AUDIT_ATTRIBUTE_FACT enable row movement
alter table SMA_AUDIT_ATTRIBUTE_FACT shrink space
```

```
alter table SMA_AUDIT_FACT enable row movement
alter table SMA_AUDIT_FACT shrink space
```

2. Shared Services サーバーを再起動します。

シングル・サインオン

問題: Oracle Single Sign-On (OSSO)セキュリティ・エージェントを有効にすると、シングル・サインオン(SSO)に失敗します。

この問題が発生するのは、Shared Services のセキュリティ設定で、SSO プロバイダまたはエージェントとして OSSO が指定され、SSO メカニズムとして「HTTP 要求からリモート・ユーザーを取得」が指定されている場合です

解決策: Oracle Hyperion Shared Services Console を使用して、次のセキュリティ設定を選択します:

- SSO プロバイダ/エージェント - その他
- SSO メカニズム - カスタム HTTP ヘッダー

カスタム HTTP ヘッダーのデフォルト値は HYPLOGIN です。別の値も指定できます。

Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide を参照してください。

Shared Services レジストリの内容と更新

注意 Shared Services レジストリは EPM System 製品の実行に不可欠なため、編集には十分注意してください。Shared Services レジストリに変更を加える場合、常にその前に Foundation Services データベースをバックアップしてください。

レジストリ・エディタ・ユーティリティ - epmsys_registry.bat (Windows) または epmsys_registry.sh (UNIX) - は EPM_ORACLE_INSTANCE/bin にあります。このユーティリティを実行すると、Shared Services レジストリの内容についてレポートが作成されます。Oracle Enterprise Performance Management System Deployment Options Guide の Shared Services レジストリの更新に関する項を参照してください

問題: Shared Services ライフサイクル管理ユーザー・インタフェースにアクセスできない状態で、Shared Services レジストリの内容を表示する必要があります。

解決策: パラメータを使用せずにレジストリ・エディタ・ユーティリティを実行し、registry.html というレポートを生成します。

問題: ディレクトリ情報を変更する必要がありますが、Shared Services ライフサイクル管理ユーザー・インタフェースにアクセスできません。

解決策: レジストリ・エディタ・ユーティリティを実行して配置情報のレポートを作成すれば、Shared Services レジストリをどのように編集すればいいかを判断しやすくなります。

ユーザー・ディレクトリとプロビジョニング

サブトピック

- [プロビジョニングの問題とベスト・プラクティス](#)
- [外部ユーザー、グループ情報とパフォーマンス](#)
- [ヒントと一般的な問題](#)

Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide も参照してください。

プロビジョニングの問題とベスト・プラクティス

既存の LDAP/MSAD ユーザー・ディレクトリがある場合は、EPM System アプリケーションのプロビジョニングを行う前に、標準の LDAP ブラウザを使用して、ユーザー・ログイン情報を保管するユーザー・ディレクトリを調べます。ユーザー・ディレクトリに接続するために LDAP ブラウザで使用される設定は、ユーザー・ディレクトリに接続するために EPM System アプリケーションで使用される設定と同じです。無料の LDAP ブラウザをダウンロードできます。

ブラウザを使用して、次のことを確認します:

- 使用するサーバーからユーザー・ディレクトリに接続できるかどうか
- 応答時間
- ユーザー・ディレクトリの検索の開始点(ベース DN)
- 開始点でのユーザーとグループの数

許容できるログイン・パフォーマンスを確保するには:

- EPM System アプリケーションのグループとユーザーの数を最小限に抑えます。

- EPM System アプリケーションをホストするサーバー・コンピュータが、プロビジョニング・プロセスで使用されるユーザー・ディレクトリをホストするサーバー・コンピュータと地理的に同じ場所にあることを確認します。
- 検索に最適な開始点を検索するか、カスタム・グループ階層を作成します。
- 検索順の最初のアイテムには、最多数のユーザーのログイン元のディレクトリを指定します。

外部ユーザー、グループ情報とパフォーマンス

Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide を参照してください。

問題: 多数の外部ユーザーまたはグループが Shared Services で使用可能なため、パフォーマンスが低下しています。

解決策:

- 必要なユーザーのみを取得するフィルタを設定します。
- グループ URL を設定し、グループ・フィルタをチューニングして、Shared Services が解析してキャッシュを作成する必要があるグループ数を減らすことをお勧めします。これを行うと、実行時のパフォーマンスが著しく向上します。

97 ページの「ユーザーの取得、アプリケーションの登録とセキュリティのロードにかかる時間の短縮」および98 ページの「ユーザー/グループ検索の最大サイズの設定」を参照してください。

問題: LDAP または MSAD グループを使用しない場合も、Shared Services は LDAP および MSAD グループ情報にアクセスします。

解決策: ネイティブ・ディレクトリにグループを作成し、そのグループに LDAP および MSAD ディレクトリのユーザーを割り当て、ユーザー・グループ・オプションを false に設定します。

Shared Services Console を使用して、ユーザー・ディレクトリ構成を変更します。「グループ構成」タブの「グループのサポート」チェック・ボックスが選択されていないことを確認します。

注: グループ URL を設定し、グループ・フィルタをチューニングして、Shared Services が解析してキャッシュを作成する必要があるグループ数を減らすことをお勧めします。これを行うと、実行時のパフォーマンスが著しく向上します。

ヒントと一般的な問題

Shared Services と外部のユーザー・ディレクトリを使用する際に生じる最も一般的な問題の原因:

- CSSConfig 内のグループ URL が間違っていて定義されています。
- ホスト名、ポート、またはドメイン・コントローラが正しく指定されていません。

- グループ URL で非常に多くのグループが定義されています。

注： グループ URL 内の使用可能なグループ数が 10,000 を超えると、Shared Services は警告を表示します。

ユーザーの取得、アプリケーションの登録とセキュリティのロードにかかる時間の短縮

次のタスクにかかる時間を短縮するには、この後の手順を実行します：

- プロジェクトに対してユーザーのリストを取得する
- アプリケーションを登録する
- セキュリティをロードする

▶ パフォーマンスを高めるには：

1 グループを使用する場合：

1. 外部グループではなくネイティブ・グループを使用して外部ユーザーをプロビジョニングし、LDAP/MSAD プロバイダ構成パネルの「グループ」タブのグループの使用オプションを選択解除します。
2. グループ URL を、すべてのグループを含む最下位ノードに常に設定します。
3. 可能な場合はグループ・フィルタを使用します。

2 EPM System アクセス権を持つユーザーの数を制限します。

1. 常にユーザー URL を定義し、できるだけ深く設定します。
2. 可能な場合はユーザー・フィルタを設定します。

3 デフォルトのロギング・レベル WARNING を使用します。デバッグ目的の場合にかぎり、レベルを TRACE に変更します。32 ページの「ODL 構成」を参照してください。

4 グループやユーザーが複数の場合は、すべての製品の Java ヒープ・サイズを 1GB に設定します。72 ページの「Java ヒープ・サイズ」を参照してください。

グループ URL

グループ URL のグループが 10,000 を超えると、パフォーマンスが低下します。この問題を解決するには：

- 下位レベルのノードを示すようグループ URL を変更します。
- プロビジョニング済グループのみを取得するグループ・フィルタを使用します。
- EPM System アプリケーションをサポートするためにカスタム・グループ階層を作成します。

Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide を参照してください。

ユーザー/グループ検索の最大サイズの設定

MSAD、LDAP、データベースおよび SAP プロバイダの場合、検索で取得するユーザーとグループの数は、ユーザー・ディレクトリ構成の `MaximumSize` 設定で決定されます。すべてのユーザーとグループを取得するには、ユーザー・ディレクトリの構成時に `MaximumSize` を 0 に設定します。検索の絞り込みには、フィルタを使用します。

起動およびアクセスに関する問題

サブトピック

- [アプリケーション・サーバーでの Shared Services 起動の解決](#)
- [Shared Services から製品へのアクセスに関する問題の解決](#)
- [Shared Services への製品の再登録](#)
- [Shared Services データベースの再構成](#)

アプリケーション・サーバーでの Shared Services 起動の解決

Shared Services Web アプリケーションが開始しない場合:

1. `MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysystem/servers/FoundationServices0/logs` の Shared Services ログを確認します。
2. EPM System 診断から、データベース接続が成功していることを確認し、外部ユーザー・ディレクトリをチェックします。これが Web アプリケーション起動の前提条件です。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System 診断の使用手順については、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide のインストールの検証と配置の確認に関する項を参照してください。
3. `NETSTAT -an | findstr 0.0.0.0:28080` を実行して、デフォルトのポートである 28080 が別のアプリケーションで使用されているかどうかを確認します。(0.0.0.0:28080)が得られたら、Shared Services ポートを変更するか、そのポートを使用しているプロセス停止します。

注： 前のリリースからアップグレードした場合、Shared Services ポートは 58080 です。

Shared Services から製品へのアクセスに関する問題の解決

次の理由で、その他の EPM System 製品にログインできないことがあります:

- グループ URL とグループ・フィルタで、検索によって戻されるグループ数が制限されていないため、パフォーマンスが低下しています。
- 無効なログイン情報を使用しています。
- 製品をホストするサーバーが、ユーザー・ディレクトリと Shared Services をホストするサーバーに接続されていないため、ユーザーとして認証されません。

次のタスクを実行します:

1. SharedServices_SecurityClient.log (製品をホストするサーバー上)と SharedServices_Security.log (サーバー上)を確認します。32 ページの「ODL 構成」を参照してください
 - Web サーバーを使用しているかどうか、Web アプリケーション・ポートを確認します。
 - グループ・キャッシュ・エラーが発生する場合は、Shared Services を停止し、キャッシュをリフレッシュします。
 - 認証エラーが発生する場合は、ユーザー URL が正しいことを確認します。
2. ユーザー ID とパスワードが正しいことを確認します。
3. 製品をホストするサーバーが、ユーザー・ディレクトリと Shared Services をホストするサーバーに接続できることを確認します。

Shared Services への製品の再登録

問題: 製品を Shared Services に再登録する必要があります。たとえば、誤って登録情報を削除した場合、製品を再登録する必要があります。

解決策: 次のコマンドを使用して Shared Services レジストリを編集し、Shared Services 構成タスクを再度有効にします:

```
Epmsys_registry updateproperty product/instance_task_configuration/  
@hssregistration Pending。 product には、登録する EPM System 製品を指定し  
ます。
```

Shared Services データベースの再構成

問題: すでに構成されている Shared Services データベースを EPM System コンフィグレータで直接変更できません。

解決策:

1. MIDDLEWARE_HOME/user_projects/config/foundation/11.1.2.0/
reg.properties を削除します。
2. EPM System コンフィグレータを再起動します。
3. 「前に構成したデータベースに接続」を選択して、Shared Services データベースを再構成します。

製品固有の問題

サブトピック

- [Shared Services および Essbase コンポーネント](#)
- [Shared Services と Financial Management](#)

Shared Services および Essbase コンポーネント

問題: 管理サービス・コンソールから Shared Services に対するセキュリティのリフレッシュ中に、次のエラー・メッセージが表示されます:

エラー: 1051502: Analytical Servicesは、[ESB:Analytic Servers:PLYSHYP08D:1]の役割の一覧をエラー[ディレクトリ・サーバーに接続できません]でShared Services Serverから取得できませんでした。

解決策: Essbase のログのフォルダにある SharedServices_SecurityClient.log を確認します。第3章「[EPM System ログの使用方法](#)」を参照してください。

問題: Microsoft Active Directory ユーザーとして Essbase アプリケーションを作成できません。

この問題が発生するのは、Microsoft Active Directory にユーザーと担当者のレコードが格納されており、Shared Services が両方のレコード・タイプを返すよう構成されている場合です。

解決策: CSS.xml を編集し、objectClass=user 設定を指定します。この設定により、Microsoft Active Directory プロバイダである Shared Services は担当者レコードを返さないようになります。CSS.xml ファイルは、EPM_ORACLE_INSTANCE/Config/FoundationServices にあります。

Shared Services と Financial Management

サブトピック

- [アプリケーションの作成](#)
- [Smart View タイムアウト](#)

アプリケーションの作成

問題: アプリケーションの作成に失敗したというエラー・メッセージが表示されます。

解決策: 次のタスクを実行します:

- SharedServices_SecurityClient.log を確認します。
グループ・キャッシュ・エラーが表示される場合は、グループ URL およびフィルタがグループ数に応じて適切に設定されていることを確認します。データ・ブローカ・プロパティ・エラーが表示される場合は、interopjava logging を使用可能にします。1,000 以上のグループをサポートするには、JRE 1.5 を使用します。
サーバーで、SharedServices_SecurityClient.log を確認します。

グループ・キャッシュに関するエラーの場合は、グループ URL とフィルタがグループ数に応じて設定されていることを確認します。

- Financial Management ログを確認します。第3章「EPM System ログの使用法」の Financial Performance Management アプリケーション・ログの項を参照してください。
- Financial Management アプリケーション・サーバーが HTTP や WEBDAV のプロトコルを使用して Shared Services と通信できることを確認します。Web アプリケーションと相互運用するために IIS からの要求をプロキシ転送する場合は、Webdav をブロックできます。このような場合は、UrlScan IIS 拡張で propfind メソッドがブロックされていないことを確認します。

Windows 2003 SP1 で IIS を使用している場合は、UseBasicAuth レジストリ・キーをレジストリ HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\WebClient\Parameters の dword 1 に追加します。

- interop Web サイトから Web アプリケーション・サーバーにリダイレクトする場合は、認証方法が匿名であり、Windows 統合認証が使用されていないことを確認します。

Smart View タイムアウト

問題: Financial Management の Smart View が約 30 分後にタイムアウトします。

解決策: 次の手順のいずれか(あるいは複数)を試します:

- Financial Management Web サーバーでサーバーと Web 構成ユーティリティを実行し、Web セッションのタイムアウト設定を変更します。(デフォルトの設定は 20 分です。)
- クライアントが Smart View に Shared Services プロバイダではなく URL プロバイダを使用している場合は、IIS の HFMOOfficeProvider 仮想ディレクトリのプロパティを右クリックし、「仮想ディレクトリ」タブの「構成」をクリックします。新しいウィンドウで「オプション」をクリックし、セッション状態のタイムアウト設定を変更します。
- デフォルトの Web サイトの設定を変更します。

また、FM サーバーおよび Web 構成でデフォルトの Web サイトのタイムアウト設定と Smart View プロバイダ設定を確認します。

ライフサイクル管理

サブトピック

- [移行のヒント: 名前付け](#)
- [コンパクト配置のメモリー不足エラー](#)
- [環境の比較](#)
- [SSL アプリケーションのフリーズまたは名前の不一致のエラー](#)
- [Shared Services の起動](#)
- [エクスポートの失敗](#)
- [アーティファクト・インポートのライフサイクル管理タイムアウト](#)
- [ライフサイクル管理診断](#)
- [ライフサイクル管理と Reporting and Analysis](#)
- [ライフサイクル管理と Financial Management](#)

[47 ページの「ライフサイクル管理のログ」](#) も参照してください。

移行のヒント: 名前付け

完全に自動化された移行では、開発、テスト、本番の各環境の名前は、データ・ソース、プロビジョニングされたネイティブ・ディレクトリ・グループ名、アプリケーションおよびアプリケーション・グループを含め同一である必要があります。これは、手動の処理が不可能な場合が多いテスト環境と本番環境との間で特に重要です。

一部の製品のアプリケーション名にはサーバー名が含まれるため、同一の名前が常に付けられるわけではなく、プロビジョニング情報に手動の編集が必要なことがあります。アプリケーション名が異なる場合、アプリケーションをインポートする前にプロビジョニング情報を手動で編集する必要があります。

コンパクト配置のメモリー不足エラー

問題: 64 ビット環境の場合、コンパクト配置の Planning アーティファクトのライフサイクル管理を実行すると、Foundation Services ログにメモリー不足エラーが作成されます。

解決策: WebLogic に配置される EPM System 管理対象サーバーの最大ヒープ・サイズ設定を大きくしします:

- Windows - HKLM\Hyperion Solutions ノードの下の EPMServer0 の Windows レジストリ・エントリを編集します。
- UNIX - EPMServer0 起動スクリプトを編集して、-Xmx 設定を 3GB 以上に増やします。

環境の比較

問題: 開発とテストなどの 2 つの環境を比較する必要があります。

解決策: アーチファクトをファイル・システムにエクスポートし、比較ユーティリティ(Beyond Compare など)を使用して、テスト・アーチファクトと XML アーチファクトの差分を確認します。

SSL アプリケーションのフリーズまたは名前的一致のエラー

問題: SSL が使用可能なアプリケーションの操作で、セッション中にホスト名の不一致エラーが表示されます。または、移行ステータス・レポートで「処理中」のステータスが表示されたままになります。

解決策: クライアントに対して表示されるホスト名が証明書内のホスト名(共通名)と一致することを確認します。詳細は、Oracle Hyperion Strategic Finance Administrator's Guide を参照してください。

Shared Services の起動

問題: Shared Services Console を起動できません。

解決策: Shared Services Console を起動するときに、URL でサーバーの完全修飾名が使用されていることを確認します。たとえば、`http://Web_Server:Port/interop/index.jsp` です。

エクスポートの失敗

問題: ライフサイクル管理のエクスポート・ファイルのユーザー・パスワードに中カッコ({})を含めると、アーティファクト・エクスポートが失敗します。

解決策: ユーザー・パスワードに中カッコを使用しないでください。

アーティファクト・インポートのライフサイクル管理タイムアウト

問題: ライフサイクル管理を使用して Performance Management Architect アーティファクトをインポートすると、(すべてのサービスが実行中のまま) 1 時間後にタイムアウトし、次のエラー・メッセージが SharedService_LCM.log に書き込まれます:

```
2011-07-19T03:03:36.066-07:00] [FoundationServices0] [ERROR] [EPMLCM-30052]
[oracle.EPMLCM] [tid: 173] [userId: <anonymous>] [ecid:
0000J51cbhmFW7P5IfL6if1E2XZW000574,0] [SRC_CLASS: ?] [APP:
SHAREDSEVICES#11.1.2.0] [SRC_METHOD: ?:?] Failed to connect to
"http://      server name      :19000/awb/lcm.executeAction.do" while
performing import for application - "EPM Architect". Received status code -
"503" with error message - "Service Temporarily Unavailable". Possible cause
of error Server Down or Not reachable.
```

注: このエラーは、アーティファクトのインポートに失敗したことを必ずしも示していません。EPMA ジョブ・コンソールでインポート・ジョブのステータスを確認し、失敗したのかどうかを確かめてください。インポート・ジョブが失敗と表示されている場合は、タイムアウトの問題ではない可能性が高いため、詳しく調査する必要があります。まず、添付されているインポート結果を確認してください。

ジョブ・マネージャでインポート・ジョブが失敗と表示されていない場合、アーティファクトの移行は中止されておらず、正常に完了した可能性があります。ライブラリ・ジョブ・コンソールでジョブ ID ごとに進捗状況を確認できます。

ジョブが事前定義済の期間より長くかかる場合は Oracle HTTP Server Web サーバーがタイムアウトするよう構成されている可能性があります。Oracle HTTP Server を WebLogic とともに使用する場合、デフォルトのタイムアウトは 3600 秒(1 時間)に設定されています。IIS が Web サーバーの場合、デフォルトで `keepAliveEnabled=true` と設定されています。この設定では通常、タイムアウトは発生しません。

解決策: Oracle HTTP Server Web サーバーのタイムアウトを大きくします。

MIDDLEWARE_HOME/user_projects/EPMSysstemX/httpConfig/ohs/config/OHS/ohs_component/mod_wl_ohs.conf で AWB セクションを見つけて、WLIOTimeoutSecs プロパティを変更または追加し、一般的な移行タスクの継続時間を上回る値を指定します:

```
<LocationMatch ^/awb/>
SetHandler weblogic-handler
WeblogicCluster    server name
:19091
Idempotent OFF
WLIOTimeoutSecs 3600
```

SSO トークンのタイムアウトを調整することもできます。手順は、Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide を参照してください。

ライフサイクル管理診断

問題: 移行で問題が発生し、ライフサイクル管理ユーザーは、ライフサイクル管理アクティビティを分析する必要があります。

解決策: ロギング・レベルを TRACE:32 に変更します:

- すべての移行のロギング・レベルを変更するには、コマンド・ライン・ユーティリティ(utility.bat または utility.sh)から実行して、EPM_ORACLE_INSTANCE/Config/FoundationServices の logging.xml ファイルを編集します。
デバッグ・ログは、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/migration/LCM_timestamp.log に書き込まれます。

デバッグ・コンテンツは、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/migration/Debug_sequence_id フォルダに書き込まれます。

- 移行のロギング・レベルを変更するには、Shared Services から実行して、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig/servers/FoundationServices0 の logging.xml ファイルを編集します。

デバッグ・ログは、MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/FoundationServices0/logs/SharedServices_LCM.log に書き込まれます。

デバッグ・コンテンツは、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/migration/Debug_sequence_id フォルダに書き込まれます。

ライフサイクル管理と Reporting and Analysis

次の表に、Oracle Hyperion Reporting and Analysis のライフサイクル管理トラブルシューティング情報を示します。詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Lifecycle Management Guide を参照してください。

表 21 Reporting and Analysis の一般的な問題と解決方法

問題	解決策
Oracle Hyperion SQR Production Reporting ジョブがインポートされません。	Oracle Hyperion SQR Production Reporting のサブサービスが作成されていることを確認してください。
BQY ファイルが処理されない。BQY ジョブを実行できない。	データ・アクセス・サービス・データ・ソースが作成されていることを確認。
Financial Reporting オブジェクトを開けない。	Financial Reporting データ・ソースが目的のアプリケーションにあり、Oracle Hyperion Financial Reporting データ・ソースが変更されていないことを確認します。
アクセス制御情報がない、所有権情報がない、またはユーザーの個人データがインポートされない。	Shared Services ネイティブ・ディレクトリ(セキュリティ)アーティファクトが移行されていることを確認してください。
特定のオブジェクトがインポートされない。	失敗したオブジェクトとともにインポートする必要があった欠落しているオブジェクトについて、移行ステータス・レポートの移行詳細を確認。

ライフサイクル管理と Financial Management

サブトピック

- HFMLCMService Web サービスの接続と構成の設定
- ライフサイクル管理サーバー通信のタイムアウト設定
- Financial Management と Shared Services のロギング
- 大規模アプリケーションでの複数の移行によるメモリー不足の例外
- Financial Management アーチファクトを移行できない
- Financial Management アーチファクトを Shared Services Console で表示できない

HFMLCMService Web サービスの接続と構成の設定

LCM Web Service を正常に実行するには、LCM Web サービス(HFMLCMService)が Microsoft IIS Web サーバーに存在する必要があります。Web.Config の executionTimeout プロパティの値と maxRequestLength プロパティの変更が適切である必要があります。

- ▶ HFMLCMService への接続を確認するには、`http://HFM_WEBSERVER/HFMLCMService/LCMWS.asmx` に移動します。

サービスが正しく実行されている場合は、LCM Web サービス・メソッドの名前を含むページが表示されます。

- ▶ executionTimeout と maxRequestLength の HFMLCMService プロパティを変更するには:

- 1 テキスト・エディタで、`EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/Web/HFMLCMService` の Web.Config を開きます。
- 2 (オプション)LCM アーチファクトが非常に大きい場合、次の行の executionTimeout (秒単位)と maxRequestLength (KB 単位)の値を増やします。

```
<!-- Maximum value allowed is 2GB - Currently set waiting time to 1hours, 1.5GB data transfer-->
<httpRuntime executionTimeout="3600" maxRequestLength="1572864" />
```

注意 間違った値で変更すると、HFMLCM Web サービスが失敗する場合があります。

- 3 Web.Config を保存して閉じます。
- 4 Microsoft IIS Web サーバーをリセットします(iisreset)。

ライフサイクル管理サーバー通信のタイムアウト設定

問題: ライフサイクル管理サーバー通信がすぐにタイムアウトします。

解決策: SharedServices コンポーネント・プロパティの `HFM.client_timeout` の値を大きくします。推奨値は 60 以上です。このプロパティは、ライフサイクル管理

サーバーが Financial Management のライフサイクル管理 Web サービスと通信する時間(秒単位)を制御します。

▶ タイムアウト値を変更するには:

- 1 Shared Services にログオンして、「Foundation」アプリケーション・グループの「配置メタデータ」を検索します。
- 2 「Shared Services レジストリ」、「Foundation Services」ノード、「Shared Services」ノードの順に展開します。
- 3 「プロパティ」を右クリックし、「編集用にエクスポート」を選択して、エクスポートされたファイルを保存します。
- 4 保存されたファイルで、HFM.client_timeout 設定を大きくします。
- 5 Shared Services で、「プロパティ」を右クリックし、「編集後にインポート」を選択して、編集されたプロパティ・ファイルをインポートします。

変更は、次の移行で有効になります。

Financial Management と Shared Services のロギング

問題: ロギングと診断が使用可能ではありません。

解決策: すべてのアクティビティを自動的に記録するよう Financial Management を設定し、問題の診断に使用できる監査証跡が利用できるようにします。

注意 ロギングと診断を使用可能にするのは、必要時のみにしてください。これらを使用可能にすると、特に大規模な移行時には、パフォーマンスに影響を及ぼすためです。

▶ ロギングを有効にしてログを表示するには:

- 1 テキスト・エディタで、EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/Web/HFMLCMS/Service/Web.Config を開きます。
- 2 Web.Config で、次のパラメータを設定してロギングを有効にします。

- appSettings

```
<appSettings>
  <add key="Debug" value="true"></add>
</appSettings>
```

エラーが発生する場合は(再度ロギングを使用可能にしていなくても)、IIS アプリケーションのプール・アカウント(Network Service)に、ログ・ディレクトリへのフル・アクセスが必要です。フル・アクセスがないと、エラーは記録されません。

ログの場所: EPM_ORACLE_HOME/logs/hfm

- diagnostics

```
<diagnostics>
  <trace enabled="true" input="InputTrace.webinfo"
  output="OutputTrace.webinfo"/>
```

```
<detailedErrors enabled="true"/>
</diagnostics>
```

エラーが発生する場合は(再度ログインを使用可能にしていなくても)、IIS アプリケーションのプール・アカウント(Network Service)に、ログ・ディレクトリへのフル・アクセスが必要です。フル・アクセスがないと、エラーは記録されません。

ログの場所: EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/Web/HFMLCMSERVICE

- InputTrace.webinfo
- OutputTrace.webinfo

3 Web.Config を保存して閉じます。

大規模アプリケーションでの複数の移行によるメモリー不足の例外

問題: 大規模なアプリケーションで複数の Financial Management ライフサイクル管理の移行を実行中に、IIS プロセス(w3wp.exe)でメモリー不足の例外が発生します。

解決策: Financial Management Web サーバーで Financial Management ライフサイクル管理のアプリケーション・プールに対する IIS 構成を変更します。アプリケーション・プールの「プロパティ」ページで、仮想メモリーを 1000MB、物理メモリーを 800MB に設定して、メモリーの再利用を使用可能にします。

注: これらのメモリー設定は、大半の環境に適用できます。ハードウェア・リソースによっては、値を大きくすることもできます。

Financial Management アーチファクトを移行できない

問題: 移行が失敗し、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System ライフサイクル管理移行ステータス・レポートに次のエラー・メッセージが表示されます。

パス 'C:\oracle\Middleware\EPMSysstem11R1\products\FinancialManagement\Web\HF\FileTransfer\TempSecurityArtifact.sec' へのアクセスが拒否されました。

注: エラー・メッセージに表示されるパスは、Financial Management のインストールおよび構成中に指定した Financial Management ファイル転送用のディレクトリ・パスです。

解決策: IIS プール ID が、Financial Management のインストールおよび構成中に指定した Financial Management のファイル転送用のディレクトリ・パスに対して、読取り、書込みおよび実行の各権限があることを確認します。

▶ Financial Management Web サービスをホストしているコンピュータで、現在構成されている Financial Management のファイル転送用のフォルダ・パスを表示するには:

- 1 レジストリ・エディタを開きます(「スタート」、「ファイル名を指定して実行」の順にクリックし、epmsys_registry と入力して、「OK」をクリックします)。
- 2 HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hyperion Solutions\Hyperion Financial Management\Web の下にある FileTransferFolderPath を表示します。

Financial Management アーティファクトを Shared Services Console で表示できない

問題: Financial Management の IIS ポートが変更され、Oracle Hyperion Shared Services Console でアーティファクトを表示できません。

解決策: Financial Management に対して EPM System コンフィグレータの「Web サーバーの構成」タスクを実行し、レジストリでポートを更新します。

Performance Management Architect

サブトピック

- ジョブ添付ファイルが開かない
- 次元サーバー・サービスが起動しない
- McAfee HIPS を使用するユーザーの DataSync ページにソースと宛先のリンクが表示されない
- Financial Management アプリケーションを配置中の ORA エラー
- インストールの失敗
- アップグレード後の検証エラー
- EPM Workspace との統合
- Performance Management Architect へのログオン
- ログオン時のセキュリティ権限の問題
- Oracle Hyperion EPMA サーバー・サービス起動
- Performance Management Architect タスクの表示
- ファイル・ジェネレータ
- Performance Management Architect の次元ライブラリまたはアプリケーション・ライブラリへのアクセス
- アプリケーションの問題

Performance Management Architect の起動に問題がある場合、次の点を確認することからトラブルシューティングを始めます。

- 検証 - Performance Management Architect の構成後、「検証」をクリックします。エラー・メッセージが表示される場合、失敗した Performance Management Architect テストまでスクロールダウンし、推奨される解決策を確認します。
- Windows レジストリ・キー - Windows レジストリに、Performance Management Architect に必要なキーと値があることを確認します。
 - 1 「スタート」メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、regedit と入力して「OK」をクリックします。

2. レジストリ・エディタで、「HKEY_LOCAL_MACHINE - SOFTWARE」、
「ORACLE」の順にクリックし、Performance Management Architect のエン
トリを確認します。
3. Performance Management Architect のエントリがない場合は、次のキーと値
でエントリを作成します:

```
EPM_ORACLE_HOME = C:\Oracle\Middleware\EPMSys11R1
EPM_ORACLE_INSTANCE = C:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1
JPS_CONFIG = C:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1\domains\EPMSys1
\config\fmwconfig\jps-config.xml
```

ジョブ添付ファイルが開かない

問題: Internet Explorer の一部のバージョンでは、Performance Management Architect ジョブ添付ファイルを開く/ダウンロードすることができない場合があります。

解決策: この問題に対処するためにレジストリの変更を行います。この問題の詳細および回避策については、次の Microsoft 社のナレッジ・ベース記事を参照してください: <http://support.microsoft.com/kb/323308>

次元サーバー・サービスが起動しない

問題: 次元サーバー・サービス(Oracle Hyperion EPMA Server)が起動せず、Performance Management Architect を IBM DB2 とともに構成済の場合は、データベースのトランザクション・ログが満杯です。

解決策: トランザクション・ログが満杯というメッセージが発生した場合は、DB2 トランザクション・ログ(logfilsiz)値を増やします。詳細は、<http://www-01.ibm.com/support/docview.wss?uid=swg21410935> を参照してください。

Mcafee HIPS を使用するユーザーの DataSync ページにソースと宛先のリンクが表示されない

問題: McAfee HIPS (Host Intrusion Prevention Service)および一部のバージョンの Internet Explorer も使用している Performance Management Architect ユーザーは、Performance Management Architect データ同期の次元マッピング・ユーザー・インタフェースのソースと宛先の次元間のリンクを示す行がないことに気付く場合があります。この原因は、McAfee Antivirus が Microsoft IE と競合する問題である可能性があります。

解決策: 詳細および回避策は次の MacAfee ナレッジ・ベース記事に記載されています: <https://kc.mcafee.com/corporate/index?page=content&id=KB70810>。

Financial Management アプリケーションを配置中の ORA エラー

問題: Financial Management アプリケーションを Performance Management Architect から配置しようとする、Performance Management Architect で ORA-12519、Financial Management で ORA-12516 が発生する可能性があります。

解決策: Oracle DB サーバー・プロセスの数を増やします。次に EPM Workspace に再ログインして、Financial Management アプリケーションの配置/再配置を試行します。

インストールの失敗

- **問題:** Performance Management Architect のインストールが失敗します。

解決策: Performance Management Architect での Microsoft .NET Framework 4.0 の自動インストール時のエラーが原因である可能性があります。Microsoft .NET Framework 4.0 を手動でインストールした後、Performance Management Architect のインストールを再実行してください。

- **問題:** 構成時に ASP.NET エラーが発生します。

解決策: ASP.NET がインストールされて構成されていることを確認します。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。

アップグレード後の検証エラー

問題: リリース 11.1.2.1 より前のリリースからアップグレードした後、最初に Performance Management Architect の ASO または BSO アプリケーションを検証する場合に次のエラーが発生します:

```
Application server '<server name>' is invalid. It is not registered with Shared Services.
```

1. Performance Management Architect 管理者の役割でログオンし(この手順を実行する前にプロビジョニングする必要があります)、Performance Management Architect アプリケーション診断を起動します。
2. 「アプリケーション・ライブラリ」で:
 1. アプリケーションを右クリックして、「診断」を選択します。
 2. テストを実行して、「無効な配置情報」を確認します。
3. 「潜在的な配置場所を取得します」を選択して、「適用」をクリックします。
4. 正しいインスタンスおよびクラスタを選択し、「配置データを同期します」をクリックし、次に「適用」をクリックします。

注: これらの手順は、アプリケーションごとに一度のみ実行する必要があります。

EPM Workspace との統合

問題: 次の EPM Workspace エラー・メッセージが表示されます:

「ターゲット・マシンがアクティブに拒否したため、接続を確立できませんでした。」

このエラーは、次元ライブラリまたはアプリケーション・ライブラリにアクセスすると発生する場合があります。

この問題は、次元サーバーが実行されていない場合または Oracle Database にユーザー権限が欠落している場合に発生する可能性があります。

解決策:

- 次元サーバーが実行されていない場合は、Oracle Hyperion EPMA サーバー・サービスを開始することで、次元サーバーが開始され、さらに接続が再試行されます。
- Oracle Database に「ビューの作成」ユーザー権限を割り当てます。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の Oracle データベースの使用に関する項を参照してください。

Performance Management Architect へのログオン

問題: Windows 2003 環境で Performance Management Architect にログオンできません。

解決策: ASP.NET 4.0.30319 を使用していることと、ASP.NET および ASP ページが「許可」に設定されていることを確認します。

▶ Microsoft .NET Framework 4.0 が Windows 2003 または Windows 2008 マシンにインストールされ、有効であるかどうかを確認するには:

1 次の方法のいずれかを使用して IIS マネージャを開きます:

- 「スタート」、「プログラム」、「管理ツール」、「インターネットインフォメーションサービス マネージャ」の順に選択します。
- inetmgr を実行します。

2 左側のパネルで、「Web サービス拡張」を選択します。右側のパネルで、「ASP.NET 4.0.30319」が表示されていることを確認します。

3 ASP.NET 4.0 が表示されている場合は、「ステータス」列が「許可」に設定されていることを確認して使用可能にします。

4 ASP.NET 4.0 が表示されず、Microsoft .NET Framework 4.0 がインストールされている場合は、Microsoft .NET Framework 4.0 を IIS に再登録します:

1. コマンド・プロンプトで、C:\Windows\Microsoft.NET\Framework\v4.0.30319 ディレクトリに移動します。
2. run aspnet_regiis.exe -iru と入力します。
3. 手順 1 から 3 を繰り返します。

ログオン時のセキュリティ権限の問題

問題: 次元の作成、アプリケーションの作成などのタスクが使用できません。

解決策: アプリケーション作成者および次元編集者のセキュリティの役割を割り当てます。Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide を参照してください。

Oracle Hyperion EPMA サーバー・サービス起動

問題: Oracle Hyperion EPMA サーバー・サービスが起動しません。

注: Oracle Hyperion EPMA サーバー・サービスが起動状態でなくなるまで待つてから、トラブルシューティングを開始します。

解決策: 考えられる原因がないか、Performance Management Architect を確認します。第 3 章「EPM System ログの使用方法」を参照してください。

大規模なデータベースでは、DimensionServerStartupTimeout 設定を上げることもできます。手順については、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administrator's Guide の BPMA_Server_Config.xml ファイルの構成設定の項を参照してください。

Performance Management Architect タスクの表示

問題: 「ナビゲート」メニューに、Performance Management Architect タスクが表示されません。

解決策: 次の状況を確認します:

- Foundation Services が起動されている。
- アプリケーション・サーバーの EPM Workspace プロキシ・サーバー・プラグインが構成されている。

次の URL にアクセスできない場合は、プロキシ・サーバー・プラグインを構成する必要があります:

`http://Web server:port/awb/conf/AWBConfig.xml`。ここで、Web Server は Web サーバー・マシンのホスト名、port は Web サーバー・リスニング・ポートです。

詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の Web サーバー構成の詳細設定オプションに関する項を参照してください。

ファイル・ジェネレータ

問題: Performance Management Architect アプリケーションからファイルを生成しようとする、ファイルが見つからなかったというエラー・メッセージが表示されます。

解決策: Performance Management Architect Web サービスの仮想ディレクトリに関連付けられているアプリケーション・プール(DefaultAppPool など)の.Net バージョンが ASP.NET 4.0 に設定されていることを確認します。

Performance Management Architect の次元ライブラリ またはアプリケーション・ライブラリへのアクセス

Performance Management Architect タスクにアクセスできない場合は、各コンポーネントに個別にアクセスして通信エラーの原因を特定します。

次元ライブラリの表示

問題: Performance Management Architect で次元ライブラリを表示できません。

解決策: Performance Management Architect の適切な役割を割り当てられていることを確認します。次元ライブラリにアクセスするには、次元編集者およびアプリケーション作成者のセキュリティの役割が必要です。Oracle Hyperion Strategic Finance Administrator's Guide の Shared Services のグローバル役割に関する項を参照してください。次元編集者の役割が割り当てられたら、Performance Management Architect からログオフして再度ログオンします。

通信エラーまたは内部サーバー・エラー

問題: 通信エラーまたは内部サーバー・エラーに関するメッセージが表示されません。

解決策:

1. 次の URL を確認します:

```
http(s):// Web_server : Web_port /awb/conf/AwbConfig.xml
```

2. この手順で失敗した場合は、次の URL を確認します:

```
http(s):// bpma_server : bmpa_port /awb/conf/AwbConfig.xml
```

この手順で成功した場合は、EPM Workspace で Performance Management Architect が正しい方法で使用可能になっていません。EPM Workspace を再構成してください。

この手順で失敗した場合(エラー 404)は、Performance Management Architect Web サーバーが起動されていません。

Performance Management Architect の次元サーバーのエラー

問題: Performance Management Architect 次元サーバーでエラー・メッセージが表示されます。

解決策:

- 次の URL を使用します:

```
http(s)://Local_machine_name/hyperion-bpma-server/Sessions.asmx
```

「セッション(I)」ページが表示された場合は、IIS が正しく構成されています。IIS にエラーが発生した場合は、イベント・ログを調べて問題を特定します。システムおよびアプリケーション・ログを確認し、ASP.NET または IIS の問題がロギングされていないかどうかを調べて、エラーを修正します。原因として、TEMP ディレクトリに対するユーザーの権限が正しくないことが考えられます。

- HyS9EPMA で始まるソースからのイベント・ログを確認してください。原因として、Shared Services またはデータベースの通信エラーが考えられます。
- ASPNET ユーザーに、特定のフォルダへのアクセス権が与えられていない可能性があります。イベント・ログにセキュリティ関連エラーが表示された場合は、ASPNET ユーザーに権限を割り当ててください。
 1. コマンド・プロンプトで、C:\Windows\Microsoft.NET\Framework\v4.0.30319 ディレクトリに移動します。
 2. run aspnet_regiis.exe-ga と入力します。

次元サーバー Web サービスへのアクセス

問題: Performance Management Architect 次元サーバー Web サービスにアクセスできません。

解決策:

- ログで、subcode が 2、Win32 code が 1260 の場合、Web サービス拡張に関する問題が発生しています。IIS の「Web サービス拡張」で、ASP.NET 4.0.30319 の Web サービス拡張のステータスが「許可」になっていることを確認します。
- SiteMinder がインストールされている場合は、ワイルドカード・マッピングを除去します:
 1. hyperion-bpma-server で、「プロパティ」、「構成」の順にクリックします。
 2. ワイルドカード・マッピングのセクションの値を除去します。

注: Web サービスは、.NET Framework 4.0 を使用して実行されている必要があります。

次元サーバーでの IIS の起動

問題: Performance Management Architect 次元サーバーで IIS が起動しません。

解決策: コントロール・パネルから「管理ツール」、「サービス」の順に選択し、World Wide Web Publishing Service を起動します(まだ起動されていない場合)。

アプリケーションの問題

Performance Management Architect アプリケーションのステータスが、次元サーバー、オブジェクト・リポジトリまたはターゲットの EPM System 製品と、様々な原因で同期されていません。アプリケーション診断を実行すると、アプリケーションの不整合を確認できます。詳細は、Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Architect Administrator's Guide を参照してください。

Smart View

サブトピック

- [インストール方法](#)
- [Smart View 共有接続](#)

インストール方法

EPM Workspace をインストールして構成した後、次のいずれかの方法を使用して Smart View をインストールできます。

- EPM Workspace で、「ツール」、「インストール」、「Smart View」の順に選択し、Smart View インストーラを起動します。
- EPM_ORACLE_HOME/common/epmstatic/wspace/SmartView に移動し、Smartview.exe を起動します。

Shared Services および Financial Management に対する Smart View のタイムアウトの詳細は、[100 ページの「Shared Services と Financial Management」](#)を参照してください。

Smart View 共有接続

問題: Financial Management が `http://server:port/workspace/SmartViewProviders` の URL で Smart View の共有接続を使用する場合、Smart View が Financial Management プロバイダの詳細を返しません。

解決策: EPM System コンフィグレータの IIS Smart View コンテキストをカスタマイズする場合、Oracle Hyperion Shared Services レジストリの SmartViewContext プロパティを手動で変更する必要があります。

デフォルトで、SmartViewContext 値は `//hfmoofficeprovider/HFMOOfficeProvider.aspx` です。hfmoofficeprovider を Oracle Hyperion Smart View for Office 論理 Web アドレス・コンテキストに置き換えます。手順については、Oracle Enterprise Performance Management System Deployment Options Guide の Shared Services レジストリの更新に関する項を参照してください。

この章の内容

Essbase メンテナンス・リリース	117
Essbase および Provider Services のアップグレード	118
MaxL からのログイン.....	119
アップグレード前のセキュリティ・ファイルのバックアップ	120
Essbase クラスタへの接続.....	120
Essbase サーバーの起動	121
Linux の Essbase の起動	122
Essbase のフェイルオーバーの問題	122
クライアント-サーバーの接続	122
OPMN の再起動.....	122
起動: ポートの競合.....	123
Integration Services: OLAP メタデータ・カタログまたは外部データ・ソースへの接続	123
Essbase Studio の起動	124
Essbase Studio ログの削除	124

Essbase メンテナンス・リリース

問題: メンテナンス・リリースの適用後にアプリケーションを起動すると、エラー・メッセージが表示されます。

このエラーは、Essbase のインストールおよび構成を実行する前にリンク・レポート・オブジェクトをエクスポートしていない場合に発生します。(リンク・レポート・オブジェクトは、Essbase の構成後に手動でインポートします。)

解決策: リリース 11.1.2 のデータベースを復元し、リンク・レポート・オブジェクトをエクスポートして、メンテナンス・リリースの適用プロセスを再開します。

問題: メンテナンス・リリースを適用すると、Essbase サーバー構成に失敗します。この問題は、Essbase サーバーをクローズしないでメンテナンス・リリースの適用を開始すると発生します。

注: Essbase がサービスとして構成されていない場合、すべてのサービスを停止しても、Essbase サーバーはクローズしません。

解決策: (メンテナンス・リリースは Middleware ホーム・ディレクトリ内のすべてのコンポーネントに影響するため)すべての EPM System プロセスを停止し、Essbase サーバーが停止していることを確認してから、メンテナンス・リリースを再度適用します。

さらに、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM システム製品のメンテナンス・リリース・インストールの実行に関する項に示された、前提条件が満たされていることを確認してください。

Essbase および Provider Services のアップグレード

アップグレードに関する一般的な情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

Essbase ステージング・ツール

問題: 64 ビット Linux システムで、Essbase ステージング・ツールが起動せずエラー・メッセージが表示されます。メッセージはこれらのいずれかになる可能性があります:

- Essbase で Fusion ユーティリティ関数を初期化できません。エラー[%s]
- エラー 1030803

これらのエラーは、64 ビット・バージョンの libaio パッケージがインストールされていない場合に発生します。

解決策: Essbase をインストールしたり、Essbase ステージング・ツールを実行する前に、64 ビット・バージョンの libaio パッケージ、バージョン 0.3.105-2 またはそれ以降を同じマシンにインストールしてください。

役割の更新

問題: Essbase インスタンスをアップグレードする際に、そのインスタンスの Essbase の役割が更新されません。

この問題は、Shared Services データをインポートする前に Essbase インスタンスをアップグレードした場合に発生します。

解決策: ネイティブ・ディレクトリの更新ユーティリティを実行して、プロビジョニング情報を更新します。手順については、アップグレード対象リリースの Oracle Enterprise Performance Management System User Security Administration Guide のネイティブ・ディレクトリの更新ユーティリティの使用法に関する項を参照してください。

Essbase Studio データベースの構成タスク

問題: リリース 11.1.1.3 から Essbase Studio をアップグレードする際、データベースの構成タスクが失敗し、一貫性のないオブジェクトに関する 1 つまたは複数のメッセージが Essbase Studio のアップグレード・ログ・ファイルに追加されます。例:

原因:

```
com.hyperion.cp.cplutil.scripts.export_import.exceptions.ExportException: カタログのオブジェクトに一貫性がありません。次の形式のオブジェクトを確認してください: \'Drill Through Reports\'\'Supplier', object id : @44#0#101#0@.
```

このエラーは、データ・ソースの接続名が変更されたために、ドリルスルー・レポートに一貫性がない場合に発生します。

解決策: 次の手順を行います:

注: リリース 11.1.1.3 のリリース環境が実行中で、Essbase Studio カタログのアップグレードが成功するまで使用可能であることを確認してください。

1. これらの処理のいずれかを行って、すべてのドリルスルー・レポートの不整合を修正してください。
 - リリース 11.1.1.3 環境で、データ・ソース接続を元の名前に変更します。
 - 無効なドリルスルー・レポートを、ドリルスルー・レポート・エディタの「レポート・コンテンツ」タブで新しい列の値を指定することにより更新します。
新しいフィルタも提供できます。
 - 無効なドリルスルー・レポートを 11.1.1.3 環境から削除して、アップグレード済の Essbase Studio 環境で再作成します。
2. EPM System コンフィグレータを再起動して、データベースの構成タスクを再度実行してください。

MaxL からのログイン

問題: 一部の AIX 5.3 システムで、これらのエラー・メッセージが MaxL からのログイン中に表示される場合があります:

```
MAXL> login essexer password;
```

```
WARNING - 1040152 - Failed to load ZT library.  
WARNING - 1040156 - SSL initialization failed with error code [1040152]..  
OK/INFO - 1051034 - Logging in user [essexer].  
OK/INFO - 1051035 - Last login on Monday, February 07, 2011 2:57:58 PM.  
OK/INFO - 1241001 - Logged in to Essbase.
```

解決策: カーネル拡張機能の更新を AIX 5.3 システムに適用します:

1. http://www.oracle.com/technology/software/products/database/oracle11g/111060_aixsoft.html から rootpre_aix.zip をダウンロードします。
2. root としてログインします。
3. rootpre.sh を実行します。

アップグレード前のセキュリティ・ファイルのバックアップ

旧リリースからこのリリースの Essbase にアップグレードする場合、セキュリティ・ファイルがアップグレードされる前に、旧リリースのセキュリティ・ファイルのバックアップが作成されます。セキュリティ・ファイルのバックアップ、Essbase.Bak_preUpgrade は ARBORPATH/bin にあります。Essbase セキュリティの最新の状態を定期的にバックアップする Essbase_timestamp.bak とは異なり、このアップグレード前のバックアップ・ファイルはそのまま保持され、さらなる操作によって更新されません。

Essbase クラスタへの接続

問題: クラスタ名を使用して(たとえば、MAXL> login admin password EssbaseCluster-1 と入力して) Essbase クラスタに接続できません。

解決策: 次のいずれかの措置を取ります:

- 使用する URL が次のいずれかのフォーマットに従っていることを確認します:
 - `http(s)://host:port/aps/Essbase?ClusterName=cluster`
 - `http(s)://host:port/aps/Essbase?ClusterName=cluster&SecureMode=<yes|no>` (セキュア・プロトコルで Essbase に接続)
- クラスタ名のみを使用して Essbase クラスタに接続するために、構成ファイルを変更して、URL 内のクラスタ名を解決する Provider Services サーバーを指定します。Provider Services サーバーは、次の構成ファイルで指定します:
 - サーバー間の通信の場合 - `essbase.cfg`
次のフォーマットを使用します:
`ApsResolver http(s)://host:port/aps`
サーバー名の上にセミコロン(:)を使用すれば、`essbase.cfg` で複数の Provider Services サーバーを指定できます。
 - クライアントとサーバー間の通信の場合 - `essbase.properties`
次のフォーマットを使用します:
`ApsResolver=http(s)://host:port/aps`

注： Essbase CAPI を使用するツールやアプリケーション(MAXXL、Esscmd、Planning など)の場合、ApsResolver 設定はクライアント側の `essbase.cfg` に指定する必要があります。

Essbase JAPI を使用するツールやアプリケーション(Provider Services、Essbase Studio など)の場合、ApsResolver 設定はクライアント側の `essbase.properties` に指定する必要があります。

Essbase サーバーの起動

問題: メンテナンス・リリースを適用した後で、Essbase が起動しません。

この問題は、メンテナンス・リリースを適用する前にすべてのプロセスを停止しない場合に発生します。

解決策: `EPM_ORACLE_HOME/diagnostics/logs/install` の `installTool-installDDD-MM.DD.YYYY-TIME.log` ファイルを確認します。一部のファイルがインストールおよび構成中にロックされていたことを示す「プロセスは別のプロセスで使用されているため、ファイルにアクセスできません」などのメッセージがログ・ファイルに含まれている場合は、Essbase を再インストールします。

問題: `essbase.cfg` またはプラットフォームの共有ライブラリ・パスで `JVMMODULELOCATION` を適切に設定していない場合、次のエラー・メッセージが表示されます:

JVMのロードに失敗しました[jvm.dll]。シングル・サインオンの初期化に失敗しました

解決策: `essbase.cfg` をテキスト・エディタで開き、適切な JVM を指定するように編集します。

問題: 「GCInit()の実行に失敗しました」というエラー・メッセージが表示されます。このメッセージは、`ESSBASEPATH` のロケール・ディレクトリが見つからないか、ファイルがロケール・ディレクトリで欠落している場合に表示されます。

解決策: `hyperionenv.doc` (UNIX)または `setEssbaseEnv.cmd` (Windows)で `ESSBASEPATH` を確認します:

- Windows - コマンド・ラインに `echo %ESSBASEPATH` と入力します。
- UNIX - コンソール・ウィンドウで `> echo $ESSBASEPATH` と入力します。

`ESSBASEPATH` がないか、正しくない場合は、正しい `ESSBASEPATH` を定義します。

注： `ESSBASEPATH` には、`essbase.exe` ではなく、Windows の場合は `startEssbase.bat` を、UNIX の場合は `startEssbase.sh` を使用してください。

問題: Essbase が「スタート」メニューから起動しません。

解決策: コマンド・ラインから Essbase を起動します。Essbase をコマンド・ラインから起動すると詳しいエラー・メッセージが表示され、トラブルシューティングに役立ちます。たとえば、欠落しているファイルやアクセスできないファイルなどのメッセージが表示されます。

Linux の Essbase の起動

問題: Linux マシンで Essbase を起動すると、次のエラー・メッセージのいずれかが作成されます:

```
error while loading shared libraries: libstdc++.so.5: cannot open shared object file: No such file or directory
```

```
error while loading shared libraries: libaio.so.1: cannot open shared object file: No such file or directory
```

```
Failed when initializing utility routines, error = [1008163]
```

解決策: libaio パッケージ・バージョン 0.3.105-2 以上をインストールします。

Essbase のフェイルオーバーの問題

Essbase のフェイルオーバーについてトラブルシューティングするには、OPMN および Essbase のログで、関連するイベントのシーケンスの確立について確認することから始めます。たとえば、OPMN は Essbase を起動したが、データベース認証に失敗したため、Essbase がリースを取得していないということがログからわかります。

OPMN のエラー・メッセージの詳細は、Oracle Process Manager and Notification Server 管理者ガイドを参照してください。

クライアント-サーバーの接続

問題: Essbase クライアント-サーバー接続を確立できません。

解決策: サーバーで ping コマンドを使用し、サーバーが実行されており、クライアント・コンピュータで参照可能かどうかを確認します。ping コマンドで問題がない場合、TELNET コマンドを試します。

- ping コマンドは成功しても TELNET コマンドが成功しない場合、サーバーの inet デーモンに問題がある可能性があります。
- ping コマンドが失敗する場合は、ルーティングまたはハードウェアに問題がある可能性があります。

OPMN の再起動

問題: 約 20 秒ごとに Essbase で次のようなエラーが表示されます。これは、Oracle Process Manager and Notification Server の再起動後、OPMN で Essbase に ping できないことを示します。

```
[Thu Mar 11 18:00:04 2010]Local/ESSBASE0///Info(1056704)  
Received OPMN Ping Request
```

解決策: Essbase を閉じて再起動します。

起動: ポートの競合

問題: デフォルトの Essbase ポートが他のプロセスに割り当てられているため、Essbase を起動できません。

解決策: Essbase ポートを使用している他のプロセスを停止し、Essbase を起動します。その後、他のプロセスを再起動します。

Integration Services: OLAP メタデータ・カタログまたは外部データ・ソースへの接続

問題: OLAP メタデータ・カタログまたは外部データ・ソースに接続できません。

解決策:

- 正しいユーザー名とパスワードを使用していることを確認してください。
OLAP メタデータ・カタログに接続する場合は、OLAP メタデータ・カタログでテーブルを作成したユーザーと同じユーザー名およびパスワードを使用する必要があります。
あるユーザー名を使用してログインしているとき OLAP メタデータ・カタログを作成した場合、このユーザー名に別名を作成するか(Microsoft SQL Server の場合)、またはテーブルのシノニムを作成する(IBM DB2 および Oracle の場合)場合を除き、別のユーザー名を使用して OLAP メタデータ・カタログのテーブルにはアクセスできません。
- ユーザー名が、OLAP メタデータ・カタログおよびデータ・ソースの両方へのデータベース・レベルでのアクセスに必要な権限を持っていることを確認します。
- 必要なすべてのコンポーネントが稼働していることを確認してください。次のコンポーネントが必要です:
 - Oracle Essbase Integration Services サーバー
 - OLAP メタデータ・カタログおよびデータ・ソース・データベースを管理するデータベース・サーバー
 - OLAP メタデータ・カタログおよびデータ・ソースに対応したデータ・ソース・データベース・リスナー
- OLAP メタデータ・カタログおよびデータ・ソースが、Integration Server コンピュータで ODBC データ・ソースとして構成されていることを確認してください。

Essbase Studio の起動

問題: Oracle または SQL 2005 を使用して Essbase Studio を起動する際に問題が発生します。

解決策: 次の項目を確認します:

- `server.properties` ファイルの情報が正しいです。`server.properties` ファイルは `EPM_ORACLE_INSTANCE/BPMS/bpms1/bin` にあります。これらの設定の詳細は、Oracle Essbase Studio User's Guide を参照してください。
- Studio Catalog への接続に使用されるユーザー名が Studio Catalog を操作するのに適切な権限を持っています。ユーザーはデータベースの所有者である必要があります。
- 次の必要なコンポーネントが実行されています:
 - Oracle Essbase Studio サーバー
 - Studio Catalog を管理するデータベース・サーバー

Essbase Studio ログの削除

問題: Essbase Studio のログが、大きなファイルを実行すると削除されます。

これは、ログ・ファイルのサイズがロギング構成ファイルで設定された上限を超過したときに発生します。

解決策: Oracle Essbase Studio ロギング構成ファイル `logging.xml` で、`maxFileSize` と `maxLogSize` の設定を上げます。構成ファイルは `EPM_ORACLE_INSTANCE/BPMS/bpms1/bin` にあります。

この章の内容

Reporting and Analysis Framework Web アプリケーションの起動	125
Interactive Reporting Studio	125
Reporting Studio	126
Web Analysis	127

Reporting and Analysis Framework Web アプリケーションの起動

問題: Windows 環境で Reporting and Analysis Framework Web アプリケーション・サービスを起動できません。また、HyS9RaFramework-sysout.log ファイルに「(アクセス拒否)::解凍するファイルのパスの文字列が長すぎるか、ファイルの上書きに失敗しました」というメッセージが表示されます。

解決策: 次を手動で編集して temp へのパスを短くします:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hyperion Solutions\RAFramework
\HyS9RaFramework キーの-Dweblogic.j2ee.application.tmpDir JVM オプション設定。その後、サービスを再起動します。たとえば、設定を C:\Temp
\username に変更します。
```

Interactive Reporting Studio

サブトピック

- [Essbase のロード・エラー](#)
- [Oracle Net 接続の失敗](#)
- [Oracle Procedure の処理の失敗](#)
- [フォントが正しく表示されない](#)

Essbase のロード・エラー

問題: Essbase に接続すると、このエラー・メッセージが表示されます: Essbase not loaded successfully.

解決策: これらの環境変数が存在して、Essbase の正しいインストール場所を参照することを確認してください:

- ESSBASEPATH
- Path (Windows の場合)
- SHLIB_PATH (HP-UX の場合)

Oracle Net 接続の失敗

問題: Oracle Net に接続しようとする時、「SQL*Netが正しくロードされていません」というメッセージが表示されます。

解決策: これらの環境変数が存在し、Oracle の正しいインストール場所をポイントしていることを確認します:

- ORACLE_HOME
- Path (Windows の場合)
- LD_LIBRARY_PATH (Solaris と Linux の場合)
- SHLIB_PATH (HP-UX の場合)

Oracle Procedure の処理の失敗

問題: Oracle procedure とともに Oracle Wire Protocol ODBC クライアントを処理すると、このエラー・メッセージが生成されます: PLS-00306: wrong number or type of arguments in call to <procedure_name>。

解決策

- Windows: ODBC Oracle ワイヤー・プロトコル・ドライバのセットアップ・ボックスの「詳細設定」タブで、**Procedure が結果を返しません**を選択します。

フォントが正しく表示されない

問題: Oracle Hyperion Interactive Reporting ドキュメントが UNIX プラットフォームのシン・クライアントで参照されるときに、データが切り捨てられるか重複します。

解決策: set_common_env.sh の FONT_PATH 変数を確認し、再起動します。

EPM_ORACLE_HOME/common/raframeworkrt/11.1.2.0/ bin の

set_common_env.sh ファイルには、bqy ファイルで使用されているものと同じフォントが含まれている必要があります。

Reporting Studio

問題: Oracle Hyperion Financial Reporting Studio のログイン時に、ランタイム・エラーおよび ActiveX エラーが連続して表示されます。

解決策: HRRunAnt.cmd を実行して再起動してからログインします。

Web Analysis

サブトピック

- [Web Analysis の起動](#)
- [SAP BW への接続エラー](#)
- [BEx クエリーが表示されない](#)

Web Analysis の起動

問題: Reporting and Analysis Framework および Web Analysis Web アプリケーションを異なるマシンにインストールすると、Web Analysis を起動できません。

解決策: EPM System コンフィグレータを使用して、Oracle Hyperion Web Analysis を再構成します:

1. Reporting and Analysis Framework の「データベースの構成」タスクを選択します。
2. 「前に構成したデータベースに接続」を選択します。
3. Oracle Hyperion Reporting and Analysis Framework データベースの詳細を指定します。

SAP BW への接続エラー

問題: Oracle Hyperion Web Analysis Studio でデータ・ソースの作成中に SAP BW に接続すると、次のエラー・メッセージが生成されます: 使用可能なキューブのリストを取得できません。

解決策: SAP JCo をインストールして構成します。

BEx クエリーが表示されない

問題: 新しいデータ・ソースの作成時に、BEx クエリーが「使用可能なデータベース」ペインに表示されません。

解決策: SAP ビジネス・エクスペローラで、外部からクエリーにアクセスできるように BEx クエリーのプロパティを変更します。

8

Financial Performance Management アプリケーション

この章の内容

Financial Performance Management アプリケーション・アップグレード	129
Planning	130
Financial Management	133
Financial Close Management	139
Profitability and Cost Management	157
Disclosure Management	157

Financial Performance Management アプリケーション・アップグレード

アップグレードに関する一般的な情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

Financial Management アプリケーション・アップグレード

問題: Financial Management データベースがロックされているために、アップグレードが失敗します。

注: 以前のアップグレード試行を途中で終了した場合は、データベースがロックされています。

解決策: EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/server から HFM Application Upgrade_x64.exe (64 ビットのシステム用) または HFM Application Upgrade.exe (32 ビットのシステム用) を実行してデータベース・ロックを上書きし、データベースをアップグレードします。

次の問題が Financial Management のアップグレード中に発生した場合も、解決策は同じです。

問題: 「前のリリースからのアプリケーションのアップグレード」タスクが失敗し、EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/upgrades/HFMApplicationUpgrade.log に詳細が記録されます。このログには次のような

メッセージが含まれています: 次のアプリケーションのデフォルトのクラスタ名の検出に失敗しました: application name。

問題: 「旧リリースからのアプリケーションのアップグレード」タスクは成功したのに、アプリケーションを EPM Workspace で開けず、次のメッセージが Financial Management のイベント・ログに記録されます: サーバー/クラスタが正しく構成されていません。クラスタまたはサーバーの接続を再構成してください。

解決策: EPM Workspace を使用して手動でアプリケーションを再登録し、割り当てられているクラスタ名を訂正します。すべてのアプリケーションを登録した後、Foundation Services および Web サーバーを再起動します。

Planning

サブトピック

- [EPM Workspace に Planning アプリケーションが表示されない](#)
- [Planning および Administration Services](#)
- [パフォーマンスの問題](#)
- [非英語環境での Planning の使用](#)
- [Business Rules](#)

EPM Workspace に Planning アプリケーションが表示されない

問題: 以前のリリースからのアップグレード後、EPM Workspace に Planning アプリケーションが表示されません。

解決策: クラシック Planning アプリケーションの場合はクラシック・ウィザードから、Oracle Hyperion EPM Architect の Planning アプリケーションの場合は Performance Management Architect から、Shared Services にアプリケーションが登録されていることを確認します。

Planning および Administration Services

問題: Administration Services で Planning アウトラインを展開できません。

解決策: デバッグ機能をオンにし、次の事項を確認します:

1. Oracle Essbase Administration Services で Essbase アプリケーション(サンプル・アプリケーションなど)にアクセスできるかどうか。Essbase アプリケーションにアクセスできない場合、問題は Planning ではなく、Essbase です。
2. Essbase のセキュリティと外部認証。

パフォーマンスの問題

- **問題:** Oracle データベースを使用していて、データベース・リフレッシュのパフォーマンスを改善する必要があります。

解決策: Oracle で CURSOR_SHARING が EXACT (デフォルト設定)に設定されていることを確認します。

- **問題:** Planning のパフォーマンスを改善する必要があります。

解決策: 環境に合わせて WebLogic をチューニングするか、ヒープ・サイズを大きくします。たとえば、Java でメモリーが不足し、デフォルトで Java に割り当てられる 512MB より多くのメモリーがサーバーにある場合、Java で使用できる量を増やします。Oracle Enterprise Performance Management System Deployment Options Guide を参照してください。

注: 環境の評価については、コンサルタントに連絡することをお勧めします。

非英語環境での Planning の使用

問題: Red Hat または Oracle Enterprise Linux 環境で、Planning と簡体字中国語を併用すると、ログオン画面が表示されません。

解決策: (LANG=zh_CN.utf8 ではなく)LANG=zh_CN.GB18030 を指定します。方法を選択します:

- Planning をインストールして構成する前に、OS システム・ローカル変数(まだ設定していない場合)で指定する
- Planning をインストールして構成した後に、setCustomParamsHyperionPlanning.sh で指定する

この問題は、他の英語以外の言語でも発生することがあります。

Business Rules

Calculation Manager への Business Rules の移行

問題: Calculation Manager へのビジネス・ルールの移行に失敗するか、ルール移行をやり直す場合に、Oracle Hyperion Business Rules エクスポート XML ファイルがありません。

解決策: 移行可能にするため、HBRExport ユーティリティを使用して、Business Rules DBMS から XML ファイルにルールを抽出します:

1. MIDDLEWARE_HOME/upgrades/planning/lib/HBRServer.properties ファイル(テンプレート)を編集して Oracle Hyperion Business Rules リポジトリを参照し、編集したファイルを Planning インスタンス・ディレクトリにコピーします。
2. /F: パラメータとともに出力場所を指定して、ユーティリティを実行します。

構文:

```
HBRExport.cmd/F: output file name
```

- Oracle Hyperion Planning および Calculation Manager 内の移行に使用できるように、出力ファイルを MIDDLEWARE_HOME/EPMDData/planning にコピーします。

再移行ルール

問題: リポジトリのルールがすでに移行されていますが、再度移行する必要があります。

- すべてのアプリケーションのすべてのオブジェクトを再移行するには、全体の HSPSYS_HBR2CMGRMIGINFO 表を削除します。

注意 Oracle Hyperion Calculation Manager に行われた変更は失われます。

- 他のオブジェクトへの変更を保持するには、再移行する必要があるオブジェクトの行のみ表から削除します。

オブジェクト・タイプ ID:

- 1 - ルール
- 2 - シーケンス
- 3 - 変数
- 5 - マクロ
- 17 - ショートカット

OBJECTTYPEID= 1 (ルール)を削除する場合、OBJECTTYPEID= 17 (ショートカット)も削除します。

Planning サーバーのシャット・ダウン・エラー

問題: Planning サーバーを停止すると、正常にシャット・ダウンせずに、次のメッセージのエラーが発生する可能性があります:

```
<HTTP> <BEA-101276> <Web application(s)/HyperionPlanning still have non-replicated sessions after 0 minutes of initiating SUSPEND. Waiting for non-replicated sessions to finish.
```

解決策: 次の手順を行います:

- WebLogic 管理コンソールにログインし、Planning サーバー・インスタンスの「制御」タブで、シャットダウン中はセッションを無視オプションを有効にします。
- Oracle Hyperion Planning サーバーを再起動します。

Financial Management

サブトピック

- [Financial Management へのアクセス](#)
- [接続の問題](#)
- [インストールに必要な権限](#)
- [大きなデータまたはファイルのロード](#)
- [固定サーバーがユーザーのリダイレクトを試みる](#)
- [EnableServerLocking オプション](#)
- [JRF WebServices Asynchronous サービス](#)

EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/Utilities ディレクトリの Financial Management ログ・ビューアは、Financial Management の問題のトラブルシューティングに役立ちます。

EPM_ORACLE_HOME/products/FinancialManagement/logging の次の ODL ログイン構成ファイルも Financial Management のインストールと構成の問題のトラブルシューティングに役立ちます。

- logging.xml.template (Financial Management コア)
- InteropLogging.xml (Financial Management interop)

ヒント： InteropLogging.xml で診断ロギングを有効にするには、14 行目の ERROR:1 を TRACE:1 に変更します。

注： Shared Services のインストールまたは実行で問題が発生する場合や外部認証で問題が発生する場合は、[91 ページの「Shared Services」](#)を参照してください。

EPM_ORACLE_INSTANCE/diagnostics/logs/hfm には、以下の Financial Management ログ・ファイルが含まれます:

- EPMWindowsConfig.log - Financial Management 固有の構成
- hfm.odl.log (Financial Management コア)
- HsvEventLog.log (Financial Management コア)
- InteropJava.log (Financial Management interop)

エラー・ログの詳細は、[第 3 章「EPM System ログの使用方法」](#)を参照してください。

Financial Management へのアクセス

サブトピック

- [EPM Workspace から Financial Management へのアクセスの失敗](#)
- [Financial Management へのログイン](#)
- [IIS に対する権限](#)

EPM Workspace から Financial Management へのアクセスの失敗

問題: Financial Management にアクセスできません。

解決策: 次の手順を行います:

1. EPM Workspace へのアクセスをテストするには、次の URL を使用します。ここで、webserver は EPM Workspace Web サーバーを実行しているマシンのホスト名、webport は Web サーバーのポート(デフォルトでは 19000)、hfmserver は Financial Management Web コンポーネントを実行しているマシンのホスト名、hfmpport は Financial Management が使用する Web サーバーのポート(デフォルトでは 80)です:

URL	予測される結果	結果が異なる場合の確認項目
http:// Web server : port / workspace/	EPM Workspace スプラッシュ画面が表示され、新しいブラウザ・ウィンドウにログイン・ページが開く。	<ul style="list-style-type: none">● EPM Workspace Web サーバーが指定されたポートで実行されている。● EPM Workspace Web アプリケーションが実行されている。● Web サーバー構成ファイルが、正しいホスト名とポートをポイントしている。
http:// hfmserver : hfmpport /hfm/	「hfm」とのみ記載されたページが表示される。	<ul style="list-style-type: none">● Financial Management Web サーバーが実行されている。● Web サーバー構成ファイルが、Financial Management Web サーバーの正しいホスト名とポートをポイントしている。
http:// webserver : webport /hfm/	「hfm」とのみ記載されたページが表示される。	Financial Management Web サーバーが実行されている。

Web サーバーの構成の詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の新規配置での EPM System 製品の構成に関する項を参照してください。

2. 手順 1 で解決できない場合は、EPM Workspace プロキシ・サーバー・プラグインが構成されていることを確認します。構成されている場合は、Financial Management に直接アクセスできるかどうかをテストします。

Financial Management へのログイン

問題: Financial Management にログインできません。

解決策: 次のアイテムを確認します:

- Financial Management がインストールされ、構成されている。
- IIS が開始し、Financial Management の仮想ディレクトリが作成されている。
- IIS の認証設定を確認する。セキュリティ・ポリシーに応じて、匿名認証または Web 認証を使用できます。

▶ 認証方法を確認するには:

- 1 IIS を開始し、「既定の Web サイト」を展開します。
- 2 Web 認証のフォルダ(たとえば、Web の場合は Financial Management フォルダ)を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- 3 「ディレクトリ セキュリティ」を選択します。
- 4 匿名アクセスまたは Web 認証が正しく構成されていることを確認します。

IIS に対する権限

問題: Financial Management の使用中に、ASP ファイルに関連するセキュリティ・アクセスのエラー・メッセージが表示されます。IIS に対する権限が正しく設定されていない場合に、この問題が発生する可能性があります。

解決策: デフォルトの Web サイトにアクセスし、ディレクトリ・セキュリティのプロパティを編集して、匿名アクセスを使用可能にします。

接続の問題

サブトピック

- [Financial Management への接続](#)
- [コンピュータの再起動後の失敗](#)
- [データベースへの接続](#)
- [SQL サーバーへの接続](#)

Financial Management への接続

問題: DCOM 起動ユーザーがローカル・マシン・アカウントに設定されている場合、ドメイン・ユーザーは一部のモジュールにログオンできません。たとえば、ドメイン A のユーザー ID を使用してワークステーションにログオンし、ドメイン B (またはドメイン B からアクセス可能な任意のドメイン)のユーザー ID を使用して Financial Management にログオンすると、ドメイン B の Financial Management サーバーに接続できません。

解決策: 次のいずれかの手順を実行します:

- ドメイン B (Financial Management サーバー)からドメイン A (Financial Management クライアント)に一方方向の信頼関係を設定します。この方法をお勧めします。
- Windows 2008 で、DCOM 既定の認証レベルをクライアントで「接続」に設定します。

- Windows 2008 以外の環境では、DCOM 既定の認証レベルをクライアントでなしに設定します。

注意 クライアントで DCOM 認証を無効にすると、クライアントのすべての DCOM アプリケーションについて DCOM 認証が無効になります。

コンピュータの再起動後の失敗

問題: コンピュータの再起動後、Financial Management インストールが失敗します。

解決策: Windows でリモート・プロシージャ・コール・サービスを確認します。

1. Windows のコントロール・パネルを開き、「サービス」を選択します。
2. 「Remote Procedure Call (RPC) Locator」が「手動」に設定されていることを確認します。
3. 「Remote Procedure Call」サービスを選択して「開始」をクリックし、コンピュータを再起動します。

データベースへの接続

問題: Financial Management データベースへの接続が失敗します。

解決策:

1. データベース・サーバーが稼働していることを確認します。
2. データベース・サーバーが稼働している場合、EPM System コンフィグレータで Financial Management の「データベース構成」パネルに移動し、データベース・サーバー名、ユーザー名、パスワードおよびデータベース名が正しいことを確認します。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。
3. データベース・サーバーが稼働していて、構成情報が正しいにもかかわらず、データベース接続が失敗する場合は、Oracle データベース・クライアントを再インストールします。

SQL サーバーへの接続

- **問題:** SQL Server に接続できないか、次のようなエラー・メッセージが表示されます: SQL Server: プロバイダの初期化中にエラーが発生したため接続テストに失敗しました。クライアントは接続を確立できません。
- **解決策:**
 - Microsoft SQL Server 認証ではなく Windows 認証が使用されている可能性があります。SQL Server 認証の使用をお勧めします。137 ページの「[Microsoft SQL Server 認証設定の確認](#)」を参照してください。
 - TCP/IP ではなく、名前付きパイプを使用してデータベースに接続するために Microsoft SQL Server のデフォルト設定が使用されている可能性があります。TCP/IP による接続が必要です。137 ページの「[TCP/IP を使用した SQL Server 接続の確立](#)」を参照してください。

TCP/IP を使用した SQL Server 接続の確立

Microsoft SQL Server 2005 または 2008 を使用する場合、データベースへの TCP/IP 接続はデフォルトで無効になります。EPM System コンフィグレータを実行する前に、これらの接続を有効にする必要があります。

▶ TCP/IP を使用した SQL Server 接続を確立するには:

- 1 「スタート」、「設定」、「コントロール パネル」の順に選択します。
- 2 「管理ツール」を選択し、「データ ソース (ODBC)」をダブルクリックします。
- 3 「追加」をクリックします。
- 4 ドライバのリストで「SQL Server」を強調表示し、「完了」をクリックします。
- 5 接続する SQL Server のデータ・ソース名、説明およびデータ・サーバー名を入力し、「次へ」をクリックします。
- 6 認証オプションとして「ユーザーが入力する SQL Server 用のログイン ID とパスワードを使う」を選択します。
- 7 「クライアントの設定」をクリックして、「TCP/IP」を選択し(選択されていない場合)、「OK」をクリックします。
- 8 「SQL Server への接続」でログイン ID およびパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。
- 9 デフォルトのデータベースを Financial Management データベースに変更します。
- 10 「次へ」をクリックし、「完了」をクリックします。
- 11 「データ ソースのテスト」をクリックします。
- 12 成功のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックし、もう一度「OK」をクリックしてダイアログ・ボックスを閉じます。
- 13 「OK」をクリックして「ODBC アドミニストレータ」ダイアログ・ボックスを閉じます。

Microsoft SQL Server 認証設定の確認

▶ Microsoft SQL Server 認証設定を確認するには:

- 1 「スタート」、「プログラム」、「Microsoft SQL Server」、「Enterprise Manager」の順に選択します。
- 2 Microsoft SQL Server のリストを展開します。
- 3 データベース・サーバー名を右クリックし、「プロパティ」を選択します。
- 4 「セキュリティ」を選択します。
- 5 認証オプションとして「SQL Server と Windows」が選択されていることを確認します。
- 6 「OK」をクリックします。

インストールに必要な権限

問題: Financial Management をインストールおよび構成できません。

解決策: Financial Management をインストールするためのローカル管理者権限があることを確認します。

大きなデータまたはファイルのロード

問題: 大きなデータまたはファイルのロードの実行時にエラー・メッセージが表示されます。

解決策: クラシック管理を使用していてプロキシ・エラーが発生した場合は、Workspace のタイムアウト設定を大きくします。

固定サーバーがユーザーのリダイレクトを試みる

問題: Windows アプリケーション・ログで数分ごとに次のイベントが記録されません:

ソース (HyperionFinancialManagement) のイベント ID (0): 固定サーバーがサーバーへのユーザーのリダイレクトを試みました! 戻りコード=-2147220919。

戻りコードは常に同じで、アプリケーション・サーバー名のみが変更されます。

解決策: サインオンしたトークンが無効になった場合、この問題が発生します。解決するには、次の手順を実行してください:

- 各 Web サーバーおよび Financial Management Win32 クライアント・マシンに、次のレジストリ設定を追加します:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hyperion Solutions\Hyperion Financial Management\Client\Clusters\machine name
```

- 適切なロギングを設定して、特定の DCOM 問題が発生するかどうかを確認します。すべてのサーバー上で HKLM\Microsoft\Ole\CallFailureLoggingLevel および ActivationFailureLoggingLevel が使用可能で、ログイン監査ポリシーが「成功」と「失敗」の両方に設定されます。

EnableServerLocking オプション

問題: Financial Management を複数のアプリケーション・サーバーと設定した後、EnableServerLocking オプションが使用不可です。

EPM System コンフィグレータは、自動的に EnableServerLocking オプションを有効にしません。そのため、複数の Financial Management アプリケーション・サーバーを使用している場合、データ同期は 300 秒後に実行されず、HsvEventLog.log には "Multi-server is not ON" と記録されます。

解決策: Windows レジストリを更新してオプションを手動で使用可能にします。:

1. 次のキーを探します:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Hyperion Solutions\Hyperion Financial Management\Server
```

2. キーに次のパラメータを追加します:

```
"EnableServerLocking"=dword:00000001
```

JRF WebServices Asynchronous サービス

問題: このエラー・メッセージは、Financial Management を配置する際に返されま
す:

不足のテンプレートをインストールしてください: Oracle JRF WebServices
Asynchronousサービス。

解決策: JRF WebServices Asynchronous サービスは、Financial Management を Financial
Close Management とともに使用するために必要です。Financial Close Management
を使用していないか、インストールしていない場合、EPM System コンフィグレー
タで Financial Management の「アプリケーション・サーバーへの配置」タスクを
選択する必要はありません。これにより、エラー・メッセージが返される可能性
がありますが、Financial Management の機能には影響がありません。間違えて
Financial Management で「アプリケーション・サーバーへの配置」を選択した場
合、エラー・メッセージを無視しても構いません。

Financial Close Management

サブトピック

- [Financial Close Management の一般的なトラブルシューティングのヒント](#)
- [OWSM ロギングの有効化](#)
- [管理対象サーバーのメモリー不足エラー](#)
- [SOA サーバー・ログ内の HumanWorkflow エンジンのエラー](#)
- [Financial Close Management のインストールおよび構成の問題](#)
- [使用できない Bean の警告が繰り返される](#)
- [Financial Close Management スケジュールの実行の問題](#)
- [WebLogic および Logging Last Resource \(LLR\) データソース](#)
- [Account Reconciliation Management](#)

Financial Close Management の一般的なトラブル シューティングのヒント

Financial Close Management のインストールと構成の問題をトラブルシューティン
グする場合、次のログを確認します。ログの情報が問題の解決に役立つ場合があ
ります。テクニカル・サポートへのお問合せの際も、問題に関する情報が含まれ
た MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/
FinancialClose0/logs のログを使用できます:

- [WebLogic 管理サーバー](#)

- AdminServer.log
- AdminServer-diagnostic.log
- SOA
 - soa_server1.log
 - soa_server1-diagnostic.log
- Financial Close Management: FinancialClose.log
- Foundation Services: FoundationServices0.log

第3章「EPM System ログの使用方法」を参照してください。

Financial Close Management 検証ツールを実行して、Financial Close Management のコンポーネントが正しく配置および構成していることを確認します。手順は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の Financial Close Management の配置の確認に関する項を参照してください。

問題が EPM Workspace に関連するかどうかを確認するには、リンク (<http://host:port/fcc/faces/oracle/apps/epm/fcc/ui/page/FCCDashboard.jspx>) を使用して EPM Workspace を介さずに Financial Close Management に直接ログオンします。Financial Close Management のデフォルト・ポートは 8700 です。

詳細は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の Financial Close Management 構成後のタスクに関する項を参照してください。

OWSM ロギングの有効化

▶ OWSM ロギングを使用可能にするには:

- 1 Enterprise Manager コンソールにログオンします。
- 2 「Weblogic ドメイン -」 domain name を展開します。
- 3 「soa_server1 - ログ - ログ構成」を右クリックします。
- 4 右ペインで、検索フィールドに oracle.wsm と入力して、検索を開始します。
- 5 ロガーのロギング・レベルを TRACE:32 (FINEST) に変更して、「適用」をクリックします。
- 6 Financial Close Management 管理対象サーバーで、手順 3 から手順 5 を繰り返します。

管理対象サーバーのメモリー不足エラー

問題: Financial Close Management 管理対象サーバーで次のエラーが発生します:

```
java.lang.OutOfMemoryError: PermGen space
```

解決策: 次の手順を行います:

1. PermGen 設定を 300M 程度まで小さくします。必要に応じて 300M の設定を増やしますが、通常 512M より下の設定で十分です。
2. 最大ヒープ・サイズを大きくするには、XXM 設定を増やします。本番環境では、1024M の設定をお勧めします。

SOA サーバー・ログ内の HumanWorkflow エンジンのエラー

問題: SOA サーバー・ログの HumanWorkflow エンジンに関するエラーを確認します。例外は、`oracle.ods.virtualization.service` への参照を示しています。例外は、リソースの割当てエラーまたは接続プール関連のエラーを示しています。これらのエラーは、LibOVD の接続プールが一杯で、接続の新規の要求を受け入れていないために発生する可能性があります。

解決策: 次の手順に従い、外部認証者用に接続プールを増やします:

1. `DOMAIN_HOME/config/fmwconfig/ovd/default` に移動します。
2. `adapters_os.xml` ファイルをバックアップします。
3. `adapters_os.xml` を開き、外部 LDAP プロバイダに対応する XML フラグメントを特定します。
4. `<maxPoolSize>10</maxPoolSize>` を 100 に編集し、ファイルを保存します。
5. ドメイン内のすべてのサーバーを再起動します。これは、ドメイン・レベルの変更です。

Financial Close Management のインストールおよび構成の問題

サブトピック

- [Financial Close Management サーバーのタイムアウト](#)
- [WebLogic のタイムアウト](#)
- [Web サービスを使用できない](#)
- [起動順序](#)
- [EPM Workspace からの Financial Close Management の起動](#)
- [Financial Close Management 構成中の SOA サーバーへの配置](#)
- [Financial Close Management の電子メールの受信不能](#)
- [電子メール通知の言語設定](#)
- [Financial Close Management ユーザー・プロビジョニング](#)
- [電子メールからのログオン・アクセス](#)
- [ドメインの構成](#)

Financial Close Management サーバーのタイムアウト

問題: テンプレートにタスク・セットをインポートしようとする時、インポートがフリーズするか、テンプレート内にタスク・セットが重複して作成されます。FinancialClose.log ファイルに次のエラー・メッセージが記録されます:

```
ExecuteThread: '2' for queue: 'weblogic.kernel.Default (self-tuning)' has been
busy for "623" seconds working on the request
"weblogic.servlet.internal.ServletRequestImpl
```

FinancialClose.log ファイルに次のトレース・メッセージも記録されます:

```
Thread-64 "[STUCK] ExecuteThread: '2' for queue: 'weblogic.kernel.Default (self-
tuning)'" <alive, suspended, priority=1, DAEMON>
oracle.jbo.server.ViewObjectImpl.getApplyAllViewCriterias(ViewObjectImpl.java:8043)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.getWhereClauseParamsFromVcVars(ViewRowSetImpl.java:
4588)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.getParameters(ViewRowSetImpl.java:5906)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.getRowFilter(ViewRowSetImpl.java:625)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.execute(ViewRowSetImpl.java:1008)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.executeQueryForMasters(ViewRowSetImpl.java:1291)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.executeQueryForMode(ViewRowSetImpl.java:1221)
oracle.jbo.server.ViewRowSetImpl.executeQuery(ViewRowSetImpl.java:1213)
oracle.jbo.server.ViewObjectImpl.executeQuery(ViewObjectImpl.java:6097)
^-- Holding lock: oracle.jbo.JboSyncLock@376adc6[thin lock]
^-- Holding lock: oracle.jbo.JboSyncLock@376adc6[thin lock]
oracle.apps.epm.fcc.model.applicationModule.scheduling.TaskScheduling
$TaskCriticalPath._loadPredecessors(TaskScheduling.java:1462)
```

解決策: 3つの設定を変更し、Financial Close Management サーバーのタイムアウト設定を大きくします。

1. WebLogic 管理サーバー・コンソールから、「domain name」、「環境」、「サーバー」の順に選択します。
2. 右側のパネルで「FinancialClose0」というサーバー名をクリックします。
3. 「構成」タブで次の操作を実行します:
 1. 「チューニング」サブタブで、「スタック・スレッド最大時間」の値を大きくします。
 2. 「オーバーロード」サブタブで、「スタック・スレッド最大時間」の値を大きくします。
4. 「プロトコル」タブで、「完了メッセージ・タイムアウト」の値を大きくします。

WebLogic のタイムアウト

問題: FinancialClose.log ファイルに次のエラー・メッセージがあります:

```
weblogic.transaction.internal.TimedOutException: トランザクションはxx秒
後にタイムアウトしました
```

解決策: WebLogic 管理コンソールを使用して、JTA タイムアウトの設定を大きくします:

1. http://host name:7001/console にログオンします。
2. 「ドメイン構造」、「サービス」、「JTA」ページの順に選択します。
3. 「JTA」タブで、「タイムアウト」設定を 300 に変更します。

4. 「保存」をクリックします。
5. 「変更のアクティブ化」をクリックします。

Web サービスを使用できない

問題: SOA Suite サーバーが、異なるマシンにある Web サービスを呼び出すことができず、このエラーが記録されます:

oracle.wsm.security.SecurityException: WSM-00060 : タイム・スタンプの検証でエラーが発生しました

解決策: 両方のマシンで時間を確認し、マシン間の違いが 5 分より短くなるように一方のマシンの時間を再設定します。

このエラーの詳細を見るには、OWSM ログングを有効にします。140 ページの「OWSM ログングの有効化」を参照してください。

詳細は、『Oracle® Fusion Middleware Web サービスのためのセキュリティおよび管理者ガイド』(http://download.oracle.com/docs/cd/E12839_01/web.1111/b32511/diagnosing.htm#CHDIDCHA)の第 15 章「診断の問題」を参照してください。

起動順序

問題: サービスとサーバーが間違った順序で起動されたため、メディアエータが無効です。または、Financial Management 統合が機能しません。

解決策: サービスの起動タイプを「手動」に変更し、サービスおよびサーバーを、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide で指定されている順に起動します。

注意 Financial Close Management を構成するために SOA サーバーを起動した場合、それを停止してから Oracle Enterprise Performance Management System サービスを開始してください。Financial Management は、統合のためにコンポジットを設定できるように、SOA の起動時に実行されている必要があります。

EPM Workspace からの Financial Close Management の起動

問題: EPM Workspace の「ナビゲート」メニューで、Financial Close Management アプリケーションが\${CloseManager}と表示されています。\${CloseManager}をクリックすると、次のエラーが記録されます:

モジュールの構成が無効か、見つかりません

必要なアプリケーション・モジュールfcc.calendarが構成されていません。管理者にお問い合わせください。

解決策: Financial Close Management Web アプリケーションを起動します:

1. WebLogic 管理コンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/console>)にログオンします。

2. 「ドメイン構造」パネルで、「デプロイメント」をクリックします。
3. FinancialClose アプリケーションがアクティブかどうかを確認します。
4. FinancialClose アプリケーションの状態がアクティブでない場合、「開始」をクリックして「すべてのリクエストを処理」を選択することにより、アプリケーションを起動します。
5. Financial Close Management の起動に失敗する場合、MIDDLEWARE_HOME/
user_projects/domains/EPMSysstem/servers/FinancialClose0/logs/
FinancialClose0.log で原因を確認します。

Financial Close Management 構成中の SOA サーバーへの配置

問題: RCU 構成ウィザードの「サマリー」セクションに次のエラー・メッセージが表示されます:

ORA-01450 キーが最大長を超えました

解決策: DB_BLOCK_SIZE の設定を大きくします。

問題: SOA のログに、列の欠落または存在しない表またはビューに関するエラー・メッセージが含まれています。これらのエラーは、RCU によって生成された SOAINFRA データベース・スキーマが、インストールされている SOA Suite サーバーのバージョンと互換性がないことを示しています。

解決策: 互換性のあるバージョンの RCU および SOA Suite をインストールしたことを確認します。

ヒント: Oracle(R) E-Delivery (<http://edelivery.oracle.com/>) の Oracle Enterprise Performance Management System メディア・パックから Repository Creation Utility (RCU) と SOA Suite をダウンロードし、インストールすることをお勧めします。メディア・パックには正しいバージョンの RCU と SOA Suite が含まれています。

SOA Suite と RCU のバージョンを比較するには、次のフォルダの version.properties ファイルを確認します:

- RCU - rcuHome/rcu/integration/soainfra
- Oracle SOA Suite - MIDDLEWARE_HOME/Oracle_SOA1/rcu/integration/
soainfra

Financial Close Management の電子メールの受信不能

問題: 電子メール・ドライバが正しい情報で構成されていることを確認した後、Financial Close Management からテスト用電子メールまたは電子メールを受信できません。

解決策: 次の手順を行います:

1. Enterprise Manager(http://WebLogic_Admin_Host:WebLogic_Admin_Port/em) に移動して、WebLogic 管理サーバーとしてログインします。

2. 「ユーザー・メッセージング・サービス」フォルダを展開し、「usermessagingdriver-email(soa_server1)」を右クリックして「電子メール・ドライバ・プロパティ」を選択します。
3. 共通構成セクションの「送信者アドレス」および「デフォルトの送信者アドレス」フィールドにアドレスが含まれていないことを確認します。

電子メール通知の言語設定

問題: ユーザーは、SOA サーバーで指定されたデフォルト言語とは異なる言語で電子メール通知を受信する必要があります。

解決策: ID ストアでユーザーの言語プリファレンスを指定します。たとえば、LDAP ベースの ID ストアの場合:

1. ID ストアに接続します。
2. ユーザー・エントリに移動します。
3. preferredLanguage 属性を追加または設定します。

Financial Close Management ユーザー・プロビジョニング

問題: Financial Close Management が Shared Services に表示されないため、ユーザーに Financial Close Management の役割をプロビジョニングできません。

解決策: この問題は、Financial Close Management の Shared Services への登録が失敗したことを示しています。Financial Close Management を強制的に Shared Services に再登録するには:

1. financialclose_1_config.xml ファイルで次の文字列を検索します:
hubRegistration。

financialclose_1_config.xml ファイルは EPM_ORACLE_INSTANCE/config/foundation/11.1.2.0/product/financialclose/11.1.2.0 にあります。

MIDDLEWARE_HOME

2. 次の行を置換します:

```
<property name="hubRegistration">Configured</property>
```

次の行で:

```
<property name="hubRegistration">Pending</property>
```

3. EPM System コンフィグレータを再実行し、Financial Close Management のトップノードのみを選択します。

電子メールからのログオン・アクセス

問題: MSAD の構成後、スケジュールを起動し、タスクを実行できますが、電子メール・メッセージ内の「タスク・アクション」リンクからログオンできません。

解決策: MSAD セキュリティ・プロバイダに指定されている「送信者フィルタ」がユーザー名に正しい属性を使用していることを確認します(たとえば、(&(sAMAccountName=%u) (objectclass=user)))。

ドメインの構成

問題: Financial Close Management Web アプリケーションを Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System コンフィグレータから既存のドメインを拡張することによって配置しようとする、次のエラー・メッセージが返されます:

EPMCFG-10072: "<domain path>"ドメインの指定された管理ユーザー・パスワードが誤っています。ドメイン構成を確認して、正しいユーザー・パスワードを指定してください。

解決策: domain/servers/AdminServer の下に security フォルダを追加し、boot.properties ファイルを security フォルダ内に追加します。

boot.properties ファイルの例:

username=weblogic (クリア・テキストの WebLogic 管理ユーザー名)

password=welcome1 (クリア・テキストの WebLogic 管理パスワード)

使用できない Bean の警告が繰り返される

問題: メンテナンス・リリースを適用すると、SOA サーバー・ログ内で次の警告が永久に繰り返されます:

<警告><oracle.wsm.resources.policyaccess><WSM-06217><デフォルト・コンテキストのoracle.wsm.policymanager.accessor.BeanAccessorリポジトリ・アクセサの構成に、リモート・リポジトリのインタフェース oracle.wsm.policymanager.IDocumentManager Beanのインスタンスを使用できませんでした。>。

解決策: wsm-pm アプリケーションのすべてのターゲットが mds-owsm データソースのターゲットでもあることを確認します。

1. hostname:7001/console にログオンします。
2. 左側のパネルで「配置」をクリックし、wsm-pm アプリケーションについて表示されたターゲットを確認します。
3. 「データ・ソース」をクリックし、mds-owsm のターゲットを確認します。
4. mds-owsm データソースについてまだ表示されていない wsm-pm アプリケーション・ターゲットがあれば、それを追加します。

Financial Close Management スケジュールの実行の問題

サブトピック

- 電子メール設定の確認
- 無効な XID
- 接続リソースの割当てエラー
- スケジュールのステータス

電子メール設定の確認

注： SOA 電子メールの設定の後に Oracle Fusion Middleware PS3 へアップグレードする場合、設定が従前どおり正しいことを確認してください。

問題: 電子メール通知の受信について確認する必要があります。

解決策: この手順を使用して、電子メール通知の受信設定が正しく行われていることを確認します:

1. Enterprise Manager で、「SOA」フォルダを展開します。
2. 「soa-infra (soa_server1)」を右クリックして、「サービス・エンジン」、「ヒューマン・ワークフロー」、「通知管理」、「テスト通知の送信」の順にクリックします。
3. 送信先の電子メール・アドレスを入力し、チャンネルとしての電子メールを選択します。テスト・メッセージを入力して「送信」をクリックします。

設定が正しい場合は、テスト・メッセージの電子メールを受信します。

無効な XID

問題: SOA サーバーからデータベースへの接続を試みると、次のエラー・メッセージが表示されます:

XID が無効です。start()がリソース'[connection pool]'で失敗しました

このエラーは、XA ドライバを使用する JDBC データ・ソースで発生します。

解決策: データ・ソースの XA トランザクション・タイムアウト設定を変更します:

1. WebLogic 管理コンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/console>)で、「サービス」、「JDBC」、「データ・ソース」、「SOADDataSource」、「トランザクション」の順に選択します。
2. 「XA トランザクション・タイムアウトの設定」を選択します。
3. 「XA トランザクションのタイムアウトを 0 に」を設定します。

接続リソースの割当てエラー

問題: Financial Close Management のログに次のエラー・メッセージが含まれていません:

```
java.sql.SQLException: JNDI URL 'jdbc/data source' を介してデータソース  
を取得できませんでした。
```

```
weblogic.jdbc.extensions.PoolDisabledSQLException:
```

```
weblogic.common.resourcepool.ResourceDisabledException: プール data  
source は中断しています。リソースをアプリケーションに割り当てられません..
```

このメッセージは、指定したデータ・ソースに対する接続プールで使用できる最大接続数を越えたことを示します。

解決策: 接続プールの容量を増やします:

1. WebLogic 管理コンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/console>)で、「サービス」、「JDBC」、「データ・ソース」の順に選択します。
2. データ・ソースを選択し、「接続プール」、「最大容量」の順に選択します。
3. データ・ソース設定を編集して、容量を増やします。

financialclose_datasource 設定の推奨値は 150 ですが、インストール要件に応じて他の数値を使用することもできます。

スケジュールのステータス

この項に記載されている問題はすべて、タスクが想定どおりに起動されていないことを表します。

問題: タスクの開始や発行に失敗します。SOA 診断ログに次のエラーが表示されません。これは、SOA サーバーが MSAD サーバーに接続できないことを示しています:

```
[soa_server1] [ERROR] [OVD-60143]  
[oracle.ods.virtualization.engine.backend.jndi.MSAD.BackendJNDI] [tid:  
[ACTIVE].ExecuteThread: '14' for queue: 'weblogic.kernel.Default (self-tuning)']  
[userId: cfndmr] [ecid: 0000J5qkW1R4epYVLqESOA1EBZ6^0003dU,1:23453] [APP: soa-infra]  
[#MSAD] Unable to create connection to ldap://[ldapcml.XXXX.ad]:389 as  
CN=XXXXX,OU=ServiceAccounts,DC=XXXX,DC=ad. [[ javax.naming.NamingException: No LDAP  
connection available to process request for DN:  
CN=XXXXX,OU=ServiceAccounts,DC=XXXXX,DC=ad
```

解決策: LibOVD アダプタ構成を変更して、AD LDAP アダプタの接続プールを 100 に増やします:

1. SOA Oracle ホーム・ディレクトリに移動します(たとえば MIDDLEWARE_HOME/Oracle_SOA1/common/bin)。
2. wlst.sh (UNIX)または wlst.cmd (Windows)を実行します。
3. connect() コマンドを使用して WebLogic 管理サーバーに接続します。
4. 次のコマンドを入力します:

```
modifyLDAPAdapter(adapterName='MSAD', attribute='MaxPoolSize',
value=100)
```

5. WebLogic 管理サーバーと、SOA アプリケーションが実行されている管理対象サーバーを停止してから再起動し、新しい接続プール設定を有効にします。

注： `wlst` コマンドが失敗した場合は、Weblogic 管理サーバー上の次のファイルを手動で編集して、MSAD アダプタの `MaxPoolSize` を 100 に増やします：

```
MIDDLEWARE_HOME /user_projects/domains/EPMSysstem/config/
fmwconfig/ovd/default/adapters.os_xml
```

WebLogic 管理サーバーと、SOA アプリケーションが実行されている管理対象サーバーを停止してから再起動し、新しい接続プール設定を有効にします。

問題： スケジュールのステータスを「オープン」に設定しても、ステータスは「保留中」のまま変わらないか、あるいは「保留中」に戻ります。

解決策： スケジュールのステータスが「保留中」に戻るということは、SOA サーバーへのメイン編成コンポジットの作成および配置時にエラーが発生したことを示しています。次の手順に従って、エラーを特定して解決します：

1. `MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/soa_server1/Logs/soa_server1-diagnostic.log` で、ステータスが元に戻った時点での SOA サーバーの例外の有無を確認します。たとえば、SOA サーバーのメモリー不足などの例外があります。
2. `MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/servers/FinancialManagement0/Logs/FinancialClose.log` で、**Financial Close Management** 管理対象サーバーで発生したエラーを確認します。

注： `MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig/servers/FinancialClose0` の `logging.xml` を編集してレベルを `TRACE:32` に変更すると、より詳細なデバッグ情報が得られるロギング・レベルに上げることができます。

3. `FinancialClose.log` に次の `NullPointerException` がある場合、データベースにログオンし、`FCC_COMPOSITE_TEMPLATES` の `TEMPLATE_CONTENT` 列が移入されていることを確認します：

メソッド：

```
fcc.model.applicationModule.IntegrationTypeManager.handleIntTypeM
ediator() [line:470]の起動後に
```

```
fcc.model.applicationModule.bpel.CompositeGenerator.generateCompo
siteArtifacts() [line:120]で例外NullPointerExceptionが発生しました
```

4. SOA 管理対象サーバーと WebLogic 管理コンソール・サーバーの両方が稼働中であることを確認します。

次のようなエラー・メッセージは、SOA 管理対象サーバーが実行されていないことを示します：

```
[2010-07-27T14:14:25.094-04:00] [FinancialClose0] [ERROR] []
[oracle.apps.epm.fcc.model]
[tid: 23] [userId: admin] [ecid: 0000IcL7CiR1BhMLUM5Eic1CJPKU0000um,0]
[SRC_CLASS:
oracle.apps.epm.fcc.model.applicationModule.bpel.CompositeDeployer] [APP:
FinancialClose] [SRC_METHOD: m_executeCommand] Can't find resource for bundle
java.util.PropertyResourceBundle, key Failed deploying the composite[[
java.net.ConnectException: Connection refused: connect
at java.net.PlainSocketImpl.socketConnect(Native Method)
at java.net.PlainSocketImpl.doConnect(PlainSocketImpl.java:333)
at java.net.PlainSocketImpl.connectToAddress(PlainSocketImpl.java:195)
```

次のようなエラー・メッセージは、WebLogic 管理コンソール・サーバーが実行されていないことを示します:

```
[2010-07-23T16:56:47.266-04:00] [FinancialClose0] [ERROR] []
[oracle.apps.epm.fcc.model]
[tid: 15] [userId: admin] [ecid: 0000Ic160D^2FSYVLqaQOAlCIS1300006t,0]
[SRC_CLASS:
oracle.apps.epm.fcc.model.applicationModule.SOAServerManager] [APP:
FinancialClose]
[SRC_METHOD: _initJMXConnector] [[
java.io.IOException
at
weblogic.management.remote.common.ClientProviderBase.makeConnection(ClientProvide
rBase.j
ava:195)
at
weblogic.management.remote.common.ClientProviderBase.newJMXConnector(ClientProvid
erBase.
java:83)
at
javax.management.remote.JMXConnectorFactory.newJMXConnector(JMXConnectorFactory.j
ava:
338)
```

問題: スケジュールを「オープン」ステータスに設定した後、タスクが起動しません。

解決策: スケジュールを「オープン」ステータスに設定した後、起動時間が過去で、先行タスクがないタスクのステータスはオープン実行中に変更されるはずで、システムが正しく構成されていることを確認します。

データ・ソースが正しく構成されていてタスクが起動しない場合、次の手順に従います:

1. Enterprise Manager コンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/em>)にログオンします。
2. 左側で、「SOA」、「soa-infra (soa_server1)」の順に展開します。
3. 右側のダッシュボードの「デプロイ済コンポジット」リストで「MainOrchXXXComposite」(表の最上部)をクリックします。これは、直前に開かれたスケジュールのコンポジットです。
 - MainOrchxxxComposite が作成されていない場合、epmsys_registry.bat
view FINANCIAL_CLOSE_PRODUCT/LOGICAL_WEB_APP/

FINANCIAL_CLOSE_WEB_APP/APP_SERVER を実行して adminHost および adminPort プロパティが存在するかどうかを調べます。

adminHost および adminPort プロパティが存在しない場合、Financial Close Management は正しい APP_SERVER コンポーネント(「WebLogic 10 (APP_SERVER)」)にリンクされていません。レジストリには APP_SERVER コンポーネントのインスタンスが2つ存在する必要があります。両方の APP_SERVER コンポーネントの ID をメモしておき、次のコマンドを実行して問題を解決します:

1. epmsys_registry.bat removelink # Financial Close Management Product ID # Wrong APP_SEVER Component ID
 2. epmsys_registry.bat createlink # Financial Close Management Product ID # Correct APP_SEVER Component ID
- インスタンスの数が 0 の場合、イベントの構成時にエラーが発生した可能性があるため、EDN 設定を確認します:
 1. SOA サーバーが MS SQL Server を使用して構成されている場合は、次の手順で EDN 設定を確認します:
 - Oracle Enterprise Manager コンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/em>)にログオンし、イベントが EDN-JMS モードに設定されていることを確認します。
 - WebLogic 管理コンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/console>)にログオンし、次の状況に該当していることを確認します:
 - EDNDataSource および EDNLocalTxDataSource JDBC データ・ソースが削除されています。
 - EDN-JMS 外部 JNDI プロバイダが適切に設定されています。
 2. SOA サーバーが Oracle Database を使用して構成されている場合は、WebLogic 管理コンソール(<http://WebLogic Admin host:WebLogic Admin port/console>)にログオンし、EDNDataSource および EDNLocalTxDataSource データ・ソースのターゲットが Financial Close Management 管理対象サーバーと SOA サーバーの両方になっていることを確認します。

ヒント: Oracle Database を使用している場合、SOA サーバーに発行されたイベントはすべて、<http://SOA server host:8001/soa-infra/events/edn-db-log> で確認できます。

- メイン編成コンポジットのインスタンスの数が 1 以上で、メイン編成コンポジットに他の問題がない場合、「FCCTaskExecutionComposite」をクリックします。これは、スケジュール内の各タスクを実行するコンポジットです。ダッシュボードで、タスク実行コンポジットの最新の失敗と拒否されたメッセージを確認します。

ヒント: WL_LLRL_FINANCIALCLOSE0 表の RECORDSTR 列の幅が 4000 であることを確認します。

- MIDDLEWARE_HOME/user_projects/domains/EPMSysystem/servers/soa_server1/Logs/soa_server1-diagnostic.log で、スケジュールのステータスが「オープン」に設定されたときの SOA サーバーでの例外を確認します。

ビジネス・イベントが正しく発行されなかった、SOA データ・ソースが中断していたなどの例外が、SOA 診断ログに含まれている可能性があります。

- SOA ログの一般的なエラーには次のようなものがあります:

- 原因: java.security.cert.CertificateExpiredException: 日時: 8月26日(木) 17:37:01 EDT 2010 at sun.security.x509.CertificateValidity.valid(CertificateValidity.java:256) at sun.security.x509.X509CertImpl.checkValidity(X509CertImpl.java:570) at sun.security.x509.X509CertImpl.checkValidity(X509CertImpl.java:543) at oracle.wsm.security.jps.WsmKeyStore.getJavaCertificate(WsmKeyStore.java:505)

このエラーは、キーストアの有効期限が切れていることを示します。キーストアを再作成して、正しい Oracle Fusion Middleware config フォルダにコピーします。手順については、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。

- [ecid: 0000IqHXWnOCknYVLqNM8A1CZoZd0000DK,0:1:0x5f5e458:3:100000862] [APP: soa-infra] <BaseCubeSessionBean:: log error> Bean "cube delivery"起動中のエラー: 例外はCollaxa Cubeにより処理されません。[[未処理の例外がCollaxa Cubeシステムでスローされました; 報告された例外は次のとおりです: "ORABPEL-00000 例外はCollaxa Cubeシステムにより処理されません。未処理の例外がCollaxa Cubeシステムでスローされました; 報告された例外は次のとおりです: "ローカル例外スタック: 例外[EclipseLink-4002] (Eclipse Persistence Services - 1.2.0.v20091016-r5565): org.eclipse.persistence.exceptions.DatabaseException 内部例外: java.sql.SQLException: 内部エラー: XAConnectionを取得できません。weblogic.common.resourcepool.ResourceDeadException: 0:weblogic.common.ResourceException: リスナーが次のエラーで接続を拒否しました: ORA-12516, TNS:リスナーはプロトコル・スタックが一致する使用可能なハンドラを検出できませんでした。at weblogic.common.resourcepool.ResourcePoolImpl.reserveResourceInternal(ResourcePoolImpl.java:436) at weblogic.common.resourcepool.ResourcePoolImpl.reserveResource(ResourcePoolImpl.java:332) at weblogic.jdbc.common.internal.ConnectionPool.reserve(ConnectionPool.java:433) at weblogic.jdbc.common.internal.ConnectionPool.reserve(ConnectionPool.java:316) at

```
weblogic.jdbc.common.internal.ConnectionPoolManager.reserve
(ConnectionPoolManager.java:93)
```

このエラーは、データベース・サーバーがロードを処理できないことを示します。データベースの PROCESSES パラメータの値を大きくしてください。

- FabricInvocationException[[

```
javax.xml.ws.soap.SOAPFaultException: トランザクションが31秒後にタイムアウトしました。
```

このエラーは、データベース・サーバーがロードを処理できず、SOAからのコールがタイムアウトしたことを示します。この WebLogic Server ドメインの JTA 構成を大きくしてください: WebLogic 管理サーバー・コンソールから、「JTA」タブに移動し、「タイムアウト」の値を大きくします。

- ORABPEL-10509 ユーザーが見つかりません。ユーザー"#error:noapi#"が構成"jazn.com"で見つかりません。

このエラーの最も有力な原因は、Financial Close Management が Shared Services からのユーザー ID の取得に失敗したことです。WebLogic 管理コンソールの JDBC データ・ソース EPMSysRegistry で、ユーザー ID を取得するだけのコール数を処理できるほど接続プールが大きいことを確認します。接続プール・サイズの要件は場合によって異なりますが、クローズ処理で同時に開始されるクローズ・タスクの数よりも接続プールを大きくするようにします。たとえば、50 のクローズ・タスクが同時に開始される場合、接続プールのサイズは 50 よりも大きくします。

- Caused by: com.oracle.bpel.client.BPELFault: faultName: {{http://schemas.oracle.com/bpel/extension}remoteFault} messageType: {{http://schemas.oracle.com/bpel/extension}RuntimeFaultMessage}

```
parts: {{
```

```
summary=<summary>oracle.fabric.common.FabricInvocationException: Unable to access the following endpoint(s): http://<hostname>:<port>/FCC-DataModel-context-root/SOAAMService</summary>
```

```
,detail=<detail>Unable to access the following endpoint(s): http://<hostname>:<port>/FCC-DataModel-context-root/SOAAMService</detail> ,code=<code>null</code>
```

WebLogic ドメイン内のすべてのサーバーに正しいキーストアとログイン情報ストア・ファイルがあることを確認します。このエラーは、通常、キーストアの設定が不正な場合に発生します。

エラーが解決されない場合は、OWSM ロギングを有効にして、エラーの詳細を確認します。140 ページの「OWSM ロギングの有効化」を参照してください。

- 次のエラー:

parseADFConfigurationMDS-01330でMDSConfigurationException発生: MDS構成ドキュメントをロードできません。

MDS-01329: 要素"persistence-config"をロードできません

MDS-01370:metadata-store-usage "OWSM_TargetRepos"のMetadataStore構成が無効です。

MDS-00922: 接続マネー

ジャ"oracle.mds.internal.persistence.db.JNDIConnectionManagerImpl"をインスタンス化できません。

MDS-00929: 名前"jdbc/mds/owsm"をJNDIで参照できません。'jdbc.mds.owsm'の参照中にサブコンテキスト'mds'が検出できません。解決された'jdbc'

WebLogic 管理コンソールで、wsm-pm のターゲットが SOA 管理対象サーバーおよび Foundation Services 管理対象サーバーであることを確認します。

また、JDBC データ・ソース mds-owsm のターゲットが AdminServer、SOA 管理対象サーバーおよび Oracle Hyperion Foundation Services 管理対象サーバーであることを確認します。

- ポリシー参照URIが無効です。

ブラウザで、http://SOA server host:SOA port/wsm-pm/validator (たとえば、http://localhost:8001/wsm-pm/validator) を開き、OWSM 構成が正しいことを確認します。OWSM 構成が正しい場合、メッセージ Policy Manager Status: Operational が、サポートされているセキュリティ・ポリシーのリストとともに表示されます。

ポリシー・マネージャーのステータスが operational でない場合、WebLogic 管理コンソールの設定を確認します。一般的な OWSM の構成エラーには、アプリケーション wsm-pm が複数のターゲットに配置され、JDBC データ・ソース mds-owsm を正しくターゲットとしていないことが含まれます。アプリケーション wsm-pm は、SOA 管理対象サーバーのみをターゲットとする必要があります。

- java.sql.SQLException: Unexpected exception while enlisting XAConnection java.sql.SQLException: XA error: XAResource.XAER_NOTA start() failed on resource 'SOADatasource_EPMSsystem': XAER_NOTA : The XID is not valid.
XA ドライバを使用する JDBC データ・ソースの場合、WebLogic 管理コンソールを使用して、XA トランザクションのタイムアウトが有効で、XA トランザクションのタイムアウトが 0 に設定されていることを確認します。

問題: タスクが「エラー」ステータスに変更されています。

解決策: Financial Close Management にログオンし、「履歴」タブをクリックします。「履歴」タブの行に、詳細なエラー・メッセージが表示されます。

WebLogic および Logging Last Resource (LLR) データソース

Microsoft SQL Server を使用している場合、WebLogic and Logging Last Resource (LLR) データソースに関連する既知の問題があります。エラーは、LLR により使用されるテーブルで行の挿入または更新が行われると発生します。この問題を回避するには、DBA が LLR テーブルを削除して、列サイズを拡大して LLR テーブルを作成しなおす必要があります。

ヒント: この手順は、Oracle Hyperion Financial Close Management の管理対象サーバーの名前が、デフォルトの FinancialClose0 以外である場合のみ必要です。

http://download.oracle.com/docs/cd/E13222_01/wls/docs92/jta/llr.html を参照してください。

使用環境の必要に応じて、WebLogic 属性(Follow Referrals)を設定します。WebLogic が MSAD によりユーザー・プリンシパルを導出するように構成されている場合、この設定は MSAD の設定を反映している必要があります。

- MSAD が参照に従うように構成されている場合、属性は WebLogic で有効になる必要があります。
- MSAD が参照に従うように構成されていない場合、属性は WebLogic で無効になる必要があります。

Follow Referrals は、デフォルトでは有効です。

「Referrals in the Active Directory Authentication Provider」(http://docs.oracle.com/cd/E17904_01/web.1111/e13707/atn.htm#BABFHHGE)を参照してください。

Account Reconciliation Management

次元またはプロファイルの表示

問題: Account Reconciliation Management 次元またはプロファイルが FDMEE から表示されません。

解決策: wlsConfigARM.bat スクリプト(Linux の場合は wlsConfigARM.sh)を実行します:

1. FDMEE サービスと WebLogic 管理サーバーが実行中であることを確認します。
2. EPM_ORACLE_HOME/EPMSysstem11R1/products/FinancialDataQuality/bin の下の wls-ARM.properties を開きます。
3. ユーザー固有の WebLogic の userName、password および adminServerURL を変更し、ファイルを保存します。
4. コマンド・ライン・プロンプトを開きます。

5. Linux および Windows の両方で、EPM_ORACLE_HOME が環境変数として設定されていることを確認してください。
6. ディレクトリを EPM_ORACLE_HOME/EPMSysystem11R1/products/FinancialDataQuality/bin に変更します。
7. 同じコマンド・ライン・プロンプトから、wlsConfigARM.bat (Linux の場合は wlsConfigARM.sh) を実行します。
8. スクリプトが正常に実行されたことを確認してから、FDMEE サービスと WebLogic 管理サーバーを再起動します。

ソースの初期化

問題: FDMEE からのソースの初期化が失敗します。

解決策:

- FDMEE のシステム設定を確認して、エージェントおよびリポジトリ情報が正しいことを確認します。
- ODI トポロジのソースの物理スキーマ設定を確認します:
 - 「接続のテスト」をクリックして、物理ソース・データ・サーバーから物理接続をテストします。
 - 物理スキーマ定義から、次の例のように有効なスキーマが「スキーマ」メニューから選択されていることを確認します

StuckThreadMax エラー

問題: Account Reconciliation Management が「構成された時間 (StuckThreadMaxTime)」を示すメッセージでタイムアウトします。

解決策: 次の手順に従って、「スタック・スレッド最大時間」設定の値を大きくします:

1. WebLogic コンソールにログオンします。
2. 「環境」、「サーバー」の順に選択して、「スタック・スレッド最大時間」設定の値を大きくする管理対象サーバーの名前をクリックします。
3. 「構成」、「チューニング」の順に選択します。
4. 必要に応じて、「スタック・スレッド最大時間」および「スタック・スレッド・タイマー間隔」設定を編集します。

ヒント: 詳細は、「スタック・スレッド最大時間」の右側の「詳細情報」をクリックできます。

ODI シナリオ

問題: Oracle Data Integrator(ODI)シナリオが起動しますが、手順が実行されません。

この条件は、表のロックの問題を示す場合があります。

解決策: FDMEE を再起動します。問題が解決しない場合、ODI マスター・リポジトリのデータベースを再起動します。

Profitability and Cost Management

Profitability and Cost Management 接続タイプを使用した問題の解決

デフォルトで、Profitability and Cost Management は Essbase への接続に埋込みモードを使用します。Provider Services を使用している場合、Provider Services モードは Oracle Essbase キューブの配置中に多くの TCP ポートを使用します。この状況が原因で、Profitability and Cost Management のログ・ファイルにネットワーク・エラーが表示される場合があります。

接続タイプの埋込みモードへの変更

Oracle Hyperion Provider Services 接続タイプの使用時にネットワーク・エラーが発生する場合、接続タイプを埋込みモードに切り替え、キューブを再配置してください。

▶ 接続タイプを埋込みモードに設定するには:

- 1 Oracle Hyperion Profitability and Cost Management で、「タスク領域」から「モデルの管理」、「モデルの要約」の順に選択します。
- 2 「モデルの要約」画面で、「モデル・レベルのプリファレンス」タブを選択します。
- 3 「Essbase 接続情報」の下で、「接続タイプ」ドロップダウン・リストから「埋込み」を選択します。
- 4 「保存」をクリックします。

Disclosure Management

問題: Microsoft Word および Excel で Oracle Hyperion Disclosure Management アドインを使用できません。

この問題は、Microsoft Office のインストール時に Microsoft Word および Excel に対して「.NET プログラミング サポート」を選択していない場合に発生します。

解決策: Microsoft Office に必要なプライマリ相互運用機能アセンブリ(PIA)がある場合は、Windows の「コントロールパネル」を開いて、Word および Excel の設定を変更します:

- 1 インストールされているプログラムのリストから「Microsoft Office」を選択し、「変更」をクリックします。
- 2 「機能の追加/削除」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 3 「インストール オプション」パネルで:

1. 「Microsoft Office Excel」をダブルクリックし、「.NET プログラミングサポート」の左側にある矢印をクリックして、「マイ コンピュータから実行」を選択します。
2. 「Microsoft Office Word」をダブルクリックし、「.NET プログラミングサポート」の左側にある矢印をクリックして、「マイ コンピュータから実行」を選択します。
3. 「続行」をクリックします。

PIA がない場合は、Microsoft Web サイトへのリンクの 1 つを使用して、使用している Microsoft Office バージョンに PIA をインストールします:

- Office 2003: <http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?FamilyID=3c9a983a-ac14-4125-8ba0-d36d67e0f4ad>
- Office 2007: <http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?FamilyID=59DAEBAA-BED4-4282-A28C-B864D8BFA513>

この章の内容

FDM	159
FDME	163
Data Relationship Management	164

FDM

サブトピック

- FDM アップグレード
- Shared Services への登録
- Financial Management の構成
- Oracle クライアント/プロバイダ・データベースの接続
- データベース・ユーザー ID またはパスワード
- ユーザー認証
- 一括挿入
- Active-X コンポーネントのエラー
- アプリケーション作成時のアクセス・エラー
- 64 ビット Windows での新規 FDM アプリケーションの作成の失敗

FDM アップグレード

アップグレードに関する一般的な情報は、Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide の EPM System 製品のアップグレードに関する項を参照してください。

問題: 旧リリースから FDM をアップグレードする際、旧リリースのアプリケーション・データを保持する必要があります。

解決策: スキーマ更新ユーティリティを使用してアプリケーションをアップグレードします。新しい場所にデータを複製した場合、アプリケーションを追加するように求められます。追加した各アプリケーションについて、複製した FDM データ・フォルダとデータベース情報を指定します。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide のアプリケーションのアップグレードに関する項を参照してください。

Shared Services への登録

問題: Shared Services への FDM の登録が失敗し、構成ログ・ファイルに次のエラーが表示されます:

```
com.hyperion.cis.config.CmsRegistrationUtil, ERROR, Authentication failed:  
com.hyperion.interop.lib.OperationFailedException: Unable to Authenticate. Unable to  
Authenticate
```

解決策: FDM と Shared Services サーバーの日時を同期化します。

Shared Services の登録処理は SSO トークンを使用し、認証の許可に正確な日時スタンプを必要とします。たとえば、FDM と Shared Services サーバーの日付が 1 日違うと(タイムゾーンの違いは除く)、Shared Services は古くなった CSS トークンを拒否するため、認証が失敗します。

Financial Management の構成

問題: 次のエラー・メッセージが表示されます: サーバー/クラスタが正しく構成されていません。クラスタまたはサーバーの接続を再構成してください。

解決策: FDM アプリケーション・サーバーで登録されている Financial Management クラスタを参照するように Workbench のマシン・プロファイルを更新します。プロファイルでは、ターゲット・システム・サーバーまたはクラスタの設定が Oracle Hyperion Financial Management の設定と一致する必要があります。一致しない場合、通信できません。

Oracle クライアント/プロバイダ・データベースの接続

問題: 「ORA-12154: TNS; サービス名を解決できませんでした。」というエラー・メッセージが表示されます。

解決策: 未解決の Oracle の問題を修正し、tnsnames.ora で Oracle サービス名を解決できることを確認します。

注: tnsnames.ora のすべての値では、大文字と小文字が識別されます。

データベース・ユーザー ID またはパスワード

問題: FDM にログオンすると、「ORA-12154: TNS; サービス名を解決できませんでした」というエラー・メッセージが表示されます。

解決策: 次の手順を行います:

1. UDL ファイルを作成し、データベース接続の詳細を入力して接続をテストし、マシンがデータベース・サーバーと通信できることを確認します。
2. FDM データベースとして Oracle を使用している場合は、Oracle Provider for OLE DB を含んだ Windows Interfaces を持つ Oracle クライアントが、FDM アプリ

ケーション・サーバー、および Workbench クライアントを経由して FDM にアクセスするすべてのサーバーにインストールされていることを確認します。

ユーザー認証

問題: マップ、ステージの検証、ステージのエクスポートまたはテーブルの制御時に、「ユーザーを認証できませんでした」というエラー・メッセージが表示されます。

解決策: アプリケーションの統合設定を修正します。

▶ 統合設定を修正するには:

- 1 Workbench を起動します。
- 2 「アダプタ」タブで、「ターゲット・システム・アダプタ」を展開します。
- 3 システム全体のアダプタとして設定されているか、FDM の場所に割り当てられている「HFM アダプタ」を展開します。
- 4 マシン・プロファイルを開きます。
- 5 グローバル ID が存在する場合は、ユーザーのパスワードが正しいことを確認します。
- 6 ユーザーがターゲット・システム・アプリケーションとアプリケーション・メタデータへのアクセスに必要なセキュリティ・レベルを持っていることを確認します。

一括挿入

問題: 次のようなエラー・メッセージが表示されます: ファイル '\\servername\shared foldername\application foldername\Inbox\filename.fmt' を開けないため、一括挿入できませんでした。オペレーティング・システム・エラー・コード 5 (見つからないエラー)

解決策: 次の手順を行います:

1. SQL Server を確認して、MSSQLServer サービスを実行しているユーザーを確認します。ユーザー・アカウントがローカルである場合、これをドメインに変更し、ユーザーに読取り共有権限を与え、アプリケーション・フォルダ \\servername\shared foldername\application foldername への NTFS を読み取ります。
2. SQL Server Enterprise Manager を起動し、データベースを作成したユーザーに一括挿入の管理者の役割が与えられていることを確認します。

Active-X コンポーネントのエラー

問題: ActiveX コンポーネントがオブジェクトを作成できないことを示すエラー・メッセージが表示されます。

解決策: 次の条件が満たされていることを確認します:

- FDM アプリケーション・パス\- Microsoft Excel が FDM Web アプリケーション層にインストールされています。FDM サーバーは、スキーマの更新、仕訳、マルチロード、テンプレート、グリッドのエクスポートなどの多くの機能で Excel を必要とします。

アプリケーション作成時のアクセス・エラー

問題: ワークベンチ・クライアント経由で FDM アプリケーションを作成しようとすると、「パス/ファイル・アクセス・エラー」というメッセージが表示されます。

解決策: FDMData フォルダを更新し、FDM サービスのアカウント ID にフル・コントロールを割り当てます。

64 ビット Windows での新規 FDM アプリケーションの作成の失敗

問題: FDM ワークベンチ Win32 クライアントを使用して新しいアプリケーションを作成する際、「エラー: ログインにはデータベース・ユーザー ID とパスワードが必要です!」というエラーが返されます。

このエラーは、データベース構成ページに表示される情報が正しくないか無効になった場合に返されます。このエラー・メッセージは、32 ビットの Oracle Database Client が 64 ビットの Windows マシンにインストールされていないときにも返される場合があります。

解決策: 64 ビットの Windows で Oracle ソフトウェアを使用する場合:

1. 32 ビットの Oracle Database Client を 64 ビット・マシンにインストールします。
2. 32 ビットのクライアントを使用して再構成してから、サーバーを再起動します。

適切なデータベース・プロバイダには(a) ワークベンチ Win32 クライアント・マシンにインストールされている Oracle Provider for OLE DB と、(b) Microsoft OLE DB Provider for SQL Server があります。

Oracle Hyperion Financial Data Quality Management がワークベンチ・クライアントを介して正常にデータベースに接続するためには、これらのプロバイダがユーザーのシステム上に存在する必要があります。64 ビット Windows では、32 ビットおよび 64 ビットの Oracle ソフトウェアが個別にインストールされて個別に使用されます。64 ビットの Oracle ソフトウェアは、32 ビットの Oracle ソフトウェアがインストールされているかどうかを認識しません。両方とも 64 ビット Windows プラットフォームにインストールされている場合は、個別に動作します。

FDMEE

サブトピック

- データ・ロード・プロセスのトラブルシューティングに関する一般的なガイドライン
- データ・ルールにアクセスできない
- FDMEE が EPM Workspace で使用できない

データ・ロード・プロセスのトラブルシューティングに関する一般的なガイドライン

データ・ロード・プロセスをトラブルシューティングするには:

「プロセスの詳細」ページから開始します。「Show log」リンクには、データ・ロードの手順の詳細が示されます。「システム設定」の「ログ・レベル」を設定できます。細分度は1が最も低く、5は最も高くなります。「ODIセッションID」リンクをクリックすると、ODIセッション・ログがXML形式で提供されます。

データ・ルールにアクセスできない

問題: このリリースにアップグレードした後、リリース 11.1.1.3 で実行されなかったデータ・ルールにアクセスできません。

これは、アップグレード中にシナリオ次元のデフォルト値を指定しなかった場合に発生します。

解決策: アクセスできないルールを再作成します。

FDMEE が EPM Workspace で使用できない

問題: FDMEE と WebLogic が異なるマシンにある分散環境では、FDMEE が EPM Workspace で使用できません。Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace で、「ナビゲート」、「管理」、「データ管理」の順に選択すると、メニューには「\${ERPI}」と表示されます。

この問題は、以下のいずれかの条件下で発生します:

- aif.ear が FDMEE サーバーにコピーされません。
- aif.ear ファイルが、当該環境の WebLogic サーバー上に存在しません。

aif.ear ファイルは、WebLogic と同じマシンになければなりません。

解決策: Oracle Hyperion Financial Data Quality Management Enterprise Edition を WebLogic 管理サーバー・マシンにインストールして、Web アプリケーションを再配置します。

Data Relationship Management

サブトピック

- [Web クライアントへのアクセス](#)
- [初期化の失敗](#)
- [JVM 作成エラー](#)
- [無効なクラスパス・ルート](#)
- [Data Relationship Management サーバーの起動](#)
- [アップグレード時のエラー・メッセージ](#)

Web クライアントへのアクセス

問題: Windows 2008 64 ビット・プラットフォームに Data Relationship Management をインストールした後、Web クライアントにアクセスしようとするすると次のエラーが発生します:

```
HTTP Error 500.19 - Internal Server Error The requested page cannot be accessed because the related configuration data for the page is invalid.
```

解決策: IIS 構成ファイル(C:/Windows/System32/inetsrv/config/applicationHost.config)で、以下のセクションにある 2 か所の Deny を Allow に置換します。

```
<configuration>
<configSections>
<sectionGroup name="system.webServer">
  <section name="handlers" overrideModeDefault="    Deny    " />
  <name="modules" allowDefinition="MachineToApplication"
  overrideModeDefault="    Deny
  " />
```

初期化の失敗

問題: 「AuthMode」システム・プリファレンスが「混在」または「CSS」に設定されている場合、Data Relationship Management が初期化に失敗したというメッセージが表示されます。

解決策: 次の条件が満たされていることを確認します:

- CSS ブリッジ・ホスト・フィールドで指定されたホストと通信できるようにファイアウォール・ソフトウェアが構成されています。
- JVM パスが、C:\Oracle\Middleware\EPMSys11R1\common\JRE\Sun\1.6.0\bin\server\jvm.dll などの有効な JVM DLL に設定されています。
- DRM コンソールの「CSS」タブの「Oracle インスタンス」フィールドが c:\Oracle\Middleware\user_projects\epmsystem1 などの有効な Oracle インスタンスに設定されています。
- 「クラス・パス」タブに、次のような必須 JAR ファイルが含まれています:

- C:\Oracle\Middleware\EPMSys11R1\products
 \DataRelationshipManagement\server\jar\awbutil.jar
- C:\Oracle\Middleware\EPMSys11R1\products
 \DataRelationshipManagement\server\jar\cassecurity.jar
- C:\Oracle\Middleware\EPMSys11R1\common\jlib\11.1.2.
 0\epm_j2se.jar
- C:\Oracle\Middleware\wlserver_10.3\server\lib\wlsqserver.jar
- データベースが Shared Services インスタンス用に実行されています。
- CSS が有効なホスト・マシンで Oracle DRM サーバー・プロセス・サービスが実行されています。
- CSS Bridge ホストが実行中です。
- CSS Bridge サービスが実行中です。

JVM 作成エラー

問題: 「JVMを作成できません」というエラーが表示されます。

解決策:

- CSS を使用可能にし、サービスを再起動します。
 1. 「Common Security Services」ページの「CSS ブリッジの使用可能」をチェックします。
 2. サービスを再起動します。
- Java パスが正しいことを確認します。
- Oracle Hyperion Shared Services がローカルにインストールされていることを確認します。

無効なクラスパス・ルート

問題: イベント・ログに無効なクラスパス・ルートのエラーが含まれています。

解決策: サーバーを再起動します。

Data Relationship Management サーバーの起動

問題: Oracle Data Relationship Management、サーバーの起動に失敗します。

解決策:

- クラスパスまたはシステム・パスを変更した場合、コンピュータを再起動します。
- 認証モードを内部に変更し、サーバーを再起動します。正常に起動した場合、問題は CSS に関連していることを示しています。
- イベント・ログのエラー・メッセージを確認します。

アップグレード時のエラー・メッセージ

問題: アップグレード中に次のエラー・メッセージが表示されます: 次のエラーが発生し、“Service Oracle Hyperion Data Relationship Management” のインストールに失敗しました: “システム・エラー。コード: 1073。指定されたサービスはすでに存在します。”

解決策: このメッセージを無視し、「OK」をクリックして、アップグレードを完了します。

索引

A - Z

Architect

- Architect 次元サーバーでの IIS の起動, 115
- インストールの失敗, 111
- サーバー Web サービスへのアクセス, 115
- サーバーのエラー, 115
- 次元ライブラリの表示, 114
- 次元ライブラリまたはアプリケーション・ライブラリへのアクセス, 114
- タスクの表示, 113
- ログオン, 112

BEx クエリーが使用不可、Web Analysis, 127

configtool.log, 17

configtool_err.log, 17

Data Relationship Management

- JVM を作成できない, 165
- 一般的な問題, 164
- 構成の問題, 164
- サーバーの起動の失敗, 165
- 無効なクラスパス・ルート, 165

Data Relationship Management ログ, 63

Disclosure Management アドイン, 157

EPM System インストーラ

- Solaris での抽出, 68
- 起動の失敗, 68
- フリーズ, 68

EPM System インストーラのシャットダウン, 66

EPM System インストーラ・ファイル, 66

EPM System コンフィグレータの起動, 72

Essbase

- アプリケーション作成の失敗, 100
- サーバー-クライアント接続, 122
- サーバーの起動の失敗, 121
- トラブルシューティング, 117
- フェイルオーバー, 122
- ロードの失敗、Interactive Reporting Studio, 125

Essbase Administration Services

- Planning との併用, 130
- Shared Services に対するセキュリティのリフレッシュ, 100
- Shared Services の使用, 100

Essbase Integration Services

- OLAP またはデータ・ソース接続の失敗, 123

Essbase サーバー

- 起動の失敗, 121

FDMEEE ログ, 62

Financial Close Management

- 電子メール通知
- 言語設定, 145
- 設定の確認, 147
- 無効な XID エラー・メッセージ, 147

Financial Data Management

- Oracle/クライアント・プロバイダの接続, 160
- 一括挿入を実行できない, 161
- 一般的な問題, 159
- 構成の問題, 160
- ユーザー認証, 161

Financial Management

- EnableServerLocking オプション, 138
- JRF WebServices Asynchronous サービス, 139
- Shared Services との併用、トラブルシューティング, 100
- SQL Server 接続の失敗, 136
- Workspace からのアクセス, 134
- アクセス, 134
- 一般的な問題, 133
- インストールの権限, 138
- インストールの失敗, 136
- エラー・メッセージ, 100
- 大きなデータまたはファイルのロード, 138
- 接続の失敗, 135
- トラブルシューティング, 106

- ロギング, 107
- ログオンの失敗, 134
- Financial Management ログ, 62
- Financial Performance Management アプリケーション
 - Architect、次元ライブラリまたはアプリケーション・ライブラリへのアクセス, 114
 - Architect の一般的な問題, 109
 - Financial Management の一般的な問題, 133
 - Planning と Administration Services, 130
 - TCP/IP を使用した SQL Server 接続の確立, 137
 - 接続問題のトラブルシューティング, 135
 - パフォーマンスの問題, 130
- Financial Performance Management アプリケーションのログ, 57
- Financial Reporting Studio
 - ランタイムおよび ActiveX エラー, 126
- Interactive Reporting Studio
 - Essbase ロードの失敗, 125
 - Oracle Net 接続, 126
 - Oracle procedures、処理, 126
 - データの切り捨て, 126
- Interactive Reporting ログ, 55
- JAR ファイルがない, 74
- Jave ヒープ・サイズの変更, 72
- JVM エラー、UNIX, 83
- JVM を作成できない、Data Relationship Management, 165
- MetaLink 3, 19
- My Oracle Support, 19
- ODL
 - 構成ファイル, 32
 - 変更, 34
- Oracle Database に接続できない、Financial Data Management, 160
- Oracle HTTP Server
 - インストールの失敗, 67
 - インストールの前提条件, 66
- Oracle HTTP Server の構成
 - ewallet.p12 ファイル, 72
- Oracle procedure、処理, 126
- Performance Management Architect
 - 一般的な問題, 109
- Performance Scorecard ログ, 59
- Planning
 - Essbase Administration Services, 130
- 一般的な問題, 130
- Reporting and Analysis Framework
 - サービスおよびサーブレットのログ・ファイル, 52
- Reporting and Analysis
 - トラブルシューティング, 105
 - モジュールへのアクセスの失敗, 88
- Reporting and Analysis Framework ログ, 51
- Reporting and Analysis ログ, 51, 54
- Shared Services
 - Financial Management との併用, 100
 - アプリケーション・サーバー起動の失敗, 98
 - 外部のユーザー・ディレクトリ, 96
 - 製品へのアクセス・エラー, 98
 - 統合サービスと Administration Services の併用, 100
 - トラブルシューティング, 91
 - トラブルシューティング・ユーティリティ, 94
 - ユーザー・プロビジョニング、トラブルシューティング, 95
 - ユーザー・プロビジョニング・ベスト・プラクティス, 95
 - リモート診断エージェントの実行, 91
 - レジストリ・エディタ, 94
 - ログイン・パフォーマンス、向上, 95
 - ロード・パフォーマンス、増大, 97
- Shared Services データベースの初回構成, 73
- Smart View
 - インストール方法, 116
 - 共有接続, 116
- SQL Server、TCP/IP を使用した接続の確立, 137
- Strategic Finance ログ, 61
- UNIX JVM エラー, 83
- Web Analysis
 - BEx クエリーが使用不可, 127
 - SAP BW を使用したキューブの取得の失敗, 127
- Web Analysis ログ, 55
- WebLogic, 78
- WebSphere, 78
- Web サーバーの構成
 - AIX での失敗, 81
- Workspace
 - Financial Management へのアクセス, 134
 - ログオン・セキュリティ権限, 113

ziplogs ユーティリティ, 19

あ行

アクセス

Architect 次元サーバー Web サービス, 115

Financial Management アプリケーション, 134

Reporting and Analysis のモジュール, 88

Shared Services から製品へ, 98

アップグレード, 16, 43, 86

アップグレードの問題, 70

アプリケーション・サーバー

起動の失敗、Shared Services, 98

アプリケーション・サーバーの配置

構成エラーなしの失敗, 76

アンインストール後のインストール, 69

一括挿入を実行できない、Financial Data

Management, 161

一般的な問題

Architect, 109

Data Relationship Management, 164

Financial Data Management, 159

Financial Management, 133

Planning, 130

ユーザー・ディレクトリと Shared Services,
96

インストール

Architect、失敗, 111

Financial Management、失敗, 136

Financial Management の権限, 138

検証, 17

エラー・メッセージ

Essbase Administration Services, 100

Financial Data Management, 160

Financial Management, 100

Interactive Reporting での Essbase ロード, 125

UNIX の JVM, 83

メモリー不足, 77

か行

外部のユーザー・ディレクトリ, 96

起動の失敗

Architect 次元サーバーでの IIS, 115

Essbase サーバー, 121

検証、インストールと構成, 17

構成

Data Relationship Management, 164

Financial Data Management, 160

一般的なヒント, 71

エラー・ログ, 17

検証, 17

例外、記録された, 17

さ行

サポート、アクセス, 20

サーバーの起動の失敗、Data Relationship

Management, 165

サービス

Architect プロセス・マネージャ、起動, 113

Windows、確認, 77

開始と再開, 77

サービスの開始, 77

サービスの再開, 77

システムの要件, 15

失敗

Architect 次元サーバーでの IIS の起動, 115

Architect 次元ライブラリ、表示, 114

Architect タスク、表示, 113

Data Relationship Management サーバーの起
動, 165

Hyperion EPMA サーバー・サービス、起動,
113

OLAP メタデータ・カタログまたはデータ・
ソースへの接続, 123

Oracle Procedure、処理, 126

Reporting and Analysis のモジュール、アクセ
ス, 88

Shared Services 起動、アプリケーション・
サーバー, 98

Workspace から Financial Management へのア
クセス, 134

アプリケーション・サーバーの配置, 76

ログイン、Financial Management, 134

製品がオフラインのときのパフォーマンスの低
下, 90

「製品の選択」パネル, 67

接続の失敗

Essbase クライアント-サーバー, 122

Financial Management, 135

OLAP メタデータ・カタログまたは外部デー
タ・ソース, 123, 136

Oracle NET, 126

全般、解決, 77

前提条件, 13

readme、確認, 16

インストール・ガイド、確認, 16
インストール、検証, 17
構成、検証, 17
システムの要件、適合, 15
ポート、回避, 16
リリースの互換性、検証, 16

た行

タイムアウト、リモート配置
リモート配置タイムアウト, 75
テクニカル・サポート, 20
トラブルシューティング
Financial Management について, 106
Reporting and Analysis, 105
トラブルシューティングについて, 13

な行

ナレッジ・ベース、My Oracle Support (MetaLink 3), 19

は行

配置
構成エラーなしの失敗, 76
プロビジョニング, 96
ベスト・プラクティス, 95
ポート
競合回避, 16

ま行

無効なクラスパス・ルート、Data Relationship Management, 165
メモリー・エラー, 77
メモリー不足エラー, 77

や行

ユーザー・ディレクトリ、Shared Services との
使用, 96
ユーザー認証、Financial Data Management, 161
ユーザー・プロビジョニング, 91
トラブルシューティング, 91, 95
ベスト・プラクティス, 95
ユーザーを認証できない、Financial Data
Management, 161
「ようこそ」パネルの警告メッセージ, 69

ら行

ライフサイクル管理
診断, 104
ランタイムおよび ActiveX エラー
Financial Reporting Studio, 126
リモート診断エージェント, 91
リリースの互換性, 16
ロギング・レベル
Planning の設定, 57
ロギング・レベル、Reporting and Analysis
Framework サービスに対して動的に変更, 53
ログ
Data Relationship Management, 63
EPM System ログの使用方法, 21
FDME, 62
Financial Data Management, 62
Financial Performance Management アプリケー
ション, 57
Interactive Reporting, 55
Performance Scorecard, 59
Reporting and Analysis, 51, 54
Strategic Finance, 61
Web Analysis, 55
アップグレード, 43
構成, 17
リモート・ロギングおよびローカル・ロギ
ング, 37
リモート・ロギング、バックアップ, 38
ログイン
Architect, 112
Financial Management, 134
Shared Services、パフォーマンスの向上, 95
Workspace, 113